

外国語学部 中国学科 (2010年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治	2学期	1	2	1
	小林 道彦	1年			
	家族を問う		1	2	
	閉講	1年			
	人間と文化	1学期	1	2	2
	神原 ゆうこ	1年			
	ことばの科学	2学期	1	2	3
	漆原 朗子	1年			
	国際学入門	2学期	1	2	4
	伊野 憲治	1年			
	教養としての平和学		1	2	
	閉講	1年			
	可能性としての歴史	2学期	2	2	5
	小林 道彦	2年			
	家族の再生		2	2	
	閉講	2年			
	文化と政治	2学期	2	2	6
	神原 ゆうこ	2年			
	言語と認知	2学期	2	2	7
漆原 朗子 他	2年				
共生社会論	2学期	2	2	8	
伊野 憲治	2年				
戦争と平和	2学期	2	2	9	
戸蒔 仁司	2年				
生活世界の哲学	1学期	1	2		
休講	1年				
共同体と身体	1学期	2	2		
閉講	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI	1学期	1	2	10
	寺田 千栄子	1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII	2学期	1	2	
	休講	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	11
	柴原 健太郎	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	12
	高西 敏正	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	13
	徳永 政夫	1年			
	フィジカル・ヘルスI	2学期	1	2	14
	高西 敏正	1年			
	フィジカル・ヘルスI	2学期	1	2	15
	柴原 健太郎	1年			
	フィジカル・ヘルスII	2学期	1	2	
	閉講	1年			
	自己管理論	1学期	1	2	16
	日高 京子 他	1年			
	キャリア・デザイン	1学期	1	2	17
	真鍋 和博	1年			
	キャリア・デザイン	1学期	1	2	18
	石川 敬之	1年			
キャリア・デザイン	1学期	1	2	19	
見館 好隆	1年				
コミュニケーションと思考法	2学期	1	2		
閉講	1年				
プロフェッショナルの仕事	1学期	2	2	20	
見館 好隆	2年				
大学論・学問論		1	2		
閉講	1年				
法律の読み方	2学期	1	2	21	
中村 英樹 他	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	社会調査	2学期	1	2	
	閉講	1年			
	統計を読む・統計をつくる		1	2	
	閉講	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	22
	黒田 次郎	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	
	休講	1年			
	フィジカル・エクササイズI (外種目)	1学期	1	1	23
	黒田 次郎	1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール)	1学期	1	1	
	休講	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	24
	梨羽 茂	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	25
	山本 浩二	1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ)	1学期	1	1	26
	下釜 純子	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	27
	梨羽 茂	1年			
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	28	
黒田 次郎	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)	2学期	1	1	29	
黒田 次郎	1年				
フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボー	2学期	1	1	30	
小幡 博基	1年				
フィジカル・エクササイズII (外種目)	2学期	1	1	31	
梨羽 茂	1年				
フィジカル・エクササイズII (ラケット種目)	2学期	1	1	32	
松田 晃二郎	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	33
	徳永 政夫	1年			
■教養演習科目	教養基礎演習I	1学期	1	2	34
	閉講	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	35
	閉講	1年			
	教養演習AI (防衛セミナー)	1学期	2	2	36
	休講	2年			
	教養演習AI (発達障がいセミナー)	1学期	2	2	37
	伊野 憲治	2年			
	教養演習AI	1学期	2	2	38
	小林 道彦	2年			
	教養演習AI	1学期	2	2	39
	稲月 正	2年			
	教養演習AI	1学期	2	2	40
	石川 敬之	2年			
	教養演習AII (文化論セミナー)	2学期	2	2	41
	神原 ゆうこ	2年			
教養演習AII (防衛セミナー)	集中	2	2	42	
休講	2年				
教養演習AII	2学期	2	2	43	
小林 道彦	2年				
教養演習AII	2学期	2	2	44	
稲月 正	2年				
教養演習AII	2学期	2	2	45	
石川 敬之	2年				
教養演習BI (防衛セミナー)	1学期	3	2	46	
休講	3年				
教養演習BI	1学期	3	2	47	
石川 敬之	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BII (防衛セミナー) 休講	集中	3	2	3年
	教養演習BII 石川 敬之	2学期	3	2	
	プロジェクト演習I 閉講	1学期	2	2	2年
	プロジェクト演習II 閉講	2学期	3	2	
	自然学のまなざし 竹川 大介 他	1学期	1	2	1年
	動物のみかた 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	
	地球の生いたち 閉講	2学期	1	2	1年
	自然史へのいざない 日高 京子 他	2学期	1	2	
くらしと化学 閉講	1学期	1	2	1年	
現代人のこころ 税田 慶昭 他	1学期	1	2		1年
数のたのしみ 閉講		1	2	1年	
私たちと宗教 閉講	2学期	1	2		1年
思想と現代 閉講	1学期	1	2	1年	
ものがたりと人間 閉講		1	2		1年
文化と表象 閉講	1学期	1	2	1年	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	言語とコミュニケーション	2学期	1	2	
	閉講	1年			
	芸術と人間	2学期	1	2	48
	真武 真喜子	1年			
	文学を読む	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	戦争と人間		1	2	
	閉講	1年			
	現代正義論	2学期	1	2	49
	重松 博之	1年			
	民主主義とは何か	2学期	1	2	50
	中井 遼	1年			
	人権論	1学期	1	2	51
	柳井 美枝	1年			
	ジェンダー論	1学期	1	2	52
	力武 由美	1年			
	障がい学	1学期	1	2	53
	伊野 憲治	1年			
	共生の作法	1学期	1	2	
	閉講	1年			
北九州学	2学期	1	2	54	
日高 京子 他	1年				
市民活動論	2学期	1	2	55	
西田 心平	1年				
企業と社会	2学期	1	2	56	
山下 剛	1年				
つながりの人間学	1学期	1	2	57	
石川 敬之	1年				
現代社会と倫理	1学期	1	2		
閉講	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代社会の諸問題	1学期	1	2	
	休講	1年			
	現代の国際情勢	1学期	1	2	58
	大平 剛 他	1年			
	国際社会論	1学期	1	2	59
	稲月 正	1年			
	国際紛争と国連	2学期	1	2	
	閉講	1年			
	民族・エスニシティ問題	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	開発と統治	2学期	1	2	
	閉講	1年			
	グローバル化する経済	1学期	1	2	60
	魏 芳 他	1年			
	テロリズム論	1学期	1	2	61
	戸蒔 仁司	1年			
	国際社会と日本	2学期	1	2	62
	阿部 容子 他	1年			
	歴史の読み方I	1学期	1	2	
	閉講	1年			
歴史の読み方II	1学期	1	2		
閉講	1年				
そのとき世界は	2学期	1	2		
閉講	1年				
戦後の日本経済	2学期	1	2	63	
土井 徹平	1年				
都市と農村の生活文化史		1	2		
閉講	1年				
もの与人間の歴史	1学期	1	2		
閉講	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	人物と時代の歴史	1学期	1	2	64
	閉講	1年			
	教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』)	2学期	1	2	64
	読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介	1年			
	教養特講II (現代社会とエシカル消費)	1学期	1	2	65
	大平 剛	1年			
	教養特講III	1学期	1	2	65
	休講	1年			
	教養特講IV	2学期	1	2	65
	休講	1年			
■教職関連科目	日本史	2学期	1	2	66
	古賀 康士	1年			
	西洋史	1学期	1	2	67
	疇谷 憲洋	1年			
	東洋史	2学期	1	2	68
	植松 慎悟	1年			
	社会学	1学期	1	2	69
	稲月 正	1年			
	人文地理学	2学期	1	2	70
	外戸保 大介	1年			
	土地地理学	1学期	1	2	71
	野井 英明	1年			
	地誌学	1学期	1	2	72
	外戸保 大介	1年			
日本国憲法	2学期	1	2	73	
中村 英樹	1年				
倫理学	2学期	1	2	74	
清水 満	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング	2学期	1	2	75
	中尾 泰士	1年			

外国語学部 中国学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報表現	2学期	2	2		
	閉講	2年				
	プログラミング基礎		2	2		
	閉講	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	中国語7 (総合)	1学期	2	1	76	
	武井 満幹	2 - 1				
	中国語7 (総合)	1学期	2	1	77	
	武井 満幹	2 - 2				
	中国語7 (総合)	1学期	2	1	78	
	武井 満幹	2 - 3				
	中国語8 (総合)	2学期	2	1	79	
	武井 満幹	2 - 1				
	中国語8 (総合)	2学期	2	1	80	
	武井 満幹	2 - 2				
	中国語8 (総合)	2学期	2	1	81	
	武井 満幹	2 - 3				
	■第二外国語	英語I (中 1-A)	1学期	1	1	82
		杉山 智子	中 1 - A			
英語I (中 1-B)		1学期	1	1	83	
木梨 安子		中 1 - B				
英語II (中 1-A)		2学期	1	1	84	
木梨 安子		中 1 - A				
英語II (中 1-B)		2学期	1	1	85	
杉山 智子		中 1 - B				
英語III (中 1-A)		1学期	1	1	86	
デビット・ニール・マクレラン		中 1 - A				
英語III (中 1-B)	1学期	1	1	87		
ホセ・クルーズ	中 1 - B					
英語IV (中 1-A)	2学期	1	1	88		
ダンカン・ウォトリイ	中 1 - A					

外国語学部 中国学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	英語IV (中 1 - B) デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	89
		中 1 - B			
	英語V (中 2 年) 安丸 雅子	1学期	2	1	90
		中 2 年			
	英語VI (中 2 年) 船方 浩子	2学期	2	1	91
		中 2 年			
	英語VII (中 2 年) デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	92
		中 2 年			
	英語VIII (中 2 年) 葛西 宏信	2学期	2	1	93
		中 2 年			
	英語IX (英中国済営比人律政 3 年) 休講	1学期	3	1	94
		英中国済営比人律政 3 年			
	英語X (英中国済営比人律政 3 年) 杉山 智子	2学期	3	1	94
		英中国済営比人律政 3 年			
	英語XI (英中国済営比人律政 3 年) 休講	1学期	3	1	95
		英中国済営比人律政 3 年			
	英語XII (英中国済営比人律政 3 年) ダニー・ミン	2学期	3	1	95
		英中国済営比人律政 3 年			
朝鮮語I (1 - d) 金 光子	1学期	1	1	96	
	英中比人 1 年				
朝鮮語II (1 - d) 金 光子	2学期	1	1	97	
	英中比人 1 年				
朝鮮語III (1 - d) 金 光子	1学期	1	1	98	
	英中比人 1 年				
朝鮮語IV (1 - d) 金 光子	2学期	1	1	99	
	英中比人 1 年				
朝鮮語V 金 貞愛	1学期	2	1	100	
	英中 2 年				
朝鮮語VI 金 貞愛	2学期	2	1	101	
	英中 2 年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語VII	1学期	2	1	102
	安 滌珠	英中 2 年			
	朝鮮語VIII	2学期	2	1	103
	安 滌珠	英中 2 年			
	上級朝鮮語I	1学期	3	1	104
	安 滌珠	英中国済営比人 3 年			
	上級朝鮮語II	2学期	3	1	105
	安 滌珠	英中国済営比人 3 年			
	上級朝鮮語III	1学期	3	1	106
	金 貞愛	英中国済営比人 3 年			
	上級朝鮮語IV	2学期	3	1	107
	金 貞愛	英中国済営比人 3 年			
	ロシア語I	1学期	1	1	108
	芳之内 雄二	英中国済営比人律政 1 年			
	ロシア語II	2学期	1	1	109
	芳之内 雄二	英中国済営比人律政 1 年			
	ロシア語III	1学期	1	1	110
	ナタリア・シエスタコーワ	英中国済営比人律政 1 年			
	ロシア語IV	2学期	1	1	111
	ナタリア・シエスタコーワ	英中国済営比人律政 1 年			
ロシア語V	1学期	2	1	112	
芳之内 雄二	英中国済営比人律政 2 年				
ロシア語VI	2学期	2	1	113	
芳之内 雄二	英中国済営比人律政 2 年				
ロシア語VII	1学期	2	1	114	
ナタリア・シエスタコーワ	英中国済営比人律政 2 年				
ロシア語VIII	2学期	2	1	115	
ナタリア・シエスタコーワ	英中国済営比人律政 2 年				
ドイツ語I	1学期	1	1	116	
山下 哲雄	英中国 1 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語II 山下 哲雄	2学期	1	1	117
		英中国 1年			
	ドイツ語III 山下 哲雄	1学期	1	1	118
		英中国 1年			
	ドイツ語IV 山下 哲雄	2学期	1	1	119
		英中国 1年			
	ドイツ語V 山下 哲雄	1学期	2	1	120
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VI 山下 哲雄	2学期	2	1	121
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VII 山下 哲雄	1学期	2	1	122
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VIII 山下 哲雄	2学期	2	1	123
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語I 山下 広一	1学期	1	1	124
		英中国 1年			
	フランス語II 山下 広一	2学期	1	1	125
		英中国 1年			
	フランス語III 坂田 由紀	1学期	1	1	126
		英中国 1年			
フランス語IV 坂田 由紀	2学期	1	1	127	
	英中国 1年				
フランス語V 坂田 由紀	1学期	2	1	128	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語VI 坂田 由紀	2学期	2	1	129	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語VII 小野 菜都美	1学期	2	1	130	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語VIII 小野 菜都美	2学期	2	1	131	
	英中国済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語I 富田 広樹	1学期	1	1	132
		中国済営比人律政 1年			
	スペイン語II 富田 広樹	2学期	1	1	133
		中国済営比人律政 1年			
	スペイン語III 辻 博子	1学期	1	1	134
		中国済営人律政 1年			
	スペイン語IV 辻 博子	2学期	1	1	135
		中国済営人律政 1年			
スペイン語V 青木 文夫	1学期	2	1	136	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VI 青木 文夫	2学期	2	1	137	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VII 辻 博子	1学期	2	1	138	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VIII 辻 博子	2学期	2	1	139	
	英中国済営比人律政 2年				
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語初級会話B I 葉 言材	1学期	1	1	140
		1年			
	中国語初級会話B I 葉 言材	1学期	1	1	141
		1年			
	中国語初級会話B I 葉 言材	1学期	1	1	142
		1年			
	中国語初級会話B II 葉 言材	2学期	1	1	143
		1年			
中国語初級会話B II 葉 言材	2学期	1	1	144	
	1年				
中国語初級会話B II 葉 言材	2学期	1	1	145	
	1年				
中国語中級会話A I 張 景珊	1学期	2	1	146	
	2 - 1				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語中級会話AⅠ	1学期	2	1	147
	張 景珊	2 - 2			
	中国語中級会話AⅠ	1学期	2	1	148
	張 景珊	2 - 3			
	中国語中級会話AⅡ	2学期	2	1	149
	張 景珊	2 - 1			
	中国語中級会話AⅡ	2学期	2	1	150
	張 景珊	2 - 2			
	中国語中級会話AⅡ	2学期	2	1	151
	張 景珊	2 - 3			
	中国語中級会話BⅠ	1学期	2	1	152
	王 曉芳	2 - 1			
	中国語中級会話BⅠ	1学期	2	1	153
	王 曉芳	2 - 2			
	中国語中級会話BⅠ	1学期	2	1	154
	王 曉芳	2 - 3			
	中国語中級会話BⅡ	2学期	2	1	155
	王 曉芳	2 - 1			
	中国語中級会話BⅡ	2学期	2	1	156
	王 曉芳	2 - 2			
中国語中級会話BⅡ	2学期	2	1	157	
王 曉芳	2 - 3				
中国語講読Ⅰ	鳥谷 まゆみ	1学期	2	2	158
		2 - 1			
中国語講読Ⅰ	鳥谷 まゆみ	1学期	2	2	159
		2 - 2			
中国語講読Ⅰ	鳥谷 まゆみ	1学期	2	2	160
		2 - 3			
中国語講読Ⅱ	鳥谷 まゆみ	2学期	2	2	161
		2 - 1			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■専攻外国語	中国語講読II 鳥谷 まゆみ	2学期	2	2	162
		2 - 2			
	中国語講読II 鳥谷 まゆみ	2学期	2	2	163
		2 - 3			
	中国語リスニングI 馬 叢慧	1学期	2	1	164
		2 - 1			
	中国語リスニングI 馬 叢慧	1学期	2	1	165
		2 - 2			
	中国語リスニングI 馬 叢慧	1学期	2	1	166
		2 - 3			
	中国語リスニングII 馬 叢慧	2学期	2	1	167
		2 - 1			
	中国語リスニングII 馬 叢慧	2学期	2	1	168
		2 - 2			
中国語リスニングII 馬 叢慧	2学期	2	1	169	
	2 - 3				
■演習科目	研究演習 1 A 鳥谷 まゆみ	1学期	3	2	170
		3年			
	研究演習 2 A 武井 満幹	1学期	3	2	171
		3年			
	研究演習 3 A 平田 直子	1学期	3	2	172
		3年			
	研究演習 4 A 白石 麻保	1学期	3	2	173
		3年			
研究演習 7 A 堀地 明	1学期	3	2	174	
	3年				
研究演習 8 A 山本 進	1学期	3	2	175	
	3年				
研究演習 9 A 葉 言材	1学期	3	2	176	
	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習科目	研究演習 1 B	2学期	3	2	177
	鳥谷 まゆみ	3年			
	研究演習 2 B	2学期	3	2	178
	武井 満幹	3年			
	研究演習 3 B	2学期	3	2	179
	平田 直子	3年			
	研究演習 4 B	2学期	3	2	180
	白石 麻保	3年			
	研究演習 7 B	2学期	3	2	181
	堀地 明	3年			
	研究演習 8 B	2学期	3	2	182
	山本 進	3年			
	研究演習 9 B	2学期	3	2	183
	葉 言材	3年			
	卒業研究演習 1 A	1学期	4	2	184
	鳥谷 まゆみ	4年			
	卒業研究演習 2 A	1学期	4	2	185
	武井 満幹	4年			
	卒業研究演習 3 A	1学期	4	2	186
	平田 直子	4年			
卒業研究演習 4 A	1学期	4	2	187	
白石 麻保	4年				
卒業研究演習 7 A	1学期	4	2	188	
堀地 明	4年				
卒業研究演習 8 A	1学期	4	2	189	
山本 進	4年				
卒業研究演習 9 A	1学期	4	2	190	
葉 言材	4年				
卒業研究演習 1 B	2学期	4	2	191	
鳥谷 まゆみ	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目 ■演習科目	卒業研究演習 2 B 武井 満幹	2学期	4	2	192
		4年			
	卒業研究演習 3 B 平田 直子	2学期	4	2	193
		4年			
	卒業研究演習 4 B 白石 麻保	2学期	4	2	194
		4年			
	卒業研究演習 7 B 堀地 明	2学期	4	2	195
	4年				
卒業研究演習 8 B 山本 進	2学期	4	2	196	
	4年				
卒業研究演習 9 B 葉 言材	2学期	4	2	197	
	4年				
■選択科目 ■専門科目	中国文学史I 与小田 隆一	1学期	2	2	198
		2年			
	中国文学史II 与小田 隆一	2学期	2	2	199
		2年			
	時事中国語講読I 白石 麻保	1学期	2	2	200
		2年			
	時事中国語講読II 白石 麻保	2学期	2	2	201
		2年			
	中国の政治外交I 下野 寿子	1学期	2	2	202
		2年			
中国の政治外交II 下野 寿子	2学期	2	2	203	
	2年				
中国文化論 板谷 秀子	1学期	2	2	204	
	2年				
日中文化比較 板谷 秀子	2学期	2	2	205	
	2年				
比較中国思想 檜崎 洋一郎	2学期	2	2	206	
	2年				

外国語学部 中国学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■専門科目	中国社会経済史I 山本 進	1学期	2	2	207
		2年			
	中国社会経済史II 山本 進	2学期	2	2	208
		2年			
	中国経済論I 白石 麻保	1学期	2	2	209
		2年			
	中国経済論II 白石 麻保	2学期	2	2	210
		2年			
	漢文学 榎崎 洋一郎	1学期	2	2	211
		2年			
	文学作品講読A 堀地 明	1学期	3	2	212
		3年			
	文学作品講読B 堀地 明	2学期	3	2	213
		3年			
	中国歴史社会研究I 山本 進	1学期	3	2	214
		3年			
	中国歴史社会研究II 山本 進	2学期	3	2	215
		3年			
ビジネス中国語A 唐 雋	1学期	3	2	216	
	3年				
ビジネス中国語B 唐 雋	2学期	3	2	217	
	3年				
中国の社会 植松 慎悟	2学期	3	2	218	
	3年				
東アジア経済論 柳 学洙	2学期	3	2	219	
	3年				
■関連科目	地域研究入門 (朝鮮半島) 李 東俊	2学期	2	2	220
		2年			
	地域研究入門 (東南アジア) 篠崎 香織	2学期	2	2	221
		2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■関連科目	英米文化概論I 久木 尚志	1学期	2	2	222
		2年			
	英米文化概論II 中野 博文 他	2学期	2	2	223
		2年			
	国際関係論I 阿部 容子	1学期	3	2	224
		3年			
	国際関係論II 大平 剛	2学期	3	2	225
		3年			
	アメリカの政治I 中野 博文	1学期	3	2	226
		3年			
	アメリカの政治II 中野 博文	2学期	3	2	227
		3年			
	アメリカの政治III 閉講		3	2	
		3年			
	アメリカの政治IV 閉講		3	2	
		3年			
	東アジア地域秩序論I 金 鳳珍	1学期	3	2	228
		3年			
	東アジア地域秩序論II 金 鳳珍	2学期	3	2	229
		3年			
国際経済論I 休講	1学期	3	2		
	3年				
国際経済論II 休講	2学期	3	2		
	3年				
アジア地域統合論 篠崎 香織	2学期	3	2	230	
	3年				
韓国・北朝鮮の政治外交I 李 東俊	1学期	3	2	231	
	3年				
韓国・北朝鮮の政治外交II 李 東俊	2学期	3	2	232	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目 ■関連科目	国際法I 二宮 正人	1学期	3	2	233
	3年				
	国際法II 二宮 正人	2学期	3	2	234
	3年				
	世界経済論I 柳 学洙	2学期	3	2	235
	3年				
	世界経済論II 柳 学洙	2学期	3	2	236
	3年				
	途上国開発論 三宅 博之	1学期	4	2	237
	4年				
	アメリカ経済 山崎 好裕	2学期	4	2	238
	4年				
	アメリカの社会I 北 美幸	1学期	4	2	239
	4年				
	アメリカの社会II 北 美幸	2学期	4	2	240
	4年				
国際貿易論I 水戸 康夫	1学期	4	2	241	
4年					
国際貿易論II 水戸 康夫	2学期	4	2	242	
4年					
■基礎教育科目	地域研究入門 (中国) 下野 寿子	1学期	1	2	243
	1年				
	中国近現代史I 堀地 明	1学期	1	2	244
	1年				
	中国近現代史II 堀地 明	2学期	1	2	245
	1年				
	中国語学概論I (読替科目 : 中国語学概論I) 一木 達彦	1学期	1	2	269
	1年				
	中国語学概論II (読替科目 : 中国語学概論II) 一木 達彦	2学期	1	2	270
	1年				

外国語学部 中国学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目 ■基礎教育科目	中国語音声学I	1学期	1	2	246
	平田 直子	1年			
	中国語音声学II	2学期	1	2	247
	平田 直子	1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	248
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	249
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	2学期	1	2	250
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	2学期	1	2	251
		1年			
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	252
		2年			
文化と政治 休講	2学期	2	2		
	2年				
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	253	
	2年				
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	254	
	2年				
生活世界の哲学 休講	2学期	1	2		
	1年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	255
		1年			
	メンタル・ヘルスII 寺田 千栄子	2学期	1	2	256
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 山本 浩二	1学期	1	2	257
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 閉講	2学期	1	2	
	1年				
社会調査 閉講	2学期	1	2		
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 閉講	1学期	1	1		
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	258
	山本 浩二	1年			
■テーマ科目	地球の生いたち	2学期	1	2	
	閉講	1年			
	現代人のこころ	1学期	1	2	259
	福田 恭介	1年			
	思想と現代	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	文学を読む	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	現代正義論	2学期	1	2	260
	重松 博之	1年			
	民主主義とは何か	2学期	1	2	
	休講	1年			
	人権論	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	ジェンダー論	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	障がい学	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	市民活動論	2学期	1	2	261
	西田 心平	1年			
	企業と社会	2学期	1	2	
	休講	1年			
	現代社会と倫理	1学期	1	2	
	閉講	1年			
	現代の国際情勢	1学期	1	2	
	休講	1年			
	国際社会論	1学期	1	2	262
	稲月 正	1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	国際紛争と国連 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	開発と統治 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	グローバル化する経済 魏 芳 他	1学期	1	2	263
		1年			
	国際社会と日本 中野 博文 他	2学期	1	2	264
		1年			
	歴史の読み方I 閉講	1学期	1	2	
		1年			
歴史の読み方II 閉講	1学期	1	2		
	1年				
そのとき世界は 閉講	2学期	1	2		
	1年				
人物と時代の歴史 閉講	1学期	1	2		
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	2学期	1	2	265
		1年			
	データ処理 中尾 泰士	1学期	1	2	266
		1年			
情報表現 閉講	1学期	2	2		
	2年				
■専門教育科目 ■選択科目 ■関連科目	国際経済論I 魏 芳	1学期	3	2	267
		3年			
	国際経済論II 魏 芳	2学期	3	2	268
		3年			
	国際法I 休講	1学期	3	2	
		3年			
	国際法II 休講	2学期	3	2	
		3年			

外国語学部 中国学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目 ■関連科目	途上国開発論	2学期	4	2	
	休講	4年			
	アメリカ経済		4	2	
	閉講	4年			
	国際貿易論I		4	2	
	閉講	4年			
	国際貿易論II		4	2	
	閉講	4年			

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説していきます。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、2020年、税別1,300円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法定定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。ノートをしっかりとって下さい。最新の研究成果を用いて講義を進めます。

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません(観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

- 第I部 文化の基礎としての家族
- 第2回 伝統的家族の多様性
- 第3回 家族観の変容と近代
- 第4回 親族という認識
- 第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第6回 ジェンダーと伝統文化
- 第7回 文化相対主義の考え方
- 第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義
- 第9回 中間テスト

- 第II部 文化と世界観
- 第10回 儀礼と世界観
- 第11回 宗教とコミュニティ
- 第12回 さまざまな信仰心
- 第13回 不幸への対処としての呪術
- 第14回 中間テストの解説
- 第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。
※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・Moodleで適宜ミニ課題を出します。締め切りまでに提出してください。
- ・講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

人間と文化【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、提出課題の不正、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要な時に努力すればすぐ入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人の特性を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係、SDGs10 不平等をなくす

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』 (朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。¥2700 + 税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
○スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生みだす本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点(人間関係)【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていたらだろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 学説の整理【15年戦争】【ファシズム】【ナチズム】【共産主義】【軍国主義】
- 3回 政党内閣と満州事変【「満州国」】【関東軍】【五・一五事件】
- 4回 軍部の台頭【二・二六事件】【国体明徴運動】【高橋是清】
- 5回 日中戦争【近衛文麿】【大政翼賛会】
- 6回 ヒトラーの台頭【暴力】【国民社会主義ドイツ労働者党】
- 7回 日独伊ソの体制比較【政軍関係】【全体主義】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【オーストリア併合】【ミュンヘン会談】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【ホロコースト】
- 10回 日独伊三国軍事同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】【日米交渉】
- 12回 太平洋戦争1【東条英機】【戦時体制】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】【日ソ戦争】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに高校教科書(「日本史」「世界史」)レベルの文献の該当箇所に目を通しておいて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。ノートはしっかりとって下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を買う必要はありません。また、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません(観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

- 第2回 文化を「知る」とはどういうことか？
- 第3回 ナショナリズムと文化
- 第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第5回 植民地主義と文化
- 第6回 マイノリティ文化の保護と多文化主義
- 第7回 多文化主義の可能性と限界
- 第8回 分類の不明瞭さ①：国籍・人種
- 第9回 分類の不明瞭さ②：移動する人々
- 第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

- 第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化
- 第12回 身体の近代化
- 第13回 医療の持つ権力と文化
- 第14回 中間テストの解説
- 第15回 癒しの多様性

※出張や学生大会などで休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールは初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題40%、期末テスト60%

そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として適宜評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

文化と政治 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ Moodleで適宜課題を課します。締め切りまでに提出してください。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。第一回目の講義を欠席しても履修はできるかもしれませんが、不利になることは覚悟してください。
- ・ 講義に出席していても、テスト（またはレポート）の評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、提出課題における不正、授業態度が目には余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に生成文法理論と認知言語学)、認知科学、心理学、生物学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。
まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)

- 第1回 序・講義の進め方・担当者紹介(漆原・全員)
- 第2回 ことばはどのように身につけられるのか(言語習得)(漆原)
- 第3回 ことばはどのように処理されるのか(言語脳内処理・失文法)(漆原)
- 第4回 コミュニケーション行動の初期発達過程(税田)
- 第5回 発達の障害とコミュニケーション(税田)
- 第6回 コミュニケーションにおける発達支援(税田)
- 第7回 ヒューマンエラー(松田)
- 第8回 アフォーダンスとシグニファイアー(松田)
- 第9回 脳と心のなりたち(脳のはたらきを支配する遺伝子)(日高)
- 第10回 ことばはなぜヒトに特有なのか(言語と遺伝子)(日高)
- 第11回 モノの見方と言語表現(認知意味論)(木山)
- 第12回 比喩は文学表現か(メタファー)(木山)
- 第13回 文は語彙の足し算か(構文文法論)(木山)
- 第14回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第15回 まとめ:担当者によるパネル・ディスカッション(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員の課題を提出しない限り評価不能(-)となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習: 担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていききたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

戦争と平和【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類、よくある誤解】
- 第4回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【大人】
- 第6回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第7回 精神と行動の異変(2)【精神疾患】
- 第8回 大学生とメンタルヘルス(1)【ボディメイクと摂食障害】
- 第9回 大学生とメンタルヘルス(2)【アディクション】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、授業のリアクションをMoode上で入力することを求めます。また、授業で身につけた知識を活用し、自身の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)【主体性】
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)【体脂肪】
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的効果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的効果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことと考えます。

スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。また、特別講師としておがわ整骨院院長の小川博久先生からテーピングを中心に授業を行います。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウエイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 50%
 レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと
 授業後は文献等で再度復習しましょう。

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
 気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
 授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
 実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身体活動をとらして理論と実践を学びます。
 積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

健康・安全・衛生

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)【主体性】
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)【体脂肪】
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的効果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的効果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自律した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらう。それらの講義を聴講して、以下の3点の習得を目指す。

- ・生活に必要な考え方や自己管理に関する学びを具体的に表現することができる。
- ・今後の人生に必要な考え方を理解し、自分の言葉で表現することができる。
- ・授業に参加して感じた疑問点を表明することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 社会人のマナー
- 3回 選挙・まちづくり
- 4回 災害への備え
- 5回 犯罪防止
- 6回 自転車の交通安全
- 7回 消費者トラブル
- 8回 大学生とお金
- 9回 身体の健康
- 10回 心の健康
- 11回 ハラスメント防止
- 12回 消防と救急
- 13回 薬物乱用
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ほぼ毎回実施する課題レポート ... 70%
 授業中に行う質疑応答 ... 10%
 まとめレポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて学習し、提出用のレポートを準備しておくこと。業終了後には、授業中に学んだことを振り返り、課題レポートを締め切りに間に合うように提出すること。

履修上の注意 /Remarks

授業の開始前と終了後に出席確認を行うので、ICカード学生証を毎回忘れずに持参し、指示に従って正しく読み取り操作を行うこと。また、入学式で配布される資料や北九州市立大学Webサイト上の「学生生活・就職」のページを参照すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらう。このため、以下の注意点に留意すること。
- ① 第1回目の授業に出席すること。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、第1回目の授業中に説明する。
 - ② 遅刻することなく、毎回授業に出席すること。授業計画や授業内容等は、外部講師の都合により、変更になる可能性がある。その場合は、その都度授業中に説明する。
 - ③ 質問や相談等は、指定する担当教員に行うこと。多くの外部講師が担当する授業になるため、担当教員が代表して窓口となる。毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が目指す考え方を習得して欲しい。

自己管理論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

大学生生活をより充実させるための授業です。その為に、自己理解やコミュニケーションスキルの向上が必要と考えます。また、大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①全体ガイダンス 【講師紹介、全体計画、授業形式紹介等】
- ②キャリアデザインがなぜ必要なのか? 【トークセッション】
- ③SDGs 【これからの社会のキーワードSDGsの本質】
- ④わたしのキャリアI 【企業で働く】
- ⑤わたしのキャリアII 【個人で働く】
- ⑥わたしのキャリアIII 【自分で事業を興す】
- ⑦これからの日本社会をとりまく環境 【このままだと日本はどうなる】
- ⑧自分の頭で考えよう 【言われたことをやるだけの時代ではない】
- ⑨見える資産・見えない資産 【自分ブランディング】
- ⑩ビジネスについて知ろう 【ビジネスとは何か】
- ⑪キャリアの転機とエンプロイアビリティ【社会が求める人物とは】
- ⑫リーダーシップの重要性 【全員がリーダーシップを発揮する】
- ⑬自分の価値観を知ろう 【自分の強み、弱みなど】
- ⑭将来のキャリアを考えよう 【自己分析と未来分析】
- ⑮全体まとめ、ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60%
 授業内のレポート...20%
 まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下を守ってください。

- ①遅刻厳禁②飲食禁③作業時間は守る④授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑤グループワークでは積極的に発言する⑥周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑦分からないことは聞く⑧授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

月曜2限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて、いま何を考え、何をすべきかということを考える授業を行います。皆さんの将来は未来に独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは皆さんの「キャリア」に直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。特に、本授業では、ゲストスピーカーによる講演会を数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また、様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 充実した大学生活（新生活）のためのリスクマネジメント
- 3回 大学の「使い方」
- 4回 「理想」の大学生活・・・なんてあるの？
- 5回 ゲストスピーカーによるご講演（世界の果てで子どもを救う）
- 6回 大学での勉強、どうする？
- 7回 健康的な大学生活（セルフカウンセリングについて）
- 8回 自分の可能性を広げるために
- 9回 「自分」はだれか？
- 10回 かわいい子には「旅」をさせる・・・べき？
- 11回 ゲストスピーカーによるご講演（国際キャリアのつくりかた）
- 12回 変わりつつある世界の中でどう生きるか
- 13回 ゲストスピーカーによるご講演（他者のために生きる人生）
- 14回 ようこそ先輩
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業内レポート50% 課題レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後は、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。関連する映像資料や書籍・新聞記事などを紹介しますので、次回の講義までに各自確認し、自習をして授業に臨んでください（自習時間の目安は60分程度）。

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

<目的>

本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2018年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第1位、「主体性」が10年連続で第2位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をぐるぐる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」・・・具体的には大学生の本分である学びの深堀、つまり、自分が興味を持つこととことごとく時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればよい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをぐるぐる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・入職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアチェンジは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

<進め方>

まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、毎回の小レポートなどで「経験を振り返る力」を身に付けます。そして、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、これらの4つの力を高めつつ、夏休みには身の丈を超えた経験に挑戦し、「答えのない課題を解決する力」を身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント（ボランティア活動やプロジェクト活動、海外インターンシップなど）の情報を提供しますので、楽しみにしてください。

<目標>

経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。そして、アイデンティティ（自分らしさの探求）やコミュニケーション能力、課題解決力などを身に付け、社会が必要とする創造力を発揮できる基礎を身につけること。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料をMoodleにアップしますので、印刷して精読し、持参してください。特に事前課題が含まれる時には、その課題をこなしていないと授業に参加できませんので注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考に使ってください。

以下書籍はその参考例です。

- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガーH.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.克蘭ボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- スブツニ子!『はみだすか』宝島社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュー スコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 中原淳、見館好隆ほか『人材開発研究大全』東京大学出版会

キャリア・デザイン【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・社会で求められる力
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 幅広い視野・柔軟性を身に付けるには(先輩登壇)
- 4回 コミュニケーション技法①傾聴
- 5回 コミュニケーション技法②アサーション
- 6回 コミュニケーション技法③リーダーシップ
- 7回 働くということ(社会人登壇)
- 8回 新しい仕事を創る(ジョブスタ)
- 9回 ケーススタディワーク(酒造メーカーの改革)
- 10回 自分らしい就職活動をするには(卒業生・内定者登壇)
- 11回 企業団体研究(面白い企業団体を知る)
- 12回 計画された偶発性(幸運は準備とチャンスの交差点)
- 13回 ロールモデルインタビュー(社会人取材する)
- 14回 ロールモデルインタビュー(先輩取材する)
- 15回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(予習・復習・メンバーからの相互評価)・・・78%
インタビューレポート・・・13%
最終レポート・・・9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- <通常授業> Moodleに予習・相互評価・復習を掲示しますので毎週締め切りまでに行ってください。
- <インタビューレポート> 提示する課題をもとに、各自インタビューを実施し、指定するフォーマットで、期日までに提出してください。
- <最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、授業最終回に持参してください。

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】

※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【履修者調整について】

※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません(私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティア活動などが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。よって、できるだけ早くそれらに挑戦してほしいのですが、そもそも「何がやりたいのか?」がわからなければ、探すことも選ぶこともできません。ゆえに、大学時代に寝食を忘れて取り組むテーマを見出してもらう仕組みと、そのために必要な力が獲得できるように設計しました。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事および販売促進、新規事業立ち上げなどの経験を持つ教員が、企業団体で働く上で必要とされる能力や、その能力の獲得の仕方について、アクティブ・ラーニング形式で運営。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命、SDGs 11.まちづくり、SDGs 15.環境保全
実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立ち頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。授業の流れは以下です。

1. 企業団体の概要 (現在および今後の方向性について)
2. 仕事の概要 (大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい)
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ (学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス)

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します (用意できない時もあります)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です (敬称略・順不同)。

<2019年度> サイバーエージェント、RKB毎日放送、テイクアンドギヴ・ニーズ (T&G)、サニーサイドアップ、チームラボキッズ (teamLab)、労働基準監督官 (厚生労働省)、カモ井加工紙 (mt)、大創産業 (ダイソー)、西日本旅客鉄道 (JR西日本)、スノーピーク、全日本空輸 (ANA)、本田技研工業 (HONDA)、ヤッホーブルーイング、サマンサタバサジャパンリミテッド

<2018年度> ファミリア、日本航空 (JAL)、メルカリ、ペンシル、ソニー、ヤフー、アサヒ飲料、三菱電機、星野リゾート・マネジメント、日立製作所、北九州市役所、マツダ、JTB、宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

<2017年度> サニーサイドアップ、ジinz (JINS)、JR九州エージェンシー、全日本空輸 (ANA)、日本放送協会 (NHK)、キャメル珈琲 (カルディ・コーヒーファーム)、ヒルトン福岡シーホーク、モスフードサービス (モスバーガー)、日本たばこ産業 (JT)、ZOZO、京セラ、北九州市役所、西日本新聞社、近畿日本ツーリスト九州

<2016年度> 電通九州、studio-L、フジドリームエアラインズ、アイリスオーヤマ、福岡県庁、力の源ホールディングス (一風堂)、ジャパネットホールディングス、ワークスアプリケーションズ、福岡地方検察庁、エイチ・アイ・エス、西日本シティ銀行、星野リゾート・マネジメント、ウエザーニューズ、旭酒造 (獺祭)

<2015年度> ムーンスター、日本放送協会 (NHK)、ホテルオークラ福岡、宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、九州旅客鉄道 (JR九州)、旭化成ホームズ、福岡銀行、タカギ、ソニーリージョナルセールス、阪急交通社、博報堂プロダクツ、日本航空 (JAL)、ニトリ、北九州市

<2014年度> ストライプインターナショナル (earth music & ecologyなど)、北九州市、ジinz (JINS)、東急ハンズ、ハウステンボス、朝日新聞社、日本アクセス、東京海上日動火災保険、JTB九州、アイ・ケイ・ケイ、伊藤忠エネクス、山口フィナンシャルグループ (山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行)、再春館製薬所、全日本空輸 (ANA)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習と復習...91%
最終レポート...9%

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前にMoodleにて、期日までに登壇企業団体の事前学習（予習）を提出すること。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。授業終了後にMoodleにて、期日までに授業の振り返り（復習）を提出すること。

履修上の注意 /Remarks

履修者人数の確認を行いますので必ず第1回は出席するようにしてください。

やむを得ない事由で欠席する場合はメールで事前にお知らせください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話しいただくようにコーディネートする。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科, 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 藤田 尚 / 法律学科
 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業では、法律学科の教員たちが、社会のさまざまな問題を法というフィルターを通して眺めるとどのように捉えられるのかについて講義する。この講義を通じて、法というツールを用いて問題を読み解く技能を獲得することが本授業の目的であり、あわせて、発見したさまざまな課題への対処を考える思考・判断力、そしてそれらを活かして公共的な問題を解決していく自律的行動力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。
 各回、必要な資料があれば配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各種の法学入門書など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 なぜ憲法を改正できないのか? - 憲法改正の位相
- 第3回 民泊は違法? - 法律と条例の関係
- 第4回 肉1ポンドを担保にしてお金を借りることは許されるか? - ヴェニスの証人に見る同意
- 第5回 少年犯罪は増えている? - 少年犯罪と近年の動向
- 第6回 人間はAIとどのように向き合うべきか? - AIと法
- 第7回 電気は「物」か? - 物に関する法
- 第8回 女性にだけ再婚禁止期間が原則100日も設けられているのはなぜか? - 民法における再婚禁止期間と嫡出推定の関係
- 第9回 タヌキはゴルフ場開発を止められるか - 令和ぼんぼこ狸合戦 - 当事者能力
- 第10回 会社の経営について決定権を持つのは誰か?
- 第11回 年金って私たちはもらえないんでしょ? - 公的年金の役割
- 第12回 受信料は払わなければいけない? - 放送と法
- 第13回 自分の臓器を売る自由? - 自己所有権の限界
- 第14回 裁判しない法専門家 - ADRとそのねらい
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末のレポートによる (100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のテーマについて事前に情報を収集し、自分の考えを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回 ~ 13回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 14回 スキル獲得テスト②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

担当者名 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サービス・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
 基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 梨羽 茂
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ゲーム法の解説
- 9回～14回 ゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
 本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 下釜 純子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業内で紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 体作り運動
- 3回 体幹トレーニング
- 4回 体のバランスを意識した運動 (ストレッチ・バランスボール)
- 5回 ヨガ
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 10回 バスケットボール (1) ドリブル、パス、シュートの基礎練習
- 11回 バスケットボール (2) ルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【トレーニング】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。

運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <ソフトバレーボール>
- 12回 ゲーム(2) <ソフトバレーボール>
- 13回 ゲーム(3) <バレーボール>
- 14回 ゲーム(4) <バレーボール>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。

授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

男女混合および生涯スポーツを意図したソフトバレーボールと競技性を重視したバレーボールの両種目を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
 基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (ラケット種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 晃二郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、ラケット種目の実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 テニスの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 サーブ・ボレー練習
- 4回 テニスゲーム①
- 5回 テニスゲーム②・スキル獲得テスト
- 6回 バドミントン基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー・ドロップ)
- 7回 バドミントンルール説明・ゲーム①
- 8回 バドミントンゲーム②
- 9回 バドミントンゲーム③
- 10回 スキル確認テスト
- 11回 卓球基本練習 (サーブ・ラリー継続)
- 12回 卓球ルール説明・ゲーム①
- 13回 卓球ゲーム②
- 14回 スキル獲得テスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
 本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。
 テニスは基本的グラウンドで実施します。雨の日は室内で実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

また、フェアプレーも学びます。

教科書 /Textbooks

授業時間に必要な資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

時速400キロ・フェアプレー

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

発達障害に対する理解を深め、支援の在り方について考える。特に自閉スペクトラム症（障害）を取り上げ、演習・グループワーク等もとりまぜながら、共生のあり方を探っていく。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、評価方法の説明【オリエンテーション】
- 第2回：発達障害とは【発達障害】
- 第3回：自閉スペクトラム症（障害）とは【自閉スペクトラム症】
- 第4回：自閉スペクトラム症の理解・対応に関する歴史の変遷【歴史の変遷】
- 第5回：障害の捉え方【文化モデル】
- 第6回：支援の基本（1）障害特性の理解【障害特性】
- 第7回：支援の基本（2）構造化の意味と意義【構造化】
- 第8回：構造化演習【演習】
- 第9回：支援の基本（3）コミュニケーション支援の基本的考え方【コミュニケーション支援】
- 第10回：応用行動分析学的アプローチ【応用行動分析学】
- 第11回：支援の基本（4）行動問題への対応【行動問題、氷山モデル】
- 第12回：支援の基本（5）自己認知・理解プログラム【自己認知・理解】
- 第13回：支援の基本（6）余暇支援、QOLの充実【QOL】
- 第14回：支援計画の立て方【支援計画】
- 第15回：まとめ～共生社会から共活社会へむけて～【共生社会、共活社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

議論、演習等における参加（貢献）度30%。
課題への対応70%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマとなることに関してインターネット等で調べてくる。
事後学習としては、学習内容をその都度まとめてみる。

履修上の注意 /Remarks

1年時に「障がい学」を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3. 健康と福祉」「16. 平和と公正」「17. パートナーシップ」

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制における軍部とはいかなる存在だったのか？なぜ、昭和になると軍部は台頭したのか？日本近代史最大の問題点についてみんなで議論していきましょう。

「演習」方式の授業なので、文献読解能力を訓練し、レジユメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実際に学んでいきます。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助にしたいと思います。「レジユメ」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。受講者数にもよりますが、毎回2名程度の受講生に報告してもらいます。15回の演習で、一冊完読をめざします。

教科書 /Textbooks

小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、税別1300円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読（明治期を中心に読んでいきます）。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジユメの内容...50%
無断欠席やレジユメの未提出は1回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、テキストの該当ページを全員読んでおくこと。担当者はレジユメを作成すること。
「演習」終了後は議論の内容を念頭に置きながら、再度テキストを読むこと。

履修上の注意 /Remarks

受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最新の研究成果を用いてみなさんと楽しく議論できればと思います。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この演習では、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。具体的には、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- (5) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会、2018年、¥1080
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房、2009年、¥2700
- その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 「テーマ」について考える
 - 第3回 「問い」を立てる
 - 第4回 論証戦略を考える（方法を検討する）
 - 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
 - 第6回 情報を集める2 - CiNii, 国立国会図書館（NDL-OPAC）、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
 - 第7回 論文検討会1
 - 第8回 文献レビュー（テキスト批評）1
 - 第9回 文献レビュー（テキスト批評）2
 - 第10回 文献レビュー（テキスト批評）3
 - 第11回 文献レビュー（テキスト批評）4
 - 第12回 文献レビュー（テキスト批評）5
 - 第13回 文献レビュー（テキスト批評）6
 - 第14回 文献レビュー（テキスト批評）7
 - 第15回 まとめ
- なお、順番・内容は変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。）

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1) 文献概要、(2) 内容要約、(3) 論点整理、(4) 議論等を記したレジユメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回
オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回
振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

教養演習 AI 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 AII (文化論セミナー) 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

文化と社会について学びながらレポートの書き方を向上させる：
本演習では、世界の文化と社会に関する文献を入り口として、そこから各自の関心に応じて「自分でテーマを設定し、学びを深め、レポートを書く」ということを目指します。コミュニケーション能力のうち、建設的に議論する能力と、自分の主張を説得的に文章で表現する能力を伸ばします。今学期は、「あたりまえを疑う」ことをテーマに最近の文化研究の成果に関して知識を深めつつ、勉強の仕方も学ぶことを目指します。

教科書 /Textbooks

松村圭一郎ほか編 2019 『文化人類学の思考法』世界思想社 (1800円+税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐渡島紗織2015 『レポート・論文をよくする「書き直し」ガイド』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学における本の読みかた・探しかた
- 第2回 議論のしかた
- 第3回 論点の広げ方
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論①
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論②
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論③
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論④
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告①
- 第10回 レポートの書きかた
- 第11回 レポート構想報告②
- 第12回 レポート構想報告③
- 第13回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップ
- 第15回 これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を変更することもある。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業における取りくみ50%
ただし、報告者の無断欠席や課題の未提出は厳しく減点します

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジユメの作成、レポートの執筆にはそれなりに時間がかかります。計画的かつ真摯に課題に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 履修を希望する学生は第1回から出席してください。受講者数調整がなければ修正申告終了までは履修登録できますが、欠席分の授業内容を自習する努力が必要となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当者の講義(「異文化理解の基礎」「現代社会の文化」)や「アカデミック・スキルズ2」を履修したことがあると、理解が深まります。
- ・ 文献のタイトルには「文化人類学」とありますが、思考を柔軟にしながら世界について考えたい学生は、学部を問わず歓迎します。

キーワード /Keywords

文化、文化人類学

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制における軍部とはいかなる存在だったのか？なぜ、昭和になると軍部は台頭したのか？日本近代史最大の問題点についてみんなで議論していきましょう。

「演習」方式の授業なので、文献読解能力を訓練し、レジユメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実際に学んでいきます。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたいと思います。「レジユメ」とは、わかりやすく言うと、この場合は本の内容の要約です。受講者数にもよりますが、毎回2名程度の受講生に報告してもらいます。15回の演習で一冊完読をめざします。

教科書 /Textbooks

小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、税別1300円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2 - 14回 『近代日本の軍部 1868 - 1945』の輪読（昭和史を中心に読んでいきます）。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%、報告とレジユメの内容...50%

無断欠席やレジユメの未提出は1回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、テキストの該当ページを全員読んでおくこと。担当者はレジユメを作成すること。

「演習」終了後は議論の内容を念頭に置きながら、再度テキストを再読すること。

履修上の注意 /Remarks

受講希望者が11名以上の場合には受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学教員生活最後の「演習」です。最新の研究成果を用いてみなさんと楽しく議論できればと思います。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この演習では、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法・調査によって論文（レポート）を書くことをめざす。具体的には、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- (5) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会、2018年、¥1080
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房、2009年、¥2700
- その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 「テーマ」について考える
 - 第3～4回 「問い」を立てる
 - 第5～6回 情報を集める1
 - 第7～10回 文献レビュー
 - 第11回～14回 質的調査の方法
 - 第15回 まとめ
- なお、順番・内容は変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジユメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回
オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回
振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター (421Lab.) に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』 1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』 NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
 - 第1講 自然学で学ぶこと
 - 第2講 今西錦司という人がいた
 - 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
 - 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
 - 第5講 自然学における日常実践
 - 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
 - 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
 - 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
 - 第9講 近世の旅にみる自然の名所性
 - 第10講 古民家に求める日本の故郷
 - 第11講 山村の伝統的景観と村落社会
 - 第12講 森林風景の認識と森林文化論
 - 第13講 自然を言語化する曖昧さ
 - 第14講 木の文化の伝統と変容
 - 第15講 9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する …… 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える …… 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く …… 20%
- (岩松)
- 小レポート…25% 試験…25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

自然学のまなざし【昼】

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 到津の森公園、文学部 竹川大介
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけでなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科, 柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

北九州市は化石の一大産地であり、多様で豊かな自然に囲まれた都市であるとともに、古くより交通の要衝として栄えてきた。本科目は北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）を舞台とした、学芸員および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義である。多様な生命をはぐくんできた地球の歴史、そして人間の歴史に関する基礎的な知識を身に付けながら、学芸員や教員のそれぞれの分野の最先端のトピックについて学習し、北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学ぶ。

到達目標

- ・ 自然史・歴史のテーマに関連して基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめて表現できる。
- ・ 関連のテーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通り。()内は担当者。【 】はキーワード

- 1回 ガイダンス(日高・柳川)
- 博物館1日目
- 2回 北九州市周辺の地質と化石の多様性について(太田)【化石】【ジオパーク】
- 3回 生命の起源を探る(柳川)【極限環境】【微生物】
- 4回 館内見学(1回目)
- 5回 多様性生物学と進化(養島)【進化】【生物多様性】
- 6回 海産無脊椎動物の行動生態学(竹下)【無脊椎動物】
- 博物館2日目
- 7回 植物を鍵とした生物間相互作用(真鍋)【共生】【食物連鎖】
- 8回 博物館を楽しむ：いのちのたびで知る脊椎動物進化(大橋)【恐竜】【脊椎動物】
- 9回 館内見学(2回目)
- 10回 鳥類の生態と進化(中原)【適応放散】【進化的軍拡競争】
- 11回 人新世におけるヒトと植物の関係(河野)【人新世】【科学史】
- 博物館3日目
- 12回 フィールドの地学と歴史を楽しむ(野井)【地学と歴史のかかわり】
- 13回 歴史に関するトピック①
- 14回 歴史に関するトピック②
- 15回 まとめ(日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 積極的な授業への参加(授業ごとのMoodle課題提出) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前にキーワードについて自分で調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回目(ガイダンス)に欠席した場合は受講を認めない。ひびきのキャンパスでは10月2日に予定しているので掲示物に注意すること。
- ・ 第2回～第15回の授業は10月17日(土)、10月31日(土)、11月14日(土)の3回に分けて博物館で行う予定(いずれも終日)。
- ・ 博物館までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田中 信利 / 人間関係学科
松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第3回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第4回 他者への気づき【アニマシー、バイオロジカルモーション】
- 第5回 他者の心を読む【共感、心の理論】・まとめと小テスト
- 第6回 青年期の自己観・他者観【エゴグラムテスト】【自己意識】
- 第7回 青年期の親子関係【独自性】【結合性】
- 第8回 青年期の友人関係【チャムシップ】【ふれあい恐怖】
- 第9回 青年期の自己の問題【アイデンティティ】【同一性危機】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 脳とこころ1【脳とこころの関係】
- 第12回 脳とこころ2【心身の発達と脳】
- 第13回 脳とこころ3【薬物の影響】
- 第14回 脳とこころ4【睡眠の影響】
- 第15回 まとめと小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(複数の小テストまたはレポート)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を探り、また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって広がる同時代の動きにつなげてみる。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」
美術手帖編集部 美術出版社 2009
- 「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒデキ アートダイバー 2014
- 「現代アートとは何か」河出書房新社 2018年 著・小崎哲哉

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者 戦争画と現代美術における反戦・反原発主題の作家と作品
2. ボルタンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. ジャン・デュビュッフエ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 中平卓馬 なぜ植物図鑑か
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口圭介 原発に抗する
12. 奈良美智 コドモの領分
13. ヤノベケンジ 失われた遊園地
14. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻込むプロジェクト
15. 会田誠 道程

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 2回 50%
レポート(学期末) 40%
日常の取組(出欠など) 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

アートと社会、プロジェクト

現代正義論【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回扱うテーマについて、自ら予習しておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず、社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度と思われていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間において適切な集会的決定を下すことが可能となるはずだ。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる；ことが求められる

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マクファースン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波新書
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中公新書
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波新書
- シュンペーター, J (大野訳 2016) 『資本主義, 社会主義, 民主主義』日経BP
- ダール, R. (高畠・前田訳) 『ポリアーキー』岩波文庫
- 杉田敦 (2001) 『デモクラシーの論じ方-論争の政治』筑摩書房
- 久保慶一, 末近浩太, 高橋百合子 (2016) 『比較政治学の考え方』有斐閣

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカーの投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(cf司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護するシュンペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての直接民主主義論や人民民主主義論・ポピュリズム(と後者がはらむ危険性)について知る。民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。V-dem指標を知り、たとえば民主主義の場から女性を排除してきたスイスは民主主義国だろうかといった問題を検討する。
4. 民主主義という意思決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうることを把握し、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想であることをその内容を含めて理解する。ただしCJTに対しては批判も存在し、オルタナティブとして結果の不確実性に伴う「支配の最小化」こそが重要だとする議論を紹介する。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにかんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。また、現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. ここまでの授業の整理として第1-7回の授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。
9. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても事例を含めて理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として第9 - 13回の授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験:100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので、それらについては事前予習してくる事。
さらに、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

【重要】2019年度より本科目の担当者が変わっております。履修に際しては本シラバスの情報のみを参考にしてください。また、本シラバスをご覧になった学生諸君は、本科目の履修を検討している学友とも本情報の共有に努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません(それがない人を想定して授業を行います)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史、中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので、各自で能力を維持してください。

キーワード /Keywords

SDG 5. ジェンダー平等 SDGs 16. 平和と公正

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なもの」というイメージを抱くかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無自覚的に他者の「人権」を侵害していることがある。

本講義では「人権」についての基本的な概念、現存する人権課題やその社会的背景を考察した上で、自分にとっての人権とは何か、我々の社会が抱える人権課題とは何かについて共に考えていきたい。

目標

1. 人権とは何かについての基本的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深める。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----------------|--|
| 1 「自分にとっての人権課題」 | オリエンテーション / 自分と人権との関わりを考える。 |
| 2 「人権とは何か」 | 人権とは何かについて解説する。 |
| 3 「人権獲得の歴史」 | 人権獲得の歴史について近代革命を中心に解説する。 |
| 4 「世界人権宣言と人権条約」 | 世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。 |
| 5 「平和と人権」 | 戦争・平和についての解説。 |
| 6 「ハンセン病について」 | ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の状況を解説する。 |
| 7 「教育と人権～識字問題」 | 読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。 |
| 8 「教育と人権～夜間中学」 | 教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。 |
| 9 「部落問題について」 | 現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。 |
| 10 「部落問題について」 | 当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。 |
| 11 「在日外国人と人権課題」 | 在日外国人の現状と人権課題を解説する。 |
| 12 「在日コリアンについて」 | 在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する |
| 13 「障害者と人権」 | 障害者の立場からみる人権課題を知る。 |
| 14 「アジアの人権状況」 | アジアの人権問題を事例を交えて解説する。 |
| 15 「まとめ」 | 現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。 |

※ 5～14については、状況により順序が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞、テレビ、ネットなどを通して、私たちの社会で起きている様々な人権課題に関心を持ち、毎回のコメント用紙に反映させることが望ましい。
- ・ 教科書及び配布資料は熟読すること。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。

出席率7割を満した学生のみ前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。

代筆や代返などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分と他者の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

「SDGs 4 質の高い教育を」「SDGs 10 不平等をなくす」「SDGs 16 平和と公正」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振られるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『改訂版 ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2017）2,640円
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー—戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学—村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー—映画『ロダンが愛したカミーユ・クロードル』【制度】
- 4回 男もつらいよ—アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて—週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える—あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔—学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー—津村記久子作・小説『ボトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業—エレン・グラスゴウ作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み—ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権—絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学—女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場—国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV—TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

ジェンダー論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- (1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉スペクトラム症（障害）を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ、ディスカッションも含む【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉スペクトラム症（障害）とは①自閉症の特性【自閉症】
- 第6回：自閉スペクトラム症（障害）とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

北九州学【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点(自然・経済・市民)から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設(環境ミュージアム、エコタウンなど)見学により、その体験を講義での学習につなげる。

授業のねらいは以下のとおり。

- ・ 環境問題全体を把握するための最低限の知識を身につけている
- ・ 北九州市の環境問題に対するこれまでの取り組みを理解している。
- ・ 持続可能な社会に向けての考え方を理解し、自分自身の行動につなげることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 1000円(税込み)
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然と環境(村江)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 6回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 7回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 9回 施設見学・環境ミュージアム
- 10回 環境首都検定に向けて(外部講師)
- 11回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 12回 環境問題とエネルギー政策(外部講師)
- 13回 環境問題と学生の取り組み(未定)
- 14回 特別講演(未定)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績(40%)、小テストおよび授業中の課題(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。

事後学習: 授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定受検および施設見学(環境ミュージアム)は原則として必須とする。スケジュールは変更となる場合があるので、第1回ガイダンスに必ず出席すること。

・ 環境ミュージアム見学は11月23日(月)午前または午後の予定。参加できない場合は後日各自で見学すること。

・ 環境首都検定は12月6日(日)の予定。

*授業スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。

*環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

SDGsとの関連について

7. エネルギーをみんなに 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

市民活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。
「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 20%
期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を営むとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)
三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本的経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・70% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)
また、適宜、レポート課題を出します。
また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

つながりの人間学【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①(サービスラーニングという概念と考え方)
- 第3回目 サービスラーニング概論②(サービスラーニングの理論と実践)
- 第4回目 地域活動概論①(地域活動の紹介)
- 第5回目 地域活動概論②(コミュニティワークの紹介と応用)
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②
- 第8回目 サービスラーニング活動の紹介
- 第9回目 サービスラーニングに向けて①(マナー・ルール・手続き等について)
- 第10回目 サービスラーニングに向けて②(サービスラーニングを通じた学びへの姿勢)
- 第11回目 実践報告①
- 第12回目 実践報告②
- 第13回目 実践報告③
- 第14回目 実践報告④
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55点) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45点) = 合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。
講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください(自習時間の目安は60分程度)。
受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は受講者による「サービス・ラーニング」への参加を前提としています。したがって受講生は、自ら「サービス・ラーニング」を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉と了解を得、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義は受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどを「事前レポート」(1500字程度)を書いてもらい、それを第二回目の講義の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。こうした課題などに積極的にコミットする受講生を求めています。さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科, 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科
久木 尚志 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科
政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 大平 変容するアジア情勢(1) 中国とインドの台頭
- 第3回 大平 変容するアジア情勢(2) 日本の防衛力強化
- 第4回 大平 変容するアジア情勢(3) 開発協力における熾烈な争い
- 第5回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(1) 概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第6回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(2) 現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第7回 下野 台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】
- 第8回 松田 日本総合商社と海外インフラプロジェクト組成【総合商社】【世銀保証】【IFC-Bローン】【プロジェクトファイナンス】
- 第9回 松田 日本企業の特徴と異文化マネジメント【ホフステッド】【複数の資本主義】
- 第10回 久木 2010年代後半のイギリス【国民投票】【総選挙】
- 第11回 篠崎 東南アジアを知ろう【地理】【宗教】【自律史観】
- 第12回 白石 中国経済の課題と展望【経済成長】【SNA】【投資】
- 第13回 柳 朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
- 第14回 柳 北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
- 第15回 まとめ

※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(各担当者ごとに最低1回は行います。最少8回、最大14回)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。
小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていきつけにしてください。

キーワード /Keywords

国際社会論 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) 国際的な人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それとともに、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。
授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、国際人口移動について概説する。その上で、日系ブラジル人社会、在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係の事例をもとに、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて実証的に考察していきたい。これらを通して、グローバル化が地域(ローカル)に及ぼす影響を、生活の場から考える視点を身につける。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房、2016年、¥3024
 - 『多民族化社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店、2010年、¥2700
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房、絶版
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会、2005年、¥4536
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 エスニシティ活性化の理論
- 第4回 グローバル化の進展と国境を越えた人口の移動
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1)【ヨーロッパの事例】
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2)【移民と階級、教育、政治】
- 第7回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(1)【移民の理論】
- 第8回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(2)【移住システムと移民コミュニティ】
- 第9回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会問題発生メカニズム】
- 第10回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(1)【在日朝鮮人とは】
- 第11回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(2)【多文化コミュニティ形成の条件】
- 第12回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会移動】
- 第13回 排外主義と排外意識 - 排外意識形成メカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)
授業テーマと関連のある新聞記事や文献に(できるだけ)目を通すようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容を反復するとともに、移民や排外主義に関する新聞・雑誌などの記事に目を通し、グローバル化が地域に及ぼす影響について考えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通してグローバル化の進展を生活の場からとらえ、分析する視角を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション – グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 国内都市間競争とグローバル化【人口減少社会】【インバウンド】
- 9回 社会インフラの国際技術移転【外部効果】【公共ガバナンス】
- 10回 地域政策と国際化(1)【交流人口】【インバウンド振興】
- 11回 地域政策と国際化(2)【越境する地域問題】【政策手法の変化】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
 定義が困難な理由について
 - ①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
 - ②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
 - ③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
 テロリズムの定義
 - ①911の特殊性と国土安全保障の考え方
 - ②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
 - ③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
 テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
 テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
 テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
 ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
 国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
 反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
 補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
 無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
 劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
 オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
 「大量」殺戮テロの始まり
 化学テロと生物テロ
 化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
 地下鉄サリン事件の概要
 サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
 地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
 911の特異性
 911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
 ビンラディンのプロファイル
 アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
 授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業では、現代の国際社会における日本や日本社会の国際化について、政治・外交、経済・企業それぞれの枠組みで整理した上で、その相互作用の帰結について学ぶ。具体的な内容は以下のとおりである。(1) 戦後、めまぐるしく変動する国際環境の中で日本が選んできた外交的選択と国造りの道程を構造的かつ歴史的に理解する。(2) アメリカが中心となって形成した戦後の国際経済秩序とその変容の過程で、日本経済がどのように発展してきたのかを考える。

教科書 /Textbooks

関連資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野口悠紀雄著『戦後日本経済史』(新潮社、2008年)
- 橋本寿朗 編『現代日本経済 第3版』(有斐閣アルマ、2011年)
- 三和 良一 編『近現代日本経済史要覧』(東京大学出版会、2010年)
- 五百旗頭真 編『戦後日本外交史 第3版補訂版』(有斐閣アルマ、2014)
- その他、関連文献は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 戦後日本外交とは何か【平和主義】【基地国家論】【冷戦】
3. 占領下日本の「外交」【占領政治経済】【日米関係】【逆コース】
4. サンフランシスコ講和条約と戦後体制の成立【講和条約】【戦後秩序】
5. 日本の戦後処理(賠償)【賠償】【請求権】【経済協力】
6. 日米同盟の成立とHub and Spoke体制の展開【安全保障】【日米同盟】【沖縄問題】
7. 日韓国交への道程 / 日中国交への道程【脱植民地化】【デタント】【台湾問題】
8. 冷戦後の日本外交【価値観外交】【New Normal】【米中関係】
9. 世界経済の発展と日本の位置づけ【グローバリゼーション】【数字で見る日本経済】
10. 戦後復興と冷戦構造【封じ込め戦略】【ブレトン・ウッズ体制】【日本の経済復興】【ドッジ・ライン】
11. 日本型雇用慣行の形成と高度経済成長のメカニズム【日本型経営】【高度経済成長】【資本の自由化】
12. 戦後秩序の変容と石油危機【ニクソン・ショック】【経済の政治化】【石油危機】
13. 日本企業の多国籍化の変遷と特徴【海外直接投資】【日米経済摩擦】【生産ネットワーク】
14. グローバル化の進展と日本型企業システムの転換【規制緩和】【ICT革命】
15. 地域統合の進展と国家【広域FTA】【安全保障政策】【経済主権】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% (担当者ごと、計2回) テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書をもとに、事前学習として予習をすること。
事後学習として、復習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連文献を自主的によむこと。

キーワード /Keywords

東アジア 安全保障政策 冷戦 戦後復興 グローバリゼーション

戦後の日本経済【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

私たちの思考や行動は、私達が暮らす社会のあり方によって規定されています。そして社会のあり方は、時代とともにこれまで大きく変化してきました。

特に社会のあり方に大きな影響を与えてきたのが「経済」です。

「経済」とは、私達が生きていくために何か価値あるものを作り、それを他者と交換することで生活の糧を得ることを意味します。つまり「経済」とは、働き収入を得て消費するという、日常の暮らしそのものを指しています。

こうした人々の暮らしが大きく変化する度、社会のあり方が変わり、その結果、人々の思考や行動も変化してきました。

この講義では、この事実を、実際の「経済」の歴史を通じて理解していただきます。

そのうえで、特にここでは、「現代人」の社会、暮らし、思考や行動のあり方に極めて大きな影響を及ぼした「高度経済成長期」(1950年代後半から1970年代前半)に注目します。

そしてここで、人々がどのような暮らしを手にし、いかなる思考や行動をするようになったのか考えます。

また、「高度経済成長」以後の暮らしの変化にも着目することで、現代に生きる私たちが「当たり前」と思い抱いている価値観や行動様式が、いつどのような経緯で浸透していくこととなったのか、その歴史についても、「経済」を通して考えてみたいと思います。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 I. 現代社会の理想と現実
 - 1. 現代の若者の就職と結婚
- 第3回 2. キャリア形成を巡る理想と現実
- 第4回 II. 戦後文化の担い手
 - 1. 「高度経済成長」とは何か
- 第5回 2. 文化的主体としての「団塊の世代」
- 第6回 III. 「高度経済成長」への道程
 - 1. 戦後の人口問題と経済成長の蓋然性
- 第7回 2. 「高度経済成長」と「人口ボーナス」
- 第8回 3. 「高度経済成長」と人口移動
- 第9回 IV. 戦後家族モデルの成立
 - 1. 「豊かさ」の象徴
- 第10回 2. 「上昇志向」の時代と日本人の生活意識
- 第11回 3. 日本人の理想とモデル - 「ミッチーブーム」と「象徴天皇」 -
- 第12回 V. 「ロストジェネレーション」
 - 1. 「幸せモデル」の確立
- 第13回 2. 「高度経済成長」の終焉と「団塊ジュニア」
- 第14回 3. 「失われた20年」と「ロストジェネレーション」
- 第15回 VI. 価値観・ライフスタイルの変化

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジュメを配布します。配布済みのレジュメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジュメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

担当者名 /Instructor 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。

この授業では、社会を映す鏡として生きた教材になる新聞を活用し、将来の就職活動や社会人生活に役立つ「読む力」「書く力」「話す(伝える)力」とともに、時事問題の知識や教養を身につけます。グループワークも実施し、物事を深く考えて企画する力も身につけられるようアシストします。様々な学部 of 学生が集まり、共に学ぶことができる講座です。

新聞を活用した演習やクイズを実施して、文章添削も行う予定です。

教科書 /Textbooks

教材として授業時に新聞を配布します(教材費は1,000円以内の予定)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

図書館にある読売新聞以外の新聞なども活用する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 新聞の基本的な読み方とまわしよみ新聞の作り方、グループ分け
- 第2回 新聞のちから①まわしよみ新聞を基にテーマを選択
- 第3回 新聞のちから②テーマと疑問点を詰める
- 第4回 新聞のちから③文章の書き方(基礎編)
- 第5回 新聞のちから④文章の書き方(応用編)
- 第6回 新聞のちから⑤模擬取材体験
- 第7回 新聞のちから⑥取材結果をまとめる
- 第8回 新聞のちから⑦発表と講評
- 第9回 社会人基礎力養成①深く考える力を高める新聞の読み方
- 第10回 社会人基礎力養成②課題解決へ思考を深める
- 第11回 社会人基礎力養成③課題解決へ思考を深める
- 第12回 社会人基礎力養成④課題解決へ思考を深める
- 第13回 社会人基礎力養成⑤就活突破と新聞活用術
- 第14回 まとめ①「わたしたちの新聞」作成
- 第15回 まとめ②「わたしたちの新聞」発表と講評

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に関する作業の取り組みの度合いで総合的に判断します(100%)。詳しくは1回目の授業で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞を活用します。
就職活動に役立ちそうな簡単な演習などを課題として出題する予定です。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や講義の進捗に応じて授業計画等が変わる場合もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞社、大学、若い皆さんが力を合わせ、楽しみながら社会に通用する実践力を身につける講座にしたいと考えています。

新聞報道の現場経験者が、その経験を活かしながら「読む力」「書く力」「話す力」「考える力」を向上させる授業を担当する。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、新聞、メディア、現代社会、情報リテラシー、就職活動、社会人基礎力、実務経験のある教員による授業

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないが、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そこで、「フェアトレード」「ファスト・ファッションとエシカル・ファッション」「紛争鉱物とエシカル・スマホ」「使い捨てプラスチック」「100円ショップ」「フードロス」「アニマルウェルフェア」を具体的な事例として取り上げ、倫理的消費について受講生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考え、環境に負荷をかけない生活を考える契機としたい。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。

○子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。
アジア太平洋資料センター編『徹底解剖100円ショップ』コモンズ、2004年。
末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション (講義の目的、進め方、文献案内など)、 「エシカル消費」とは何か？
- 第2回 【ファッション】『ザ・トゥルー・コスト』 (DVD) 前半の鑑賞
- 第3回 『ザ・トゥルー・コスト』 (DVD) 後半の鑑賞、論点整理
- 第4回 ファッション、綿花栽培に関するディスカッション
- 第5回 【食べ物】『甘いバナナの苦い真実』 (DVD) の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第6回 『Food Inc.』 (DVD) 前半の鑑賞
- 第7回 『Food Inc.』 (DVD) 後半の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第8回 【フードロス】『0円キッチン』 (DVD) の観賞
- 第9回 【プラスチック】ペットボトル、マイクロプラスチック、論点整理、ディスカッション
- 第10回 【鉱物資源】『スマホの真実』 (DVD) の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第11回 【100円ショップ】『徹底解剖！100円ショップ』の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第12回 【フェアトレード】『もっと！フェアトレード』 (DVD) の鑑賞
- 第13回 フェアトレードの展開、役割、課題
- 第14回 【動物の権利保護 (アニマルウェルフェア)】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

7回のレポート (70%)、エッセイ (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、DVDを観賞した後は必ずレポート (A4一枚程度) を課しますので、振り返りをしてください。また、学んだことを実生活で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

数多くのDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フェアトレード、エシカル

「SDGs 1. 貧困をなくそう」「SDGs 3. 健康と福祉を」「SDGs 5. ジェンダーと平等」「SDGs 10. 不平等をなくす」

「SDGs 12. 作る・使う責任」「SDGs 14. 海洋保全」「SDGs 15. 環境保全」「SDGs 16. 平和と公正」

「SDGs 17. パートナーシップ」

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 康士 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？ それは単に過去の出来事を暗記することでも、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。

この授業では、日本史に関する重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

各回でレジユメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？ —過去・史料・歴史家—
- 第3回：ヒトはどこから来たのか？ —人類の拡散と日本列島—
- 第4回 狩猟採集経済と農耕経済 —気候変動と縄文・弥生人—
- 第5回：前方後円墳とヤマト王権 —初期国家の成立—
- 第6回：古代国家と天皇 —東アジアの律令国家—
- 第7回：日本の中世国家 —分権化する国家と社会—
- 第8回：越境するヒトとモノ —銭貨・倭寇・鉄砲—
- 第9回：世界史のなかの「近世」 —東アジアにおける伝統社会の形成—
- 第10回：歴史人口学の世界
- 第11回：結婚と離婚 —歴史のなかの男と女—
- 第12回：貨幣からみる近世社会
- 第13回：日本の「近代」
- 第14回：「日本人」と戦争
- 第15回：まとめ —「歴史」を学ぶということ—

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み (50%、小レポートなどを含む)、期末試験 (50%) によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書・文献を事前・事後学習として読む必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、西暦1～3世紀の中国、すなわち新・後漢時代から三国時代までの歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 古代の中国と日本 -日中交流史-
 - 3回 秦漢史概説(1) -「皇帝」の誕生-
 - 4回 秦漢史概説(2) -前漢の盛衰-
 - 5回 新の王莽
 - 6回 後漢前期(1) -光武帝-
 - 7回 後漢前期(2) -明帝-
 - 8回 後漢前期(3) -章帝・和帝-
 - 9回 後漢後期(1) -安帝・順帝-
 - 10回 後漢後期(2) -桓帝・靈帝-
 - 11回 後漢分裂と「三世紀の危機」 -『三国志』の虚実-
 - 12回 魏の曹操
 - 13回 蜀の劉備と呉の孫権
 - 14回 三国鼎立と邪馬台国の外交
 - 15回 まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・80% 日常の授業への取り組み・・・20%

*なお、欠席・遅刻・私語など授業態度については、成績評価の際に適宜考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)

予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、授業を集中して聞き、適宜ノートを取る。初回に講義のガイダンスを行うので、出席すること。定期試験の際にはノートや配付資料の持ち込みは認めないので、意欲のある学生の受講を期待する。

講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくこと、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

社会学 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。そのため、以下の2点について講義する。

- (1) 社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。
- (2) 現代の社会問題を社会的に考えていく。とりあげる問題としては「大衆社会とファシズム」「社会的排除と貧困」などを予定している。

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 社会的な考え方とは
- 第3回 社会的な要因による説明とは
- 第4回 個人と社会をつなぐ1 - デュルケム1 【自殺論 - 集合意識と行為】
- 第5回 個人と社会をつなぐ2 - デュルケム2 【自己本位的自殺】
- 第6回 個人と社会をつなぐ3 - デュルケム3 【アノミー的自殺】
- 第7回 個人と社会をつなぐ4 - ウェーバー1 【理解社会学】
- 第8回 個人と社会をつなぐ5 - ウェーバー2 【プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神】
- 第9回 機能主義とシンボリック相互作用論
- 第10回 現代の社会的解読1 - ファシズム1 【社会的性格とファシズム】
- 第11回 現代の社会的解読2 - ファシズム2 【デモクラシーと大衆社会】
- 第12回 現代の社会的解読3 - 社会的排除と貧困1 【社会的排除と生活困窮の現状】
- 第13回 現代の社会的解読4 - 社会的排除と貧困2 【生活困窮化のメカニズム】
- 第14回 現代の社会的解読5 - 社会的排除と貧困3 【社会的な支援のあり方】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題... 15% 期末試験... 85%
(総合的に判断する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル
SDGs1 貧困をなくそう、SDGs3 健康と福祉を

人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
講義を5つのセクションに分け、「人文地理学の基礎」「社会・文化と地域」「経済発展と人口移動」「都市構造と都市システム」「産業立地と集積」について講義を行う。人文地理学の領域に含まれる社会地理学、文化地理学、人口地理学、経済地理学、都市地理学などから主要なトピックを取り上げる。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人文地理学の基礎(1) 地理学の体系
- 第2回 人文地理学の基礎(2) 地理学の歴史、地域概念と重力モデル、環境決定論と環境可能論
- 第3回 人文地理学の基礎(3) 様々な距離、時間地理学、空間認識
- 第4回 社会・文化と地域(1) 言語と地域
- 第5回 社会・文化と地域(2) 町並み保存
- 第6回 経済発展と人口移動(1) 近世・近代日本の都市発展
- 第7回 経済発展と人口移動(2) 現代日本の都市発展
- 第8回 都市構造と都市システム(1) 世界都市、オフィスの立地、大都市の構造と動態(東京)
- 第9回 都市構造と都市システム(2) 都市の内部構造、大都市の構造と動態(大阪)
- 第10回 都市構造と都市システム(3) 都市と郊外、規制緩和と郊外商業地の拡大
- 第11回 都市構造と都市システム(4) 都市システム、広域中心都市、大都市の構造と動態(福岡)
- 第12回 産業立地と集積(1) チェーンストアの配送と立地
- 第13回 産業立地と集積(2) 産業集積、企業城下町
- 第14回 産業立地と集積(3) コンテンツ産業の集積
- 第15回 産業立地と集積(4) 空間分業

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、ミニレポート (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を示すための地図が必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。
人間と自然の関係を地理学を通して理解する。
地理学的な考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山本博文監修「古地図から読み解く城下町の不思議と謎」実業之日本社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観 【地図を読む楽しみ】
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する 【山の堆積を地図から測定できる】
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する (講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後には、ノートを整理し、配付された資料等をよく読んで理解したうえで、それらを将来的に使えるようファイルボックスなどに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外护保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松原 宏編 『先進国経済の地域構造』 東京大学出版会 2003年 4,800円
平岡昭利編 『地図で読み解く日本の地域変貌』 海青社 2008年 3048円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 欧米地誌(1) ヨーロッパ総論(1) : ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
- 第3回 欧米地誌(2) ヨーロッパ総論(2) : ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
- 第4回 欧米地誌(3) イギリス地誌
- 第5回 欧米地誌(4) ドイツ地誌
- 第6回 欧米地誌(5) スペイン・フランス地誌
- 第7回 欧米地誌(6) イタリア・北欧地誌
- 第8回 欧米地誌(7) ベネルクス・スイス地誌
- 第9回 欧米地誌(8) アメリカ合衆国地誌
- 第10回 日本地誌(1) 近世城下町の変容 : 島根県松江市、鹿児島県鹿児島市
- 第11回 日本地誌(2) 干拓地域の変容 : 山口県防府市、県庁所在地の変容 : 宮崎県宮崎市
- 第12回 日本地誌(3) 軍事都市の変容 : 広島県呉市、熊本県熊本市
- 第13回 日本地誌(4) 鉱業地域の変容 : 福岡県筑豊地域、愛媛県新居浜市
- 第14回 日本地誌(5) 港湾都市の変容 : 山口県下関市
- 第15回 日本地誌(6) 工業都市の変容 : 福岡県北九州市

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

授業の前後に適宜予習復習を行うこと。
高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

国家の基本法といわれる憲法に関する基本的な考え方を学ぶ。
受講対象者を考慮して、日本国憲法全体を通観するのではなく、いくつかの重要テーマを取り上げて講義する中で、憲法学の基本的な考え方や社会との関係などを学べるように努める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
適宜、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 駒村圭吾編『プレステップ憲法 第2版』(弘文堂、2018年)
- 斎藤一久・堀口悟郎編『図録 日本国憲法』(弘文堂、2018年)
- 芦部信喜『憲法 第7版』(岩波書店、2019年)
- 長谷部恭男『憲法 第7版』(新世社、2018年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法とは何か①-国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②-民主主義と立憲主義
- 第3回 平和主義①-平和主義と「正しい」戦争
- 第4回 平和主義②-日本国憲法の平和主義
- 第5回 表現の自由とその限界①-表現の自由の保障根拠
- 第6回 表現の自由とその限界②-規制の根拠と手段の妥当性
- 第7回 自己決定権とは何か①-憲法上の根拠と内容
- 第8回 自己決定権とは何か②-生命の自己決定?
- 第9回 自己決定権とは何か③-安楽死・尊厳死法制化の是非
- 第10回 議院内閣制①-国会と内閣の関係
- 第11回 議院内閣制②-国会の制度と運営
- 第12回 議院内閣制③-国会と選挙制度
- 第13回 憲法と死刑制度①-日本国憲法と死刑制度
- 第14回 憲法と死刑制度②-立法政策上の諸課題
- 第15回 全体まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記参考書をはじめ、授業内容の理解に有益な読書を行ったり、講義内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法史 立憲主義 基本的人権 統治機構

倫理学 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が把握できるようにする。

教科書 /Textbooks

各回でレジメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献をレジメで紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨンおよび古代ギリシャの倫理(1) ソクラテスの倫理思想
- 第2回 古代ギリシャの倫理(2) プラトンの倫理思想 【美しき国家】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(3) アリストテレスの倫理思想 【賢慮と公共性】
- 第4回 キリスト教の倫理(1) イエスとパウロの倫理思想 【普遍化と信仰義認】
- 第5回 キリスト教の倫理(2) アウグスティヌスとフランチェスコの倫理思想 【愛と高貴な貧しさ】
- 第6回 キリスト教の倫理(3) ルターの倫理思想 【召命と信仰義認】
- 第7回 近代の倫理思想(1) デカルトの倫理思想 【旅とコギト】
- 第9回 近代の倫理思想(2) ホッブズの倫理思想 【リヴァイアタンと市民】
- 第8回 近代の倫理思想(3) スピノザの倫理思想 【コナトゥスと倫理】
- 第10回 近代の倫理思想(4) カントの倫理思想 【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(5) フィヒテの倫理思想 【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(6) ヘーゲルの倫理思想 【承認とコルポラツィオン】
- 第13回 近代の倫理思想(7) マルクスの倫理思想 【疎外と物象化】
- 第14回 現代の倫理思想(1) フランクフルト学とハーバマスの倫理思想 【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 現代の倫理思想(2) フーコーの倫理思想 【統治性と権力】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクシヨン・ペーパーを含む)40パーセント
期末テスト 60パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で紹介した原典・参考文献のうち興味をもったものを選び、自分で読むことを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

適宜リアクシヨン・ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむづかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問して下さい。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます（必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分）。

その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

エンドユーザコンピューティング 【昼】

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ，SDGs 4．質の高い教育を，SDGs 8．働きがい・経済成長，SDGs 9．産業・技術革命，SDGs 10．不平等をなくす，SDGs 17．パートナーシップ

中国語7 (総合) 【昼】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を修得することを目的とし、
①一年生の時の学習事項の定着、②新しい語法や表現の修得、③語彙力のアップ、④文章読解力の向上、⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解、などを主な目標とします。
教科書の本文や例文は、日本語での意味の理解もさることながら、中国語の語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解していきます。
教科書に従って進めますが、途中省略する箇所があります。また教科書以外の教材（中国語検定試験の問題等）を扱うこともあります。

教科書 /Textbooks

『総合力をきたえる 実用中級中国語』（郭春貴・郭久美子編著、白帝社、2012年）（2500円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
- 『誤用から学ぶ中国語』、『誤用から学ぶ中国語 続編1』、『誤用から学ぶ中国語 続編2』（郭春貴、白帝社、2001年～2017年）
- 『知ってるつもり中国語—「同じ漢字」が誤解のモト』（上野恵司、アスキー [アスキー新書]、2007年）
- 『中国語ひらめき塾』（相原茂、現代書館、2018年）ほか相原茂氏のエッセイ集。
ほか

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 (前半) ガイダンス / (後半) 第1課「自我介绍」(1) - 「词语与句型」「词汇」
第2回 第1課「自我介绍」(2) - 「课文」「会话」
第3回 第2課「你为什么学习汉语?」(1) - 「词语与句型」「词汇」「课文」
第4回 第2課「你为什么学习汉语?」(2) - 「课文」「会话」
第5回 第3課「怎么学好汉语?」の学習(1) - 「词语与句型」「词汇」
第6回 第3課「怎么学好汉语?」(2) - 「课文」
第7回 第3課「怎么学好汉语?」(3) - 「课文」「会话」
第8回 第4課「电子邮件」(1) - 「词语与句型」「词汇」「课文」
第9回 第4課「电子邮件」(2) - 「课文」「会话」
第10回 第5課「匆匆」(1) - 「词语与句型」「词汇」「课文」
第11回 第5課「匆匆」(2) - 「课文」「会话」
第12回 第6課「明日歌」(1) - 「词语与句型」「词汇」
第13回 第6課「明日歌」(2) - 「课文」「会话」
第14回 第7課「中日关系」(1) - 「词汇」「课文」
第15回 第7課「中日关系」(2) - 「课文」
※進度はあくまで目安です。第7課の途中まで学習することを目標に進めます。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (70%) + 課題 (30%)
※課題には、授業中に取り組むもの (課題A) と、期限を設けて取り組むもの (課題B) とがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本文は一部の単語にしかピンインが付いてません。もし読み方のわからない語があったら授業前に調べておきましょう。また教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいます。易しいと感じた人はこれに満足することなく中検過去問webや問題集などを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は一年生の時の学習内容を振り返りながら理解して行って下さい。

キーワード /Keywords

中級中国語、文章読解

中国語7 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 武井 満幹 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を修得することを目的とし、
①一年生の時の学習事項の定着、②新しい語法や表現の修得、③語彙力のアップ、④文章読解力の向上、⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解、などを主な目標とします。
教科書の本文や例文は、日本語での意味の理解もさることながら、中国語の語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解していきます。
教科書に従って進めますが、途中省略する箇所があります。また教科書以外の教材（中国語検定試験の問題等）を扱うこともあります。

教科書 /Textbooks

『総合力をきたえる 実用中級中国語』（郭春貴・郭久美子編著、白帝社、2012年）（2500円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
 - 『誤用から学ぶ中国語』、『誤用から学ぶ中国語 続編1』、『誤用から学ぶ中国語 続編2』（郭春貴、白帝社、2001年～2017年）
 - 『知ってるつもり中国語—「同じ漢字」が誤解のモト』（上野恵司、アスキー [アスキー新書]、2007年）
 - 『中国語ひらめき塾』（相原茂、現代書館、2018年）ほか相原茂氏のエッセイ集。
- ほか

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 (前半) ガイダンス / (後半) 第1課「自我介绍」(1) - 「词语与句型」「词汇」
 第2回 第1課「自我介绍」(2) - 「课文」「会话」
 第3回 第2課「你为什么学习汉语?」(1) - 「词语与句型」「词汇」「课文」
 第4回 第2課「你为什么学习汉语?」(2) - 「课文」「会话」
 第5回 第3課「怎么学好汉语?」の学習(1) - 「词语与句型」「词汇」
 第6回 第3課「怎么学好汉语?」(2) - 「课文」
 第7回 第3課「怎么学好汉语?」(3) - 「课文」「会话」
 第8回 第4課「电子邮件」(1) - 「词语与句型」「词汇」「课文」
 第9回 第4課「电子邮件」(2) - 「课文」「会话」
 第10回 第5課「匆匆」(1) - 「词语与句型」「词汇」「课文」
 第11回 第5課「匆匆」(2) - 「课文」「会话」
 第12回 第6課「明日歌」(1) - 「词语与句型」「词汇」
 第13回 第6課「明日歌」(2) - 「课文」「会话」
 第14回 第7課「中日关系」(1) - 「词汇」「课文」
 第15回 第7課「中日关系」(2) - 「课文」
- ※進度はあくまで目安です。第7課の途中まで学習することを目標に進めます。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (70%) + 課題 (30%)
 ※課題には、授業中に取り組むもの (課題A) と、期限を設けて取り組むもの (課題B) とがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本文は一部の単語にしかピンインが付いてません。もし読み方のわからない語があったら授業前に調べておきましょう。また教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいます。易しいと感じた人はこれに満足することなく中検過去問webや問題集などを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は一年生の時の学習内容を振り返りながら理解して行って下さい。

キーワード /Keywords

中級中国語、文章読解

中国語7 (総合) 【昼】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を修得することを目的とし、
①一年生の時の学習事項の定着、②新しい語法や表現の修得、③語彙力のアップ、④文章読解力の向上、⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解、などを主な目標とします。
教科書の本文や例文は、日本語での意味の理解もさることながら、中国語の語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解していきます。
教科書に従って進めますが、途中省略する箇所があります。また教科書以外の教材（中国語検定試験の問題等）を扱うこともあります。

教科書 /Textbooks

『総合力をきたえる 実用中級中国語』（郭春貴・郭久美子編著、白帝社、2012年）（2500円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
 - 『誤用から学ぶ中国語』、『誤用から学ぶ中国語 続編1』、『誤用から学ぶ中国語 続編2』（郭春貴、白帝社、2001年～2017年）
 - 『知ってるつもり中国語―「同じ漢字」が誤解のモト』（上野恵司、アスキー[アスキー新書]、2007年）
 - 『中国語ひらめき塾』（相原茂、現代書館、2018年）ほか相原茂氏のエッセイ集。
- ほか

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 (前半) ガイダンス / (後半) 第1課「自我介绍」(1)―「词语与句型」「词汇」
第2回 第1課「自我介绍」(2)―「课文」「会话」
第3回 第2課「你为什么学习汉语?」(1)―「词语与句型」「词汇」「课文」
第4回 第2課「你为什么学习汉语?」(2)―「课文」「会话」
第5回 第3課「怎么学好汉语?」の学習(1)―「词语与句型」「词汇」
第6回 第3課「怎么学好汉语?」(2)―「课文」
第7回 第3課「怎么学好汉语?」(3)―「课文」「会话」
第8回 第4課「电子邮件」(1)―「词语与句型」「词汇」「课文」
第9回 第4課「电子邮件」(2)―「课文」「会话」
第10回 第5課「匆匆」(1)―「词语与句型」「词汇」「课文」
第11回 第5課「匆匆」(2)―「课文」「会话」
第12回 第6課「明日歌」(1)―「词语与句型」「词汇」
第13回 第6課「明日歌」(2)―「课文」「会话」
第14回 第7課「中日关系」(1)―「词汇」「课文」
第15回 第7課「中日关系」(2)―「课文」
- ※進度はあくまで目安です。第7課の途中まで学習することを目標に進めます。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(70%) + 課題(30%)
※課題には、授業中に取り組むもの(課題A)と、期限を設けて取り組むもの(課題B)とがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本文は一部の単語にしかピンインが付いてません。もし読み方のわからない語があったら授業前に調べておきましょう。また教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいます。易しいと感じた人はこれに満足することなく中検過去問webや問題集などを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は一年生の時の学習内容を振り返りながら理解して行って下さい。

キーワード /Keywords

中級中国語、文章読解

中国語8 (総合) 【昼】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を修得することを目的とし、
①一年生の時の学習事項の定着、②新しい語法や表現の修得、③語彙力のアップ、④文章読解力の向上、⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解、などを主な目標とします。
教科書の本文や例文は、日本語での意味の理解もさることながら、中国語の語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解していきます。
教科書に従って進めますが、途中省略する箇所があります。また教科書以外の教材（中国語検定試験の問題等）を扱うこともあります。

教科書 /Textbooks

『総合力をきたえる 実用中級中国語』（郭春貴・郭久美子編著、白帝社、2012年）（2500円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
 - 『誤用から学ぶ中国語』、『誤用から学ぶ中国語 続編1』、『誤用から学ぶ中国語 続編2』（郭春貴、白帝社、2001年～2017年）
 - 『一步すすんだ中国語文法』（荒川清秀、大修館書店、2003年）
 - 『中国語虎の巻 実力アップ15の秘伝 [増補改訂版]』（彭飛著・榎本英雄監修、東方書店、2017年）
- ほか

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第7課「中日関係」(3)-「词语与句型」「会话」
 - 第2回 第8課「鲁迅和藤野先生」(1)-「词语与句型」「词汇」「课文」
 - 第3回 第8課「鲁迅和藤野先生」(2)-「课文」
 - 第4回 第8課「鲁迅和藤野先生」(3)-「课文」「会话」
 - 第5回 第9課「巴金答井上靖先生」(1)-「词语与句型」「词汇」「课文」
 - 第6回 第9課「巴金答井上靖先生」(2)-「课文」
 - 第7回 第9課「巴金答井上靖先生」(3)-「课文」「会话」
 - 第8回 第10課「陶奇的日记」(1)-「词语与句型」「词汇」「课文」
 - 第9回 第10課「陶奇的日记」(2)-「课文」
 - 第10回 第10課「陶奇的日记」(3)-「课文」「会话」
 - 第11回 第11課「牛郎织女」(1)-「词语与句型」「词汇」「课文」
 - 第12回 第11課「牛郎织女」(2)-「课文」
 - 第13回 第11課「牛郎织女」(3)-「课文」「会话」
 - 第14回 第12課「成语故事」(1)-「词语与句型」「词汇」「课文」
 - 第15回 第12課「成语故事」(2)-「课文」「会话」
- ※進度はあくまで目安です。「中国語中級総合」の進み具合によりませんが、第7課の途中から始める予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（70%）＋課題（30%）
※課題には、授業中に取り組むもの（課題A）と、期限を設けて取り組むもの（課題B）とがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本文は一部の単語にしかピンインが付いてません。もし読み方のわからない語があったら授業前に調べておきましょう。また教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいます。易しいと感じた人はこれに満足することなく積極的に中検過去問webや問題集などを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は時に一年生の時の教科書を振り返りながら理解して行って下さい。

キーワード /Keywords

中級中国語、文章読解

中国語8 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 武井 満幹 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を修得することを目的とし、
①一年生の時の学習事項の定着、②新しい語法や表現の修得、③語彙力のアップ、④文章読解力の向上、⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解、などを主な目標とします。
教科書の本文や例文は、日本語での意味の理解もさることながら、中国語の語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解していきます。
教科書に従って進めますが、途中省略する箇所があります。また教科書以外の教材（中国語検定試験の問題等）を扱うこともあります。

教科書 /Textbooks

『総合力をきたえる 実用中級中国語』（郭春貴・郭久美子編著、白帝社、2012年）（2500円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
 - 『誤用から学ぶ中国語』、『誤用から学ぶ中国語 続編1』、『誤用から学ぶ中国語 続編2』（郭春貴、白帝社、2001年～2017年）
 - 『一歩すすんだ中国語文法』（荒川清秀、大修館書店、2003年）
 - 『中国語虎の巻 実力アップ15の秘伝 [増補改訂版]』（彭飛著・榎本英雄監修、東方書店、2017年）
- ほか

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第7課「中日関係」(3)-「词语与句型」「会话」
 - 第2回 第8課「鲁迅和藤野先生」(1)-「词语与句型」「词汇」「课文」
 - 第3回 第8課「鲁迅和藤野先生」(2)-「课文」
 - 第4回 第8課「鲁迅和藤野先生」(3)-「课文」「会话」
 - 第5回 第9課「巴金答井上靖先生」(1)-「词语与句型」「词汇」「课文」
 - 第6回 第9課「巴金答井上靖先生」(2)-「课文」
 - 第7回 第9課「巴金答井上靖先生」(3)-「课文」「会话」
 - 第8回 第10課「陶奇的日记」(1)-「词语与句型」「词汇」「课文」
 - 第9回 第10課「陶奇的日记」(2)-「课文」
 - 第10回 第10課「陶奇的日记」(3)-「课文」「会话」
 - 第11回 第11課「牛郎织女」(1)-「词语与句型」「词汇」「课文」
 - 第12回 第11課「牛郎织女」(2)-「课文」
 - 第13回 第11課「牛郎织女」(3)-「课文」「会话」
 - 第14回 第12課「成语故事」(1)-「词语与句型」「词汇」「课文」
 - 第15回 第12課「成语故事」(2)-「课文」「会话」
- ※進度はあくまで目安です。「中国語中級総合」の進み具合によりませんが、第7課の途中から始める予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（70%）＋課題（30%）
※課題には、授業中に取り組むもの（課題A）と、期限を設けて取り組むもの（課題B）とがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本文は一部の単語にしかピンインが付いてません。もし読み方のわからない語があったら授業前に調べておきましょう。また教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいます。易しいと感じた人はこれに満足することなく積極的に中検過去問webや問題集などを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は時に一年生の時の教科書を振り返りながら理解して行って下さい。

キーワード /Keywords

中級中国語、文章読解

中国語8 (総合) 【昼】

担当者名 /Instructor 武井 満幹 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業は、一年生の時に学習したことを再確認しながら、中級レベルの中国語を修得することを目的とし、
①一年生の時の学習事項の定着、②新しい語法や表現の修得、③語彙力のアップ、④文章読解力の向上、⑤中国の文化や社会および日中交流への更なる理解、などを主な目標とします。
教科書の本文や例文は、日本語での意味の理解もさることながら、中国語の語順、単語や語句の働き、そして前後の単語と単語との関係、前の語句と後の語句との関係、前の文と後の文との関係を理解していきます。
教科書に従って進めますが、途中省略する箇所があります。また教科書以外の教材（中国語検定試験の問題等）を扱うこともあります。

教科書 /Textbooks

『総合力をきたえる 実用中級中国語』（郭春貴・郭久美子編著、白帝社、2012年）（2500円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語の学び方』（相原茂、東方書店、1999年）
 - 『誤用から学ぶ中国語』、『誤用から学ぶ中国語 続編1』、『誤用から学ぶ中国語 続編2』（郭春貴、白帝社、2001年～2017年）
 - 『一步すんだ中国語文法』（荒川清秀、大修館書店、2003年）
 - 『中国語虎の巻 実力アップ15の秘伝 [増補改訂版]』（彭飛著・榎本英雄監修、東方書店、2017年）
- ほか

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第7課「中日关系」(3)-「词语与句型」「会话」
 - 第2回 第8課「鲁迅和藤野先生」(1)-「词语与句型」「词汇」「课文」
 - 第3回 第8課「鲁迅和藤野先生」(2)-「课文」
 - 第4回 第8課「鲁迅和藤野先生」(3)-「课文」「会话」
 - 第5回 第9課「巴金答井上靖先生」(1)-「词语与句型」「词汇」「课文」
 - 第6回 第9課「巴金答井上靖先生」(2)-「课文」
 - 第7回 第9課「巴金答井上靖先生」(3)-「课文」「会话」
 - 第8回 第10課「陶奇的日记」(1)-「词语与句型」「词汇」「课文」
 - 第9回 第10課「陶奇的日记」(2)-「课文」
 - 第10回 第10課「陶奇的日记」(3)-「课文」「会话」
 - 第11回 第11課「牛郎织女」(1)-「词语与句型」「词汇」「课文」
 - 第12回 第11課「牛郎织女」(2)-「课文」
 - 第13回 第11課「牛郎织女」(3)-「课文」「会话」
 - 第14回 第12課「成语故事」(1)-「词语与句型」「词汇」「课文」
 - 第15回 第12課「成语故事」(2)-「课文」「会话」
- ※進度はあくまで目安です。「中国語中級総合」の進み具合によりませんが、第7課の途中から始める予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（70%）＋課題（30%）
※課題には、授業中に取り組むもの（課題A）と、期限を設けて取り組むもの（課題B）とがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本文は一部の単語にしかピンインが付いてません。もし読み方のわからない語があったら授業前に調べておきましょう。また教科書の新出単語欄の説明に頼るのではなく、わからなかった単語や重要と思われる単語については授業前または授業後に辞書で調べましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この教科書が易しいと感じる人もいれば難しいと感じる人もいます。易しいと感じた人はこれに満足することなく積極的に中検過去問webや問題集などを利用してレベルアップに努めて下さい。難しいと感じた人は時に一年生の時の教科書を振り返りながら理解して行って下さい。

キーワード /Keywords

中級中国語、文章読解

英語I (中 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて、主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rテストの演習などを取り込むことがあります。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

教科書 /Textbooks

Quick Exercises for the TOEIC L&R TEST 500 Listening (松柏社) ISBN978-4-88918-749-0 1,430円
連続ミステリー：もうひとりの自分 (朝日出版) ISBN978-4-255-15445-9 1,700円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	はじめに 英語を学ぶということ	
2回	聴解 (単語と文法の力をつける①)	読解 (単語と文法の力をつける①)
3回	聴解 (単語と文法の力をつける②)	読解 (単語と文法の力をつける②)
4回	聴解 (単語と文法の力をつける③)	読解 (単語と文法の力をつける③)
5回	聴解 (単語と文法の力をつける④)	読解 (表現に注目する①)
6回	聴解 (英語の音に注目する①)	読解 (表現に注目する②)
7回	聴解 (英語の音に注目する②)	読解 (表現に注目する③)
8回	聴解 (英語の音に注目する③)	読解 (文脈を考える①)
9回	聴解 (英語の音に注目する④)	読解 (文脈を考える②)
10回	聴解 (多様な英語に注目する①)	読解 (文脈を考える③)
11回	聴解 (多様な英語に注目する②)	読解 (言語外の知識を利用する①)
12回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える①)	読解 (言語外の知識を利用する②)
13回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える②)	読解 (言語外の知識を利用する③)
14回	聴解 (「聞き取る」から「理解する」へ)	読解 (訳読からテキスト理解へ)
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%
課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(あるいはTOEFL)を受験することが義務付けられています。
また、初回の授業には必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (中 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

Masahiko Yamaguchi 他著 「TOEIC TEST Trainer Target 650, Revised Edition」 センゲージラーニング 2200円
TEX 加藤 著 「TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ」 朝日新聞出版 890円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション & 基礎力確認テスト
- 第2回 Unit 1 / 文と文型 1
- 第3回 Unit 2 / 文と文型 2
- 第4回 Unit 3 / 文と文型 3
- 第5回 Unit 4 / 時制 1
- 第6回 Unit 5 / 時制 2
- 第7回 Unit 6 / 時制 3
- 第8回 中間テスト (2 ~ 7 回までの学習内容の理解度確認)
- 第9回 Unit 7 / 能動態と受動態
- 第10回 Unit 8 / 現在分詞と過去分詞
- 第11回 Unit 9 / 動名詞
- 第12回 Unit 10 / 不定詞
- 第13回 Unit 11 / 関係詞 1
- 第14回 Unit 12 / 関係詞 2
- 第15回 Unit 13 / 関係詞 3

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト 40% + 期末テスト 40%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/リーディング/リスニングの3本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までにしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習)にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説と練習問題及び読解問題のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついてきます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業では、これから1学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

使用テキスト及びプリントに記載されている英文は、くまなく速読で読めるように、またリスニングであれば、その英文を一度聞いて、正確に意味を把握し書き取れるようになることを学習の到達目標にしてください。それが次の学習ステップにつながってきます。

キーワード /Keywords

英語II (中 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

北尾泰幸 他著 「一步上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3」 朝日出版社 ￥1836

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&基礎力確認テスト
- 第2回 Unit 1 Eating Out / 文と文型 1
- 第3回 Unit 2 Travel / 文と文型 2
- 第4回 Unit 3 Amusement / 文と文型 3
- 第5回 Unit 4 Meetings / 時制 1
- 第6回 Unit 5 Personnel / 時制 2
- 第7回 Unit 6 Shopping / 時制 3
- 第8回 中間テスト (2 ~ 7 回までの学習内容の理解度確認)
- 第9回 Unit 7 Advertisement / 能動態と受動態
- 第10回 Unit 8 Daily Life / 現在分詞と過去分詞
- 第11回 Unit 9 Office Work / 動名詞
- 第12回 Unit 10 Business / 不定詞
- 第13回 Unit 11 Traffic / 関係詞 1
- 第14回 Unit 12 Finance and Banking / 関係詞 2
- 第15回 Unit 13 Media / 関係詞 3

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト 40% + 期末テスト 40%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/リーディング/リスニングの3本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までにしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習)にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説と練習問題及び読解問題のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついてきます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業では、これから1学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

使用テキスト及びプリントに記載されている英文は、くまなく速読で読めるように、またリスニングであれば、その英文を一度聞いて、正確に意味を把握し書き取れるようになることを学習の到達目標にしてください。それが次の学習ステップにつながってきます。

キーワード /Keywords

英語II (中 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて、主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rテストの演習などを取り込みます。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

教科書 /Textbooks

600点をめざす新TOEIC(R) TEST リスニング対策問題集 (松柏社) ISBN4-88198-572-8 1,100円
イギリス人特派員が見た日本 (金星堂) ISBN978-4-7647-4041-9 2,090円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	はじめに 英語を学ぶということ	
2回	聴解 (単語と文法の力をつける①)	読解 (単語と文法の力をつける①)
3回	聴解 (単語と文法の力をつける②)	読解 (単語と文法の力をつける②)
4回	聴解 (単語と文法の力をつける③)	読解 (単語と文法の力をつける③)
5回	聴解 (単語と文法の力をつける④)	読解 (表現に注目する①)
6回	聴解 (英語の音に注目する①)	読解 (表現に注目する②)
7回	聴解 (英語の音に注目する②)	読解 (表現に注目する③)
8回	聴解 (英語の音に注目する③)	読解 (文脈を考える①)
9回	聴解 (英語の音に注目する④)	読解 (文脈を考える②)
10回	聴解 (多様な英語に注目する①)	読解 (文脈を考える③)
11回	聴解 (多様な英語に注目する②)	読解 (言語外の知識を利用する①)
12回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える①)	読解 (言語外の知識を利用する②)
13回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える②)	読解 (言語外の知識を利用する③)
14回	聴解 (「聞き取る」から「理解する」へ)	読解 (訳読からテキスト理解へ)
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%
課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(あるいはTOEFL)を受験することが義務付けられています。
また、初回の授業には必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (中 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の向上を目指します。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion in class. The main focus will be on developing critical thinking skills and academic presentation in English. Students will learn and practice; oral discussion and academic presentation in class, and academic writing through homework assignments

教科書 /Textbooks

Pathways 1A - Listening, Speaking and Critical Thinking (National Geographic Learning)

「税込価格：3,091円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Living for Work 1
- 第3回：Living for Work 2
- 第4回：Good Times 1
- 第5回：Good Times 2
- 第6回：Presentation 1
- 第7回：The Marketing Machine 1
- 第8回：The Marketing Machine 2
- 第9回：Wild Weather 1
- 第10回：Wild Weather 2
- 第11回：Presentation 2
- 第12回：Focus on Food 1
- 第13回：Focus on Food 2
- 第14回：Consolidation
- 第15回：Presentation 3

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for this course and do the assignments before class

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all homework assignments for this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's all have fun learning English together

キーワード /Keywords

Content-based language learning

英語III (中 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 中 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing speaking and reading speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に話す力 (スピーキング力) と読む力 (リーディング力) との向上を目指します。

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Any part of the following class schedule is subject to changes.

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation 1
- Week 13 Group Conversation 2
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Attitude=10%, Class Participation=40%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments are given as needed a per-class basis. All class content is subject to change.

履修上の注意 /Remarks

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (中 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の向上を目指します。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2B 3rd edition by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602785
 2592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Unit 7 There are too many stores! (A)
- Week 3 Unit 7 There are too many stores! (B)
- Week 4 Unit 8 I like people who are smart. (A)
- Week 5 Unit 8 I like people who are smart.(B)
- Week 6 Unit 9 What were you doing? (A)
- Week 7 Unit 9 What were you doing? (B)
- Week 8 Review of Units 7-9
- Week 9 Unit 10 It must be an earthquake! (A)
- Week 10 Unit 10 It must be an earthquake! (B)
- Week 11 Unit 11 I used to sing. (A)
- Week 12 Unit 11 I used to sing. (B)
- Week 13 Unit 12 If you live downtown (A)
- Week 14 Unit 12 If you live downtown (B)
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- 15% Journal
- 20% Powerpoint Presentation
- 30% Final mini-test
- 15% Project work
- 20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (中 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の向上を目指します。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion in class. The main focus will be on developing critical thinking skills and academic presentation in English. Students will learn and practice; oral discussion and academic presentation in class, and academic writing through homework assignments

教科書 /Textbooks

Pathways 1B - Listening, Speaking and Critical Thinking (National Geographic Learning)

「税込価格：3,091円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Housing for the Future 1
- 第3回：Housing for the Future 2
- 第4回：Exploring Space 1
- 第5回：Exploring Space 2
- 第6回：Presentation 1
- 第7回：Creative Arts 1
- 第8回：Creative Arts 2
- 第9回：Our Relationship with Nature 1
- 第10回：Our Relationship with Nature 2
- 第11回：Presentation 2
- 第12回：How can we Communicate 1
- 第13回：How can we Communicate 2
- 第14回：Consolidation
- 第15回：Presentation 3

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for this course and complete any assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Content-based language learning

英語V (中 2 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験(主にTOEIC(R) L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

- ① SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST INTERMEDIATE 「レベル別TOEIC L&Rテスト実力養成コース：中級編」 番場直之 他著 金星堂 ¥2200(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急金のフレーズ TEX加藤 著 朝日新聞出版 ¥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 Unit 2 Dining Out
- 4回 Unit 3 Media
- 5回 Unit 4 Entertainment
- 6回 Unit 5 Purchasing
- 7回 Unit 6 Clients
- 8回 Unit 7 Recruiting
- 9回 Unit 8 Personnel
- 10回 Unit 9 Advertising
- 11回 Unit 10 Meetings
- 12回 Unit 11 Finance
- 13回 Unit 12 Offices
- 14回 Unit 13 Daily Life
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)と筆記試験(70%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席すること。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (中 2 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC®L & R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語力の定着を目的とします。

教科書 /Textbooks

- ①“BEST PRACTICE FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST –REVISED EDITION–”
(著者)吉塚弘他共著 成美堂 ¥2,420 ISBN9784791960309
- ②“TOEIC®L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ” (著者)TEX加藤
朝日新聞出版 ¥979 ISBN978-4-02-331568-6

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 Restaurant 文法：人称代名詞、単語小テスト1
- 3回 Unit 2 Entertainment 文法：不定代名詞と再帰代名詞、単語小テスト2
- 4回 Unit 3 Business 文法：現在・過去の時制、単語小テスト3
- 5回 Unit 4 Office 文法：現在完了、単語小テスト4
- 6回 Unit 5 Telephone 文法：時・期間を表す前置詞、単語小テスト5
- 7回 Unit 6 Letter & E-mail 文法：位置・場所を表す前置詞、単語小テスト6
- 8回 Unit 7 Health 文法：数量形容詞、単語小テスト7
- 9回 Unit 7 Health 文法：数量形容詞、単語小テスト8
- 10回 Unit 8 Bank & Post Office 文法：自動詞と他動詞、単語小テスト9
- 11回 Unit 9 New Products 文法：形容詞を作る接尾辞、単語小テスト10
- 12回 Unit 10 Travel① 文法：副詞を作る接尾辞、単語小テスト11
- 13回 Unit 11 Travel② 文法：分詞構文、単語小テスト12
- 14回 Unit 12 Job Applications 文法：比較
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
講義評価：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業のUnitをやってくる。単語小テストの範囲の単語を覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (中 2 年) 【昼】

担当者名
/Instructor

デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 中2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
	○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の更なる向上を目指します。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clearly stated learning goals and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. This course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (Cambridge University Press)

「税込価格：2,420円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Education 1
- 第3回：Education 2
- 第4回：Personal Stories 1
- 第5回：Personal Stories 2
- 第6回：Presentation 1
- 第7回：Style and Fashion 1
- 第8回：Style and Fashion 2
- 第9回：Interesting Lives 1
- 第10回：Interesting Lives 2
- 第11回：Presentation 2
- 第12回：Our World 1
- 第13回：Our World 2
- 第14回：Organizing your time
- 第15回：Presentation 3

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for this course and complete any assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday conversation

英語VIII (中 2 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力(リーディング力)と聴く力(リスニング力)の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

発掘! かわいいニッポン -異文化理解から日本文化発信へ- Discovering Cool Japan 成美堂 2750円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 Unit 7
- 9回 Unit 8
- 10回 Unit 9
- 11回 Unit 10
- 12回 Unit 11
- 13回 Unit 12
- 14回 Unit 13
- 15回 Unit 14

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 55% 小テスト・課題... 30% 日常の授業への取り組み... 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 指定された範囲の予習
事後学習: 授業で扱った内容の復習

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (英中国済営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

教科書 /Textbooks

ハリウッド (2) ビデオで見る映画とスターたち (朝日出版) ISBN4-255-15355-8 1,800円
 TOEIC 5分間ドリル リスニング3 (マクミラン・ランゲージハウス) ISBN978-4-7773-6258-5 1,000円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 英語を学ぶということ
- 2回 聴解 (単語と文法の力をつける①) 読解 (単語と文法の力をつける①)
- 3回 聴解 (単語と文法の力をつける②) 読解 (単語と文法の力をつける②)
- 4回 聴解 (単語と文法の力をつける③) 読解 (単語と文法の力をつける③)
- 5回 聴解 (単語と文法の力をつける④) 読解 (文脈を考える①)
- 6回 聴解 (英語の音に注目する①) 読解 (文脈を考える②)
- 7回 聴解 (英語の音に注目する②) 読解 (文脈を考える③)
- 8回 聴解 (英語の音に注目する③) 読解 (言語外の知識を利用する①)
- 9回 聴解 (英語の音に注目する④) 読解 (言語外の知識を利用する②)
- 10回 聴解 (多様なアクセントに注目する①) 読解 (言語外の知識を利用する③)
- 11回 聴解 (多様なアクセントに注目する②) 読解 (言外の意味を捉える①)
- 12回 聴解 (多様なアクセントに注目する③) 読解 (言外の意味を捉える②)
- 13回 聴解 (多様なアクセントに注目する④) 読解 (言外の意味を捉える③)
- 14回 聴解 (音の聞き取りから意味の理解へ) 読解 (文法的な意味を超えたテキスト理解へ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%
 課題 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語I (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩 三訂版』 巖基珠他 (白水社) 2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他 (小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【母音】【基本挨拶表現①】
- 3回 文字と発音【子音①】【基本表現②】
- 4回 文字と発音【子音②】【基本表現③】
- 5回 文字と発音【子音③】【合成母音①】【基本表現④】
- 6回 文字と発音【激音】【合成母音②】
- 7回 文字と発音【濃音】【合成母音③】
- 8回 発音の規則【終声・パッチム】
- 9回 発音の規則【連音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【濃音化】【流音化】【その他】
- 11回 文字と発音の復習【日本語のハングル表記】
- 12回 指定詞の丁寧形【～は～です】
- 13回 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 語彙と文型の復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅰで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩 三訂版』 巖基珠他 (白水社) 2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他 (小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅰの復習
- 2回 動詞の丁寧形【ハムニダ体①】【～を】
- 3回 形容詞の丁寧形【ハムニダ体②】【数詞①】
- 4回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 5回 指定詞の丁寧形【ヘヨ体①】【～です】【～ではありません】
- 6回 数詞のまとめ【数詞②】【年齢】【日付】
- 7回 助詞のまとめ【作文練習】
- 8回 動詞と形容詞の丁寧形【ヘヨ体②】
- 9回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 10回 用言の尊敬形①【ハムニダ体】
- 11回 用言の尊敬形②【ヘヨ体】【特殊な尊敬語】
- 12回 尊敬形のまとめ【作文練習】
- 13回 用言の過去形①【ハムニダ体】
- 14回 用言の過去形②【ヘヨ体】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）
『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といいます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習しておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何 / どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】【何日ですか？】【何曜日ですか？】
- 5回 助詞と疑問詞のまとめ【～から～まで】
- 6回 動詞と形容詞の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【いつ～しますか？】
- 7回 動詞と形容詞の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 8回 動詞と形容詞の丁寧形③【一週間の予定】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 動詞と形容詞の否定形【～しません、～ありません】
- 11回 好みの表現【～が好きです】【変則活用①】
- 12回 目的表現【～に～しに行きます】【丁寧形の変則活用】
- 13回 動詞と形容詞の過去形①【～ました、でした】
- 14回 動詞と形容詞の過去形②【変則活用】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英中2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

韓国語の基礎的な文法・語彙・表現力などをさらに深め、初級文法の完成を目指す。テキストの他、応用作文の練習を多く行い、簡単な手紙、日記などの文章が書けるようになること、また同程度の読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判) 2,400円 (税抜き)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語I・II』の復習
- 第3回目 第1課 フランスから来ました【文法、単語】
- 第4回目 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 第5回目 第2課 家族は何名様ですか【文法、単語】
- 第6回目 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 第7回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【文法、単語】
- 第8回目 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【文法、単語】
- 第11回目 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 第12回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【文法、単語】
- 第13回目 第5課 夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト 30% 定期試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などは調べること。
また、授業終了後は復習や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。
朝鮮語Ⅶと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

おはよう韓国語2 (崔柄珠著、朝日出版社、978-4-255-55638-3 : B5判) 2,400円 (税抜き)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V』の復習
- 第3回目 第6課 どのように行けばいいですか【文法、単語】
- 第4回目 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 第5回目 第7課 写真を添付しますよ【文法、単語】
- 第6回目 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】
- 第7回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【文法、単語】
- 第8回目 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 第9回目 【復習】
- 第10回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【文法、単語】
- 第11回目 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 第12回目 第10課 何にも聞いていませんが【文法、単語】
- 第13回目 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】
- 第14回目 【復習】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト 30% 定期試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、次回までに復習や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す。

朝鮮語VIIと並行して受講するほうが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語 改訂版』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 . オリエンテーション
- 2回 . 第1課 打ち解けた尊敬表現【-(으)세요】を使ってインタビューする。条件・仮定表現【-(으)면】
- 3回 . 第1課意図・計画【-(으)려고 해요】、休暇計画について尋ね合う
- 4回 . 第2課 説明・紹介【-인데】、期間【-L/은 지】、韓国語を習ってからどのくらい経ったか尋ね合う
- 5回 . 第2課動作の順序【-L/은 다음에/-기 전에】、自分の日課を順を追って話す
- 6回 . 第1課と第2課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 7回 . 第3課 義務【-아/어야 해요】、丁寧な命令・禁止命令【-(으)세요/-지 마세요】
- 8回 . 第3課 許可・禁止【-아/어도 돼요/-(으)면 안 돼요】、サークルの規則を決めて発表
- 9回 . 第4課 形容詞の連体形、理由表現【-아/어서】
- 10回 . 第4課 決心・約束【-기로 했어요】、約束したことや決心したことについて尋ね合う
- 11回 . 第3課と第4課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 12回 . 第5課 位置を表す語、手段【-로/으로】、家から学校までの交通手段と所要時間をインタビューする
- 13回 . 第5課 動作の順序・連結【-아/어서】、おすすめのスポットを紹介し、道順を教える
- 14回 . 第6課 動詞・存在詞の現在連体形、試行・経験【-아/어 봤어요】
- 15回 . 第6課 物や出来事の状況説明・感想【-는데】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合ひましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語(改訂版)』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5・6課 聞き取り、会話文復習
- 2回 第7課 依頼【-아/어 주세요】、勧誘・アドバイス【-아/어 보세요】
- 3回 第7課 より丁寧な依頼【-아/어 주시겠어요?】、買い物している場面で想定して話し合う
- 4回 第8課 理由・根拠【-(으)니까】、感嘆【-네요】、推測【-ㄹ/을 것 같아요】
- 5回 第8課 プレゼントをやりとりする場面で想定して話し合う
- 6回 第7・8課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 7回 第9課 かしこまった尊敬、不可能表現【自分ができないことを話し合う】
- 8回 第9課 時間・場合【-(으)ㄹ 때】
- 9回 第10課 傾向【-(으)ㄴ/는 편이에요】、同時・並行動作【-(으)면서】、学習方法をインタビューする
- 10回 第10課 ~するのが【-는 것이(-는게)】、自分の性格・学習スタイルについて話す
- 11回 第9・10課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 12回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 13回 第11課 間接話法、インタビューした内容を間接話法を使って発表する
- 14回 第11課 間接話法の過去、間接話法の縮約形【気になっているニュースを友達に伝える】
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合ひましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滄珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。専門的な用語と社会全般の説明が理解出来る多彩な文型と諺を無理なく駆使できるようになることを目標とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．授業概要、オリエンテーション (韓国語で自己紹介を含む)
- 2回．読解【私の新年計画、韓国で人気のある職業】
- 3回．聞き取り、会話・文型練習【-가/이 되다, -(으)려고, -는 동안(에)】
- 4回．作文発表【夢と将来の計画について】
- 5回．読解【韓国社会人の悩み、進路についての悩み】
- 6回．聞き取り、会話・文型練習【-는 건 어때요?/-는 게 좋겠다/-때문에】
- 7回．作文発表【悩みについて】
- 8回．読解【大衆文化、韓国映画】
- 9回．韓国映画鑑賞
- 10回．聞き取り、会話・文型練習【-기 위해서/ -거나/-(으)면 좋겠다】
- 11回．作文発表【自分の願望のために現在やっていること】
- 12回．読解【韓国の住居環境、部屋探し】
- 13回．聞き取り、会話・文型練習【-보다/-지요/-중에서】
- 14回．作文発表【自分が今住んでいる家と将来住みたい家】
- 15回．まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

履修上の注意 /Remarks

単元ごとにスキットの暗記と応用会話を演じ、同じテーマを持って自分の意見を発表出来るように、事前に予習をする必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語でコミュニケーションする楽しさを体験しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 . オリエンテーション
- 2回 . 読解【電子製品。機械、携帯電話】
- 3回 . 聞き取り、会話・文型練習【-(으)르 잘 알다/모르다, -(이)나, -뿐이다.-뿐만 아니라】
- 4回 . 作文発表【自分が持っている電子製品を紹介】
- 5回 . 読解【宿泊先の予約】
- 6回 . 聞き取り、会話・文型練習【-기 때문에, -(으)로, -밖에】
- 7回 . 作文発表【宿泊先に予約のメールを送る】
- 8回 . 韓国の観光事情について話し合う
- 9回 . 読解【インターネットバンキング、銀行事情】
- 10回 . 聞き取り、会話・文型練習【-고 나서, -(으)려면, -에다가】
- 11回 . 作文発表【銀行取引申請書を作成】
- 12回 . 読解【韓国の交通手段、道路標識】
- 13回 . 聞き取り、会話・文型練習【-(으)로 해서, -(으)르까요?,-(으)르 것 같다】
- 14回 . 作文発表【韓国の道路標識紹介】
- 15回 . まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み発・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

履修上の注意 /Remarks

課題提出の締め切りをしっかりと守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語のコミュニケーションを楽しみましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V/VI』の復習
- 第3回目 学校生活【スキットを読んでみよう】
- 第4回目 学校生活【文法、練習問題】
- 第5回目 アルバイト【スキットを読んでみよう】
- 第6回目 アルバイト【文法、練習問題】
- 第7回目 私の一日【スキットを読んでみよう】
- 第8回目 私の一日【文法、練習問題】
- 第9回目 プレゼント【スキットを読んでみよう】
- 第10回目 プレゼント【文法、練習問題】
- 第11回目 風邪【スキットを読んでみよう】
- 第12回目 風邪【文法、練習問題】
- 第13回目 休日【スキットを読んでみよう】
- 第14回目 休日約束【文法、練習問題】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 前期の復習
- 第3回目 夏休み【スキットを読んでもみよう】
- 第4回目 夏休み【文法、練習問題】
- 第5回目 趣味【スキットを読んでもみよう】
- 第6回目 趣味【文法、練習問題】
- 第7回目 大学祭【スキットを読んでもみよう】
- 第8回目 大学祭【文法、練習問題】
- 第9回目 仕事【スキットを読んでもみよう】
- 第10回目 仕事【文法、練習問題】
- 第11回目 日記【スキットを読んでもみよう】
- 第12回目 日記【文法、練習問題】
- 第13回目 外国語の勉強【スキットを読んでもみよう】
- 第14回目 外国語の勉強【文法、練習問題】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英中国済営比人律
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説することにより、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社、1997年
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 予習復習状況...20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

履修上の注意 /Remarks

最初数回の授業でアルファベットの読み書きを学習するので、スタート時期に欠席するのは好ましくない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英中国済営比人律
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class 政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社、1997年
 「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 予習復習状況 ... 20%
 (欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課①【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課②【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課①【教室でロシア語】
- 9回 第2課②【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課①【家族の紹介】
- 12回 第3課②【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...10% 宿題...10% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

英中国済営比人律
政 1年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
	○	○	○								

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習 60分、復習 60分です。)

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、書き言葉に特徴的な複文（関係代名詞、関係副詞、分詞構文）の「文法・語法」学習、動詞の体の用法・派生、運動の動詞など、より複雑な文法の学習を行う。到達目標は、文章語の読解力を養うこと。

教科書 /Textbooks

学習用プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤純一著『NHK新ロシア語入門』日本放送出版協会
○ブリキナ著『新ロシア語文典』我妻書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 定動詞・不定動詞(1)、完了体・不完了体
- 2回 関係代名詞(1)、形容詞・副詞の比較級と最上級
- 3回 個数詞と名詞句の結合、年齢表現、値段表現
- 4回 時間表現、不定使用法、不規則変化動詞
- 5回 不定人称文、仮定法(1)、複文(1)
- 6回 移動動詞の派生、曜日表現
- 7回 関係副詞、関係代名詞(2)、勧誘法表現、年月日表現
- 8回 相互代名詞、述語生格、仮定法(2)、普遍人称文
- 9回 無人称動詞、定動詞・不定動詞(2)、再帰所有代名詞、「春の祝日について」
- 10回 副動詞、形動詞現在
- 11回 完了動詞・不完了動詞の派生、祝辞表現
- 12回 時刻表現、概数、姓の格変化
- 13回 複文(2)、存在状態を表す動詞と動作動詞(「横たわっている」と「横になる・横たわせる」)
- 14回 形動詞過去、間接命令法
- 15回 定代名詞、特殊変化動詞、「呼格について」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・課題・学習状況 ... 40%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には、テキストの読み、練習問題の課題を課すので準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ロシア語の参考書、学習教材は図書館に相当点数(数十冊以上)あるので利用してください。

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国済営比人律政2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

外国人用のロシア語テキストの読解、および会話テキストの聞き取り読解・訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。到達目標は、書き言葉の文章読解力を向上させること、およびノーマルなスピードのやさしい会話が理解できるようになること。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

安藤厚ほか編「ロシア語ミニ辞典」白水社、1997年
中村建之介著「自習ロシア語問題集」白水社、2014年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА その1	読み、訳、練習問題	Скоро первое сентября
2回	ГОСТИНИЦА その2	読み、訳、練習問題	Мама и футбол
3回	СТОЛОВАЯ その1	読み、訳、練習問題	Мать
4回	СТОЛОВАЯ その2	読み、訳、練習問題	Салют
5回	ГАСТРОНОМ	読み、訳、練習問題	Гипноз
6回	УНИВЕРМАГ	読み、訳、練習問題	Важный разговор
7回	ТРАНСПОРТ	読み、訳、練習問題	Трудный экзамен
8回	ПОЧТА	読み、訳、練習問題	Дом отдыха
9回	ТЕЛЕФОН	読み、訳、練習問題	Бабушка и Вовка
10回	ВОКЗАЛ	読み、訳、練習問題	Вторая молодость
11回	ПОЛИКЛИНИКА	読み、訳、練習問題	О чём думает марабу?
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ	読み、訳、練習問題	Как я встречал новый год
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その1	読み、訳、練習問題	Любимый праздник
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その2	読み、訳、練習問題	Это случилось в воздухе
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その3	読み、訳、練習問題	Мои друзья

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 50%、授業での発表 50%
(全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前に準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 /Credits

1単位

学期 /Semester

1学期

授業形態 /Class Format

講義

クラス /Class

英中国済営比人律
政2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
	○	○	○								

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5課の復習
- 2回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 3回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 4回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 5回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА ?】
- 6回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 7回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ ?】
- 8回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 9回 ビデオ学習② 会話練習
- 10回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ ?】
- 11回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 12回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ ?】
- 13回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 14回 ビデオ学習④ 会話練習、作文【Я И СПОРТ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...60% 平常の学習状況(小テスト含む)...10% 宿題...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」「ロシア語Ⅳ」を履修しておくこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

英中国済営比人律
政2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
	○	○	○								

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥ 1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】	2回 第9課② 【買い物】、【値段】
3回 第9課③ 会話練習	
4回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】	
5回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】	
6回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】	
7回 第10課①【モスクワの町】	
8回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】	
9回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】	
10回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】	
11回 読み物①	12回 読み物②
13回 読み物③	
14回 練習	
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 60% 平常の学習状況(小テスト含む)... 10% 宿題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」「ロシア語Ⅳ」を履修しておくこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検 5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷 昌秀

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音・つづり・母音の長短】(5級対応)
- 2回 自己紹介。【動詞の現在人称変化】
- 3回 ハンスは今、テニスをしています。【分の作り方。平叙文、疑問文】
- 4回 その母親はワインを飲みます。【名詞の性と冠詞】
- 5回 その犬のその名前はタロウです。【名詞と冠詞の格】
- 6回 フランクはアナのために10本のバラを買います。【複数形の作り方】(4級対応)
- 7回 その子供達はサッカーをするのが好きです。【複数形の使い方】
- 8回 ケンはこのスポーツカーを買います。【定冠詞類】
- 9回 私の犬はタロウという名前です。【不定冠詞類】
- 10回 その息子はその犬と遊ぶのが好きです。【前置詞の格支配】
- 11回 私達は今日、ケンとその学食に行きます。【3・4格支配の前置詞】
- 12回 彼は彼女に一通の手紙を書きます。【人称代名詞】
- 13回 私は私の歯をみがきます。【再帰代名詞】
- 14回 私は明日、ドイツ語を学ばつもりです。【助動詞】
- 15回 彼は週末に何をされるのでしょうか。【未来形】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷昌秀

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。ハンスはパーティーを開きました。【過去形】(3級対応)
- 2回 私達は寿司を食べに行きます。【動詞の特殊な使い方】
- 3回 君達は何をしましたか。【完了形】
- 4回 私達は食べてしまっていました。【過去完了形】
- 5回 アナはいつも先生にほめられます。【受動文】
- 6回 私は昨日、先生にほめられました。【受動の過去形と完了形】
- 7回 ハンスはオーストリアあるいはスペインへ行きます。【並列接続詞】
- 8回 彼は仕事に行く前に、いつも新聞を読みます。【従属接続詞と副文の作り方】
- 9回 フランクはカナを愛しています、しかしお金を持っていない、と言いました。【接続法第1式】
- 10回 もし僕がとても金持ちならば、僕はカナと世界旅行をするでしょうに。【接続法第2式】
- 11回 私は私の学友達よりもずっと勤勉でした。【比較変化】
- 12回 その車は私が期待したと同じように速く走ります。【同等の比較】
- 13回 あそこで歌っているその少年は、私の孫です。【関係文】
- 14回 それを主張する人は、嘘をついています。【不定関係代名詞】
- 15回 彼等は冷たい飲み物を飲みます。【形容詞の格変化】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 バン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫びて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』 熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をとおしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『バリーボルドー』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2500+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全14課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第7課まで終了。
以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音と綴り字
- 2回 自己紹介をする
- 3回 主語人称代名詞と動詞 être の活用
- 4回 物を指し示す
- 5回 名詞と不定冠詞、形容詞の性・数の一致と位置
- 6回 尋ねる
- 7回 第一群規則動詞、定冠詞
- 8回 買い物をする
- 9回 動詞avoirの活用、否定文
- 10回 物や人について尋ねる
- 11回 動詞allerと近接未来、疑問代名詞
- 12回 場所を尋ねる
- 13回 所有形容詞、疑問形容詞
- 14回 ~したいと言う
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。
事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)
遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

『バリーボルドー』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2500+税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全14課、配列に従って2学期は第8課から第14課まで。
以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 興味を述べる
- 2回 定冠詞の縮約、補語人称代名詞
- 3回 誘う
- 4回 代名動詞、中性代名詞 y
- 5回 天候と時刻を言う
- 6回 非人称構文、命令形
- 7回 数量を表す
- 8回 部分冠詞、中性代名詞 en
- 9回 比較する
- 10回 比較級、単純未来
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去、半過去
- 13回 仮定する
- 14回 条件法現在
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属のCDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。
事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

初歩的な文法を学び、簡単な日常会話の練習とそれに関する文章を読むことによって知識を定着させます。

教科書 /Textbooks

『パリ・ボルドー フランスの世界遺産と食文化を巡る旅』藤田裕二著 (朝日出版社 2016年 2500円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 発音の仕方
- 2回目 綴り字の読み方 (1課終了)
- 3回目 主語人称代名詞
- 4回目 動詞 <etre> の活用について
- 5回目 国籍を表す形容詞 (2課終了)
- 6回目 名詞と不定冠詞
- 7回目 名詞と形容詞 (3課終了)
- 8回目 第1群規則動詞の活用
- 9回目 定冠詞 疑問文 (4課終了)
- 10回目 指示形容詞
- 11回目 動詞 <avoir> の活用 否定文 (5課終了)
- 12回目 動詞 <aller> の活用
- 13回目 疑問代名詞 不規則動詞 (6課終了)
- 14回目 所有形容詞と疑問形容詞
- 15回目 il y a の表現

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：オラル・ペーパーの小テスト：40% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてあらかじめテキスト準拠のホームページでディアローグと文化の映像を見て何を学ぶかを確認しておくこと。事後学習として、専用ノートに文法項目ごとに整理をし、単語帳や例文リストを日本語・フランス語で作成し「発音する・書く」を繰り返して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典(電子でも紙でもよい)必携のこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、基本文法を会話表現を通して学び、簡単な文章を読むことによってそれらを確認します。

教科書 /Textbooks

『パリ・ボルドー フランスの世界遺産と食文化を巡る旅』藤田裕二著（朝日出版 2016年 2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1学期の復習（1課から6課）
- 2回目 主語人称代名詞強勢形
- 3回目 主語人称代名詞の復習 形と位置について
- 4回目 指示代名詞（7課終了）
- 5回目 前置詞と定冠詞の縮約形（8課終了）
- 6回目 代名動詞の成り立ち
- 7回目 代名動詞の形と用法
- 8回目 中生代名詞 y（9課終了）
- 9回目 非人称構文
- 10回目 命令形、感嘆文（10課終了）
- 11回目 部分冠詞
- 12回目 中生代名詞 en（11課終了）
- 13回目 比較級と単純未来（12課終了）
- 14回目 複合過去 1 助動詞 <avoir> を使うもの
- 15回目 複合過去 2 助動詞 <etre> を使うもの（13課終了）

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：オラル・ペーパーの小テスト40% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてテキスト準拠のホームページでディアログと文化の映像を見て何を学ぶかを確認すること。事後学習としては、文法項目ごとにノート整理をし、単語帳や例文のリストを作成し「発音する・書く」を繰り返して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞書（紙でも電子でもよい）必携

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

初級で学んだ文法で特にむつかしかった時制や代名詞などの事項を会話文、アクティビテ、練習問題を通して復習し、知識の定着を図ります。

教科書 /Textbooks

『クワッサン2 もっと知りたいフランス語』松村博史 著 2017年 朝日出版社 2300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『フラ語入門 わかりやすいにもホドがある』 清岡智比古著 白水社
『ケータイ万能 フランス語文法』 久松健一著 駿河台出版社
『中級をめざす人のフランス語文法』 杉山利恵子著 NHK出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 アルファベ 数字 綴り字と発音のルールの復習
- 2回目 動詞の現在形と複合過去の復習
- 3回目 dialogueの練習と頻度に関する表現 (1課終了)
- 4回目 直接・間接目的語と強勢形の代名詞の復習
- 5回目 dialogueの練習と人称代名詞の位置について (2課終了)
- 6回目 代名動詞と過去分詞の性数一致について
- 7回目 代名動詞の複合過去形 (3課終了)
- 8回目 dialogueの練習と中性代名詞
- 9回目 指示代名詞について (4課終了)
- 10回目 単純未来と近接未来
- 11回目 dialogueの練習 (5課終了)
- 12回目 現在分詞
- 13回目 現在分詞とジェロンディフ
- 14回目 lecture (6課終了)
- 15回目 受動態と所有代名詞 (補足)

成績評価の方法 /Assessment Method

オラル・ペーパーの小テスト：40% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてはテキストに目を通してあらかじめ学ぶ文法項目を確認しておくこと。また会話文の発音練習をしておくこと。事後学習としては、専用ノートに文法項目を整理し、単語帳と日本語・フランス語による例文リストを作成し、書いたり発音して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き既習の文法を復習しながら、複文を構成する叙法等を学んで、表現力のレベルアップを目標とします。

教科書 /Textbooks

『クロワッサン2 もっと知りたいフランス語』 松村博史著 2017年 朝日出版社 2300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中級フランス語 叙法の謎を解く』 渡邊淳也著 2018年 白水社
『中級をめざす人のフランス語文法』 杉山利恵子著 2012年 NHK出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1学期の復習
- 2回目 半過去
- 3回目 大過去
- 4回目 代過去のおさらいと時・理由・条件を表す接続詞 (7課終了)
- 5回目 dialogueの練習と接続詞を使う練習 (8課終了)
- 6回目 条件法のはなし
- 7回目 条件法現在の形と用法
- 8回目 条件法過去について
- 9回目 dialogueの練習とactivites (9課終了)
- 10回目 関係代名詞 que と qui
- 11回目 関係代名詞 ce que と ce qui
- 12回目 関係代名詞 ou と dont
- 13回目 強調構文と接続法について (10課終了)
- 14回目 接続法の練習 (11課終了)
- 15回目 lecture (12課終了)

成績評価の方法 /Assessment Method

オラル・ペーパーの小テスト40%、定期試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備としては、テキストに目を通してあらかじめ何を学ぶかを確認しておくこと。事後学習としては、専用ノートに文法項目を整理し、単語、例文を日本語・フランス語でリストアップして、書いたり発音して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

日常的な場面でのフランス語会話力を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』朝日出版 2017年 税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1: 自己紹介 (前半)
- 2) unité 1: 自己紹介 (後半)
- 3) unité 1: 自己紹介 (総括)
- 4) unité 2: 質問する (前半)
- 5) unité 2: 質問する (後半)
- 6) unité 2: 質問する (総括)、小テスト
- 7) unité 3: 買い物をする (前半)
- 8) unité 3: 買い物をする (後半)
- 9) unité 3: 買い物をする (総括)
- 10) unité 4: いつ (前半)
- 11) unité 4: いつ (後半)
- 12) unité 4: いつ (総括)、小テスト
- 13) unité 5: どこ (前半)
- 14) unité 5: どこ (後半)
- 15) unité 5: どこ (総括)

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (2回)・・・40%
期末テスト・・・40%
授業中の取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

日常的な場面でのフランス語会話力を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることを目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』朝日出版 2017年 税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6 : 誰 (前半)
 - 2) unité 6 : 誰 (後半)
 - 3) unité 6 : 誰 (総括)、リスニング
 - 4) unité 7 : 何 (前半)
 - 5) unité 7 : 何 (後半)
 - 6) unité 7 : 何 (総括)、小テスト
 - 7) unité 8 : どのように (前半)
 - 8) unité 8 : どのように (後半)
 - 9) unité 8 : どのように (総括)、読解
 - 10) unité 9 : 過去について (前半)
 - 11) unité 9 : 過去について (後半)
 - 12) unité 9 : 過去について (総括)、小テスト
 - 13) unité 10 : 仮定、条件 (前半)
 - 14) unité 10 : 仮定、条件 (後半)
 - 15) 後期の復習、プレゼンテーション
- 上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20 %
小テスト (2回)・・・ 40 %
プレゼンテーション・・・ 20 %
レポート・・・ 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

スペイン語文法の初歩を学びます。ラテン語に起源をもつスペイン語は、おそらく皆さんの多くが外国語として学び、かつ慣れ親しんできた英語とはことなつた特徴を持つ言語です。しかし英語に限らずこれまでに学んだ外国語は、かならずスペイン語を学ぶ糧となるはずで、どこが違って、どこが同じか、そういうことを意識的に比較検討しながら学んでいきましょう。簡単か難しいかは別にしても、スペイン語は歴史、文化、文学、さまざまな新しい世界を皆さんに開いてくれるでしょう。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法 全音声DL版』朝日出版社 ISBN: 978-4-255-55077-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『西和中辞典』(小学館)
- 『現代スペイン語辞典』(白水社)
- 『クラウン西和辞典』(三省堂)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨ、授業運営と成績評価について
- 第2回 アルファベット、発音
- 第3回 音節の分け方、アクセント
- 第4回 名詞の性と数
- 第5回 冠詞
- 第6回 形容詞
- 第7回 動詞
- 第8回 現在形(規則活用)
- 第9回 疑問詞、接続詞
- 第10回 指示詞
- 第11回 所有詞
- 第12回 動詞estar
- 第13回 動詞ser
- 第14回 現在形(不規則活用)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テストの累計70% 日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には指定された予習範囲について単語調べを入念に行うこと。授業後には当日扱われた内容についてレビューを行い、疑問点については次回授業で質問をすること。

履修上の注意 /Remarks

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。授業にはかならず予習をして臨んでください。各回の授業冒頭に前回の学習内容についての小テストを実施します。復習を怠らないでください。また教室にはかならず辞書(スペイン語→日本語)を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン語 文法

スペイン語II【昼】

担当者名 /Instructor 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

スペイン語文法の初歩を学びます。ラテン語に起源をもつスペイン語は、おそらく皆さんの多くが外国語として学び、かつ慣れ親しんできた英語とはことなつた特徴を持つ言語です。しかし英語に限らずこれまでに学んだ外国語は、かならずスペイン語を学ぶ糧となるはずで、どこが違って、どこが同じか、そういうことを意識的に比較検討しながら学んでいきましょう。簡単か難しいかは別にしても、スペイン語は歴史、文化、文学、さまざまな新しい世界を皆さんに開いてくれるでしょう。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法 全音声DL版』朝日出版社 ISBN: 978-4-255-55077-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『西和中辞典』(小学館)
- 『現代スペイン語辞典』(白水社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション、授業運営と成績評価について
- 第2回 直接目的格人称代名詞
- 第3回 間接疑問文
- 第4回 時間の表現
- 第5回 現在形不規則動詞
- 第6回 間接目的格人称代名詞
- 第7回 現在形不規則動詞(完全に不規則)
- 第8回 前置詞格人称代名詞
- 第9回 gustar型動詞
- 第10回 不定語・否定語
- 第11回 天候表現
- 第12回 比較表現
- 第13回 再帰動詞
- 第14回 再帰動詞のその他の用法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テストの累計70% 日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には指定された予習範囲について単語調べを入念に行うこと。授業後には当日扱われた内容についてレビューを行い、疑問点については次回授業で質問をすること。

履修上の注意 /Remarks

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。授業にはかならず予習をして臨んでください。各回の授業冒頭に前回の学習内容についての小テストを実施します。復習を怠らないでください。また教室にはかならず辞書(スペイン語→日本語)を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン語 文法

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデルとなる短い会話例をまず暗記します。その後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その際、ペアで、あるいは3 - 4人のグループでの会話練習を行います。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

教科書 /Textbooks

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2017 第2版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、スペイン語のアルファベット「スペイン語で何といいますか？」
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの位置、挨拶「おはよう。」
- 3回 1課 主語とser動詞、肯定文・否定文。名前・国籍・職業を言う「私はソニアです。」
- 4回 estar動詞、疑問文「元気ですか？」
- 5回 2課 名詞の性と数、冠詞、指示詞、他人の紹介「こちらはファンです。」
- 6回 数字1 - 100「消防の電話番号は？」
- 7回 3課 規則活用動詞1 「わたしは文学を学んでいます。」
- 8回 規則活用動詞2 「スペイン語を話しますか？」
- 9回 4課 ser, estar, hayの使い方「近くにレストランはありますか？」
- 10回 ir動詞 「どこに行きますか？」
- 11回 5課 gustar動詞 「好きな食べ物は？」
- 12回 料理の注文 「メキシコ料理は好きですか？」
- 13回 6課 家族について 「私の祖父はホルヘです。」
- 14回 家族について tener動詞 「兄弟はいますか？」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語I(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

1学期と同様、この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデル会話を覚えて行きましょう。口に出してジェスチャーをつけることで、フレーズを暗記しやすくなるはずです。そのあとは会話の応用練習をペアで、あるいは3 - 4人のグループで行います。

教科書 /Textbooks

IIIと同じテキストを使用。
坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語 改訂版』三修社、2017第2版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課「これはスペイン語で何といますか？」
- 2回 7課 店での会話「こんな上着がほしいんですが。」
- 3回 8課 「カルロスの家は3部屋で、トイレは2つあります。」
- 4回 「住まいはどんなですか？」
- 5回 9課 時間表現「何時ですか？」
- 6回 再帰動詞「何時におきますか？」
- 7回 1週間のスケジュール「週末は何をしますか？」
- 8回 10課 大学で「ガルシア先生の研究室はどこですか？」
- 9回 肯定命令「クラスメートと会話をしなさい。」
- 10回 大学の時間割「週に何度スペイン語の授業がありますか？」
- 11回 11課 現在完了「週末はどうでしたか？」
- 12回 「美術館はどうでしたか？」
- 13回 12課 休暇の予定「夏にはどこへ行きますか？」
- 14回 「タンゴを踊りたいですか、それともフラメンコ？」
- 15回 2学期まとめ

* テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 小テスト 30%、 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語II(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。
参考サイト：
<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)
<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英中国済営比人律
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法(和佐敦子著、朝日出版)昨年度のテキストの続きをしますが、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、テキストの例文を学習します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
スペイン語中辞典(小学館)
新スペイン語(研究社)
現代スペイン語辞典(白水社)
プログレッシブスペイン語辞典(小学館)
級スペイン語辞典(白水社)
他多数有。
白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典(宮城、コントレラス監修：白水社)
クラウン和西辞典(三省堂)
その他
図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編：河出書房新社)
スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著：昭和堂)
スペイン(増田監修：新潮社)
スペインの社会(寿里、原編：早稲田大学出版)
スペインの政治(川成、奥島編：早稲田大学出版)
スペインの経済(戸門、原編：早稲田大学出版)
スペイン語とつきあう本(寿里著：東洋書店)
スペイン語基礎文法(口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。
- 1 1年の復習(代名詞を中心に)(1)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)(2)
- 3 1年の復習(代名詞を中心に)(3)
- 4 再帰動詞、無人称文など(1)
- 5 再帰動詞、無人称文など(2)
- 6 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)(1)
- 7 同上(2)
- 8 点過去、現在完了の用法(1)
- 9 同上(2)
- 10 同上(3)
- 11 線過去の用法(1)
- 12 同上(2)
- 13 同上(3)
- 14 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習(1)
- 15 同上(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験 100% + 授業中評価20% = 120% で60%を超えていれば単位を認定します。

スペイン語Ⅴ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう（復習重視で、30分程度は必要になります）。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう（30分程度）。

履修上の注意 /Remarks

上記テキストに対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語VI 【昼】

担当者名 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英中国済営比人律
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法 (和佐敦子著、朝日出版) 昨年度のテキストの前期の続きを、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、テキストの例文を学習します。
最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。
スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典 (小学館)
新スペイン語 (研究社)
現代スペイン語辞典 (白水社)
プログレッシブスペイン語辞典 (小学館)
パスポート初級スペイン語辞典 (白水社)
他多数有。
白水社の別の西和辞典 (高橋編) は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典:
和西辞典 (宮城、コントレラス監修: 白水社)
クラウン和西辞典 (三省堂)
その他
図説スペインの歴史 (川成洋、中西省三編: 河出書房新社)
スペインの歴史 (立石、関、中川、中塚著: 昭和堂)
スペイン (増田監修: 新潮社)
スペインの社会 (寿里、原編: 早稲田大学出版)
スペインの政治 (川成、奥島編: 早稲田大学出版)
スペインの経済 (戸門、原編: 早稲田大学出版)
スペイン語とつきあう本 (寿里著: 東洋書店)
スペイン語基礎文法 (口ボ、大森、広康共訳: ピアソンエデュケーション)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 未来形とその関連時制の用法 (1)
 - 2 同上 (2)
 - 3 前期を含め、様々な構文のまとめ (受け身、使役、放任、比較など) (1)
 - 4 同上 (2)
 - 5 過去完了と時制の一致
 - 6 受け身文、無人称文 (1)
 - 7 同上 (2)
 - 8 接続法の活用全般について
 - 9 接続法の用法 (1)
 - 10 接続法の用法 (2)
 - 11 スペイン語版トトロを理解する (1)
 - 12 スペイン語版トトロを理解する (2)
 - 13 スペイン語版トトロを理解する (3)
 - 14 スペイン語版トトロを理解する (4)
 - 15 まとめ
- 授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価 (小テスト、口頭での答え、作文など) も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり (読む、書くなど) や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合 (例えば小テストを受けていないなど) は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験 100% + 授業中評価20% = 120% で60%を超えていれば単位を認定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。教科書を中心に会話表現を学んで行き、何度も音声を聞き暗記をし繰り返し声に出しましょう。習った会話表現を使いクラス内でスペイン語発表も行います。また時折、プリントや映像・音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。

教科書 /Textbooks

『会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語』本間芳江、安富雄平、Enrique Almaraz Romo著、三修社、2020

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、1課 自己紹介 seの無主語文
- 2回 1課 リピーティング・シャドウイング
- 3回 2課 カフェテリアで 趣味の話など 再帰動詞
- 4回 2課 リピーティング・シャドウイング
- 5回 3課 花見 直説法現在完了
- 6回 3課 リピーティング・シャドウイング
- 7回 4課 買い物 目的格人称代名詞
- 8回 4課 リピーティング・シャドウイング
- 9回 5課 回転寿司 現在分詞
- 10回 5課 リピーティング・シャドウイング
- 11回 6課 サッカー 直説法点過去・線過去・過去完了
- 12回 6課 リピーティング・シャドウイング
- 13回 7課 電車にて 3人称複数無主語文
- 14回 7課 リピーティング・シャドウイング
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、文のおおよその意味を推測してくる、最低3回は声に出して文を読んでくる。
事後学習：音声を何度も流してテキストを見ずにスペイン語をリポートしていく、またスペイン語の速度に合わせてシャドウイングを行う。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができます。
また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。
<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)
<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)
また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き教科書を使用しながら会話表現を更に発展させていきます。教科書を中心に会話表現を学んで行き、何度も音声を聞き暗記をし繰り返し声に出しましょう。習った会話表現を使いクラス内でスペイン語発表も行います。また時折、プリントや映像・音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。

教科書 /Textbooks

『会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語』本間芳江、安富雄平、Enrique Almaraz Romo著、三修社、2020 (1学期と同じ)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 8課 旅館で 直説法未来・過去未来
- 2回 8課 リピーティング・シャドウイング
- 3回 9課 明治神宮 受身表現
- 4回 9課 リピーティング・シャドウイング
- 5回 10課 パルで gustar型構文
- 6回 10課 リピーティング・シャドウイング
- 7回 11課 オリンピック秘話 接続法現在
- 8回 11課 リピーティング・シャドウイング
- 9回 12課 新幹線 quizáを使った接続法、比較級
- 10回 12課 リピーティング・シャドウイング
- 11回 13課 銀座への行き方 命令文
- 12回 13課 リピーティング・シャドウイング
- 13回 14課 通訳依頼の電話 条件文
- 14回 14課 リピーティング・シャドウイング
- 15回 15課 浅草寺で 接続法過去・過去完了 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、文のおおよその意味を推測してくる、最低3回は声に出して文を読んでくる。
事後学習：音声を何度も流しテキストを見ずにスペイン語をリポートしていく、またスペイン語の速度に合わせてシャドウイングを行う。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級 (I・II・III・IV) の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。
また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。
<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)
<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)
また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

中国語初級会話BⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常生活に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」辞書
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編(中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話BⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」辞書
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝世峰主編(中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話BⅠ【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」辞書
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編 (中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」辞書
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝世峰主編(中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」辞書
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編(中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語初級会話BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科1年生を対象に、中国語初級のコミュニケーションが取れることを目指しながら中国の様々な都市や文化、地理、又は歴史等の知識を習得します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

1. 「中日・日中」辞書
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝世峰主編(中国書店) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話A1【昼】

担当者名 /Instructor 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2) 日常生活面での必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 自己紹介 (講読)
- 2回 暗誦 (1課) 第2課 家族 (講読)
- 3回 暗誦 (2課) 会話練習
- 4回 第3課 父母 (講読)
- 5回 暗誦 (3課) 第4課 友達 (講読)
- 6回 暗誦 (4課) 会話練習
- 7回 第5課 住居 (講読)
- 8回 暗誦 (5課) 第6課 通勤通学 (講読)
- 9回 暗誦 (6課) 会話練習
- 10回 第7課 飲物 (講読)
- 11回 暗誦 (7課) 第8課 休日 (講読)
- 12回 暗誦 (8課) 会話練習
- 13回 第9課 送り迎え-電話会話 (講読)
- 14回 暗誦 (9課) 第10課 病気 (講読)
- 15回 暗誦 (10課) 会話練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 40% 暗誦テスト・ ・ 30% 日常の授業への取り組み・ ・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話A1【昼】

担当者名 /Instructor 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2) 日常生活面での必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 自己紹介(講読)
- 2回 暗誦(1課) 第2課 家族(講読)
- 3回 暗誦(2課) 会話練習
- 4回 第3課 父母(講読)
- 5回 暗誦(3課) 第4課 友達(講読)
- 6回 暗誦(4課) 会話練習
- 7回 第5課 住居(講読)
- 8回 暗誦(5課) 第6課 通勤通学(講読)
- 9回 暗誦(6課) 会話練習
- 10回 第7課 飲物(講読)
- 11回 暗誦(7課) 第8課 休日(講読)
- 12回 暗誦(8課) 会話練習
- 13回 第9課 送り迎え-電話会話(講読)
- 14回 暗誦(9課) 第10課 病気(講読)
- 15回 暗誦(10課) 会話練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること!

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話A1【昼】

担当者名 /Instructor 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
- (2) 日常生活面での必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 自己紹介(講読)
- 2回 暗誦(1課) 第2課 家族(講読)
- 3回 暗誦(2課) 会話練習
- 4回 第3課 父母(講読)
- 5回 暗誦(3課) 第4課 友達(講読)
- 6回 暗誦(4課) 会話練習
- 7回 第5課 住居(講読)
- 8回 暗誦(5課) 第6課 通勤通学(講読)
- 9回 暗誦(6課) 会話練習
- 10回 第7課 飲物(講読)
- 11回 暗誦(7課) 第8課 休日(講読)
- 12回 暗誦(8課) 会話練習
- 13回 第9課 送り迎え-電話会話(講読)
- 14回 暗誦(9課) 第10課 病気(講読)
- 15回 暗誦(10課) 会話練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること!

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話AII【昼】

担当者名 /Instructor 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
- (2) 日常生活面での必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第11課 入院 (講読)
- 2回 暗誦 (11課) 第12課 旅行 (講読)
- 3回 暗誦 (12課) 会話練習
- 4回 第13課 訃報 (講読)
- 5回 暗誦 (13課) 第14課 放送 (講読)
- 6回 暗誦 (14課) 会話練習
- 7回 第15課 手紙 (講読)
- 8回 暗誦 (15課) 第16課 ローン (講読)
- 9回 暗誦 (16課) 会話練習
- 10回 第17課 天候 (講読)
- 11回 暗誦 (17課) 第18課 繁華街 (講読)
- 12回 暗誦 (18課) 会話練習
- 13回 第19課 スポーツ (講読)
- 14回 暗誦 (19課) 第20課 受験 (講読)
- 15回 暗誦 (20課) 会話練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 40% 暗誦テスト・ ・ 30% 日常の授業への取り組み・ ・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話AII【昼】

担当者名 /Instructor 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
- (2) 日常生活面での必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第11課 入院 (講読)
- 2回 暗誦 (11課) 第12課 旅行 (講読)
- 3回 暗誦 (12課) 会話練習
- 4回 第13課 訃報 (講読)
- 5回 暗誦 (13課) 第14課 放送 (講読)
- 6回 暗誦 (14課) 会話練習
- 7回 第15課 手紙 (講読)
- 8回 暗誦 (15課) 第16課 ローン (講読)
- 9回 暗誦 (16課) 会話練習
- 10回 第17課 天候 (講読)
- 11回 暗誦 (17課) 第18課 繁華街 (講読)
- 12回 暗誦 (18課) 会話練習
- 13回 第19課 スポーツ (講読)
- 14回 暗誦 (19課) 第20課 受験 (講読)
- 15回 暗誦 (20課) 会話練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 40% 暗誦テスト・ ・ 30% 日常の授業への取り組み・ ・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話AII【昼】

担当者名 /Instructor 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、実用的なレベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
- (2) 日常生活面での必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国語実習コース』 張 乃方著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第11課 入院 (講読)
- 2回 暗誦 (11課) 第12課 旅行 (講読)
- 3回 暗誦 (12課) 会話練習
- 4回 第13課 訃報 (講読)
- 5回 暗誦 (13課) 第14課 放送 (講読)
- 6回 暗誦 (14課) 会話練習
- 7回 第15課 手紙 (講読)
- 8回 暗誦 (15課) 第16課 ローン (講読)
- 9回 暗誦 (16課) 会話練習
- 10回 第17課 天候 (講読)
- 11回 暗誦 (17課) 第18課 繁華街 (講読)
- 12回 暗誦 (18課) 会話練習
- 13回 第19課 スポーツ (講読)
- 14回 暗誦 (19課) 第20課 受験 (講読)
- 15回 暗誦 (20課) 会話練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 40% 暗誦テスト・ ・ 30% 日常の授業への取り組み・ ・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話B1【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(本文)会話「我想到日本去旅行」練習
- 2回 第二課 東京(本文)
- 3回 第二課 会話「欢迎您来到日本」練習
- 4回 第三課 横浜(本文)
- 5回 第三課 会話「东京的交通真是太方便了」練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 7回 第四課 会話「一级棒」練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 9回 第五課 会話「这里飞往中国的航班有很多」練習
- 10回 第六課 京都(本文)
- 11回 第六課 会話「日本新干线很人性化」練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(本文)
- 13回 第七課 会話「圣德太子是日本的骄傲」練習
- 14回 第八課 大阪(本文)
- 15回 第八課 会話「上海和大阪是友好城市」練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話B1【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(本文)会話「我想到日本去旅行」練習
- 2回 第二課 東京(本文)
- 3回 第二課 会話「欢迎您来到日本」練習
- 4回 第三課 横浜(本文)
- 5回 第三課 会話「东京的交通真是太方便了」練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 7回 第四課 会話「一级棒」練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 9回 第五課 会話「这里飞往中国的航班有很多」練習
- 10回 第六課 京都(本文)
- 11回 第六課 会話「日本新干线很人性化」練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(本文)
- 13回 第七課 会話「圣德太子是日本的骄傲」練習
- 14回 第八課 大阪(本文)
- 15回 第八課 会話「上海和大阪是友好城市」練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話B1【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1) 会話の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2) 様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(本文) 会話「我想到日本去旅行」 練習
- 2回 第二課 東京(本文)
- 3回 第二課 会話「欢迎您来到日本」 練習
- 4回 第三課 横浜(本文)
- 5回 第三課 会話「东京的交通真是太方便了」 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 7回 第四課 会話「一级棒」 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 9回 第五課 会話「这里飞往中国的航班有很多」 練習
- 10回 第六課 京都(本文)
- 11回 第六課 会話「日本新干线很人性化」 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(本文)
- 13回 第七課 会話「圣德太子是日本的骄傲」 練習
- 14回 第八課 大阪(本文)
- 15回 第八課 会話「上海和大阪是友好城市」 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・40% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
- (2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(本文)
- 2回 第九課 会話「北九州是个环保模范城市」 練習
- 3回 第十課 九州(本文)
- 4回 第十課 会話「沖縄是日本最长寿的地方」 練習
- 5回 第十一課 福岡(本文)
- 6回 第十一課 会話「我有一个好朋友住在福冈」 練習
- 7回 第十二課 佐賀(本文)
- 8回 第十二課 会話「佐贺不再是超级乡下了」 練習
- 9回 第十三課 長崎(本文)
- 10回 第十三課 会話「这是中国送的」 練習
- 11回 第十四課 四国(本文)
- 12回 第十四課 会話「这次没时间了,真可惜」 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 14回 第十五課 会話「一部电影的力量」 練習
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・40% 暗唱テスト・・30% 日常の授業への取り組み・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
- (2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(本文)
- 2回 第九課 会話「北九州是个环保模范城市」 練習
- 3回 第十課 九州(本文)
- 4回 第十課 会話「沖縄是日本最长寿的地方」 練習
- 5回 第十一課 福岡(本文)
- 6回 第十一課 会話「我有一个好朋友住在福冈」 練習
- 7回 第十二課 佐賀(本文)
- 8回 第十二課 会話「佐贺不再是超级乡下了」 練習
- 9回 第十三課 長崎(本文)
- 10回 第十三課 会話「这是中国送的」 練習
- 11回 第十四課 四国(本文)
- 12回 第十四課 会話「这次没时间了,真可惜」 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 14回 第十五課 会話「一部电影的力量」 練習
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・40% 暗唱テスト・・30% 日常の授業への取り組み・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語中級会話BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 王 曉芳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、この授業では、中国語で日中の歴史、文化などを紹介、説明することを通じて会話力の向上を図ります。近年、日本を訪れる中国人観光客は増加しています。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)会話の練習などを通して、正しい発音をしっかりと定着させます。
- (2)様々な場面で使う表現を習得し、会話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(本文)
- 2回 第九課 会話「北九州是个环保模范城市」 練習
- 3回 第十課 九州(本文)
- 4回 第十課 会話「沖縄是日本最长寿的地方」 練習
- 5回 第十一課 福岡(本文)
- 6回 第十一課 会話「我有一个好朋友住在福冈」 練習
- 7回 第十二課 佐賀(本文)
- 8回 第十二課 会話「佐贺不再是超级乡下了」 練習
- 9回 第十三課 長崎(本文)
- 10回 第十三課 会話「这是中国送的」 練習
- 11回 第十四課 四国(本文)
- 12回 第十四課 会話「这次没时间了,真可惜」 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 14回 第十五課 会話「一部电影的力量」 練習
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・40% 暗唱テスト・・30% 日常の授業への取り組み・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ずCDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で会話しましょう。
必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語講読I【昼】

担当者名 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

< 中国現代文学作品を読む >

中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に*、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰しながら、様々なジャンルの作品の講読を行います。はじめピンイン付き（部分）のテキストを使用して文章語に慣れ、段階的にピンインがっていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

*中国語初級総合I、IIおよび中国文学概論I、IIを履修済みであることがのぞましい。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航, 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』(京都大学学術出版会、2018年)

○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)

○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)

※その他については授業内で適宜案内をします。

☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス、中国近代・現代文学について(講義)

第2回 エッセイを読む(1) [文学革命・作者について(講義)、作品講読 1]

第3回 エッセイを読む(2) [作品講読 2]

第4回 エッセイを読む(3) [作品講読 3]、エッセイに関する小テスト

第5回 書簡を読む(1) [日常瑣事を描く(講義)、作品講読 1]

第6回 書簡を読む(2) [作品講読 2]

第7回 書簡を読む(3) [作品講読 3]、書簡に関する小テスト

第8回 日記を読む(1) [個人の内面を描く(講義)、作品講読 1]

第9回 日記を読む(2) [作品講読 2]

第10回 日記を読む(3) [作品講読 3]、日記に関する小テスト

第11回 小品文を読む(1) [白話文の普及と教育について(講義)、作品講読 1]

第12回 小品文を読む(2) [作品講読 2]

第13回 小品文を読む(3) [作品講読 3]

第14回 小品文に関する小テスト、総合討論

第15回 まとめ

※毎回配布するテキストに沿って進めます。進度によっては順番が前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験60%、平常点(小テスト、授業への貢献度、出席状況) 40%

※原則、授業回数の3分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。

・ 扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。★携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。
- ・ 予習の段階で単語の意味調べを着実にを行うようにしてください。作品ごとに小テストを実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、現代中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

中国現代文学 / 白話文 / 思想 / 生活 / 文化 / ジェンダー / サイノフォン

中国語講読I【昼】

担当者名 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

< 中国現代文学作品を読む >
中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に*、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰しながら、様々なジャンルの作品の講読を行います。はじめピンイン付き（部分）のテキストを使用して文章語に慣れ、段階的にピンインがっていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

*中国語初級総合I、IIおよび中国文学概論I、IIを履修済みであることがのぞましい。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航, 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』(京都大学学術出版会、2018年)
- 丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)
- 藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)
- ※その他については授業内で適宜案内をします。
- ☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、中国近代・現代文学について(講義)
 - 第2回 エッセイを読む(1) [文学革命・作者について(講義)、作品講読 1]
 - 第3回 エッセイを読む(2) [作品講読 2]
 - 第4回 エッセイを読む(3) [作品講読 3]、エッセイに関する小テスト
 - 第5回 書簡を読む(1) [日常瑣事を描く(講義)、作品講読 1]
 - 第6回 書簡を読む(2) [作品講読 2]
 - 第7回 書簡を読む(3) [作品講読 3]、書簡に関する小テスト
 - 第8回 日記を読む(1) [個人の内面を描く(講義)、作品講読 1]
 - 第9回 日記を読む(2) [作品講読 2]
 - 第10回 日記を読む(3) [作品講読 3]、日記に関する小テスト
 - 第11回 小品文を読む(1) [白話文の普及と教育について(講義)、作品講読 1]
 - 第12回 小品文を読む(2) [作品講読 2]
 - 第13回 小品文を読む(3) [作品講読 3]
 - 第14回 小品文に関する小テスト、総合討論
 - 第15回 まとめ
- ※毎回配布するテキストに沿って進めます。進度によっては順番が前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験60%、平常点(小テスト、授業への貢献度、出席状況)40%

※原則、授業回数の3分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
- ・ 扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。★携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。
- ・ 予習の段階で単語の意味調べを着実にを行うようにしてください。作品ごとに小テストを実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、現代中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

中国現代文学 / 白話文 / 思想 / 生活 / 文化 / ジェンダー / サイノフォン

中国語講読I【昼】

担当者名 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

< 中国現代文学作品を読む >
中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に*、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰しながら、様々なジャンルの作品の講読を行います。はじめピンイン付き（部分）のテキストを使用して文章語に慣れ、段階的にピンインがっていない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

*中国語初級総合I、IIおよび中国文学概論I、IIを履修済みであることがのぞましい。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航, 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』(京都大学学術出版会、2018年)
- 丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)
- 藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)
- ※その他については授業内で適宜案内をします。
- ☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、中国近代・現代文学について(講義)
 - 第2回 エッセイを読む(1) [文学革命・作者について(講義)、作品講読 1]
 - 第3回 エッセイを読む(2) [作品講読 2]
 - 第4回 エッセイを読む(3) [作品講読 3]、エッセイに関する小テスト
 - 第5回 書簡を読む(1) [日常瑣事を描く(講義)、作品講読 1]
 - 第6回 書簡を読む(2) [作品講読 2]
 - 第7回 書簡を読む(3) [作品講読 3]、書簡に関する小テスト
 - 第8回 日記を読む(1) [個人の内面を描く(講義)、作品講読 1]
 - 第9回 日記を読む(2) [作品講読 2]
 - 第10回 日記を読む(3) [作品講読 3]、日記に関する小テスト
 - 第11回 小品文を読む(1) [白話文の普及と教育について(講義)、作品講読 1]
 - 第12回 小品文を読む(2) [作品講読 2]
 - 第13回 小品文を読む(3) [作品講読 3]
 - 第14回 小品文に関する小テスト、総合討論
 - 第15回 まとめ
- ※毎回配布するテキストに沿って進めます。進度によっては順番が前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験60%、平常点(小テスト、授業への貢献度、出席状況)40%

※原則、授業回数の3分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
- ・ 扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。★携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。
- ・ 予習の段階で単語の意味調べを着実にを行うようにしてください。作品ごとに小テストを実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、現代中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

中国現代文学 / 白話文 / 思想 / 生活 / 文化 / ジェンダー / サイノフォン

中国語講読II 【昼】

担当者名 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

< 中国現代文学作品を読む >

中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に*、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、様々なジャンルの作品の講読を行います。後期はピンインがない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

*中国語初級総合I、IIおよび中国文学概論I、IIを履修済みであることがのぞましい。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航, 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』(京都大学学術出版会、2018年)
 - 丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)
 - 藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)
- ※その他については授業内で適宜案内をします。
☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、実カテスト
 - 第2回 小品文を読む(1)・グループ分け [文学ジャンルとしての「小品文」について(講義)、作品講読1]
 - 第3回 小品文を読む(2)・グループ発表 [作品講読2]
 - 第4回 小品文を読む(3)・グループ発表 [作品講読3]
 - 第5回 小品文に関する小テスト、短編小説を読む(1) [作者と都市文学について(講義)、作品講読1]
 - 第6回 短編小説を読む(2) [作品講読2]
 - 第7回 短編小説を読む(3) [作品講読3]
 - 第8回 短編小説に関する小テスト、文芸評論を読む(1) [サイノフォン：魯迅から温又柔まで(講義)]
 - 第9回 文芸評論を読む(2) [文学革命から女子教育、女性の社会進出について(講義)]
 - 第10回 文芸評論を読む(3)
 - 第11回 文芸評論に関する小テスト、散文詩を読む(1) [作者とその時代について(講義)、作品講読1]
 - 第12回 散文詩を読む(2) [作品講読2]
 - 第13回 散文詩を読む(3) [作品講読3]
 - 第14回 散文詩に関する小テスト、総合討論
 - 第15回 まとめ
- ※毎回配布するテキストに沿って進めます。進度によっては順番が前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験60%、平常点(小テスト、授業への貢献度、出席状況)40%

※原則、授業回数の3分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
- ・ 扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。★携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。
- ・ 予習の段階で単語の意味調べを着実に行うようにしてください。作品ごとに小テストを実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

中国現代文学 / 白話文 / 思想 / 生活 / 文化 / ジェンダー / サイノフォン

中国語講読II【昼】

担当者名 /Instructor 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

< 中国現代文学作品を読む >
中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に*、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、様々なジャンルの作品の講読を行います。後期はピンインがない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

*中国語初級総合I、IIおよび中国文学概論I、IIを履修済みであることがのぞましい。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航, 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』(京都大学学術出版会、2018年)
 - 丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)
 - 藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)
- ※その他については授業内で適宜案内をします。
☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、実カテスト
 - 第2回 小品文を読む(1)・グループ分け [文学ジャンルとしての「小品文」について(講義)、作品講読1]
 - 第3回 小品文を読む(2)・グループ発表 [作品講読2]
 - 第4回 小品文を読む(3)・グループ発表 [作品講読3]
 - 第5回 小品文に関する小テスト、短編小説を読む(1) [作者と都市文学について(講義)、作品講読1]
 - 第6回 短編小説を読む(2) [作品講読2]
 - 第7回 短編小説を読む(3) [作品講読3]
 - 第8回 短編小説に関する小テスト、文芸評論を読む(1) [サイノフォン：魯迅から温又柔まで(講義)]
 - 第9回 文芸評論を読む(2) [文学革命から女子教育、女性の社会進出について(講義)]
 - 第10回 文芸評論を読む(3)
 - 第11回 文芸評論に関する小テスト、散文詩を読む(1) [作者とその時代について(講義)、作品講読1]
 - 第12回 散文詩を読む(2) [作品講読2]
 - 第13回 散文詩を読む(3) [作品講読3]
 - 第14回 散文詩に関する小テスト、総合討論
 - 第15回 まとめ
- ※毎回配布するテキストに沿って進めます。進度によっては順番が前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験60%、平常点(小テスト、授業への貢献度、出席状況)40%

※原則、授業回数の3分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
- ・ 扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。★携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。
- ・ 予習の段階で単語の意味調べを着実に行うようにしてください。作品ごとに小テストを実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

中国現代文学 / 白話文 / 思想 / 生活 / 文化 / ジェンダー / サイノフォン

中国語講読II 【昼】

担当者名 /Instructor 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

< 中国現代文学作品を読む >

中国語の基本的な文法や語彙を習得した学生を対象に*、20世紀中国の五四新文化運動から中華人民共和国建国までの文学運動史を俯瞰し、様々なジャンルの作品の講読を行います。後期はピンインがない原文を読みます。特に翻訳技術の向上を目指すとともに、作品の社会的背景について学習します。

*中国語初級総合I、IIおよび中国文学概論I、IIを履修済みであることがのぞましい。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航, 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』(京都大学学術出版会、2018年)

○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)

○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)

※その他については授業内で適宜案内をします。

☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、実カテスト
 - 第2回 小品文を読む(1)・グループ分け [文学ジャンルとしての「小品文」について(講義)、作品講読1]
 - 第3回 小品文を読む(2)・グループ発表 [作品講読2]
 - 第4回 小品文を読む(3)・グループ発表 [作品講読3]
 - 第5回 小品文に関する小テスト、短編小説を読む(1) [作者と都市文学について(講義)、作品講読1]
 - 第6回 短編小説を読む(2) [作品講読2]
 - 第7回 短編小説を読む(3) [作品講読3]
 - 第8回 短編小説に関する小テスト、文芸評論を読む(1) [サイノフォン：魯迅から温又柔まで(講義)]
 - 第9回 文芸評論を読む(2) [文学革命から女子教育、女性の社会進出について(講義)]
 - 第10回 文芸評論を読む(3)
 - 第11回 文芸評論に関する小テスト、散文詩を読む(1) [作者とその時代について(講義)、作品講読1]
 - 第12回 散文詩を読む(2) [作品講読2]
 - 第13回 散文詩を読む(3) [作品講読3]
 - 第14回 散文詩に関する小テスト、総合討論
 - 第15回 まとめ
- ※毎回配布するテキストに沿って進めます。進度によっては順番が前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験60%、平常点(小テスト、授業への貢献度、出席状況)40%

※原則、授業回数の3分の1以上欠席した場合は学期末試験を受けることができません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 難易度の高い授業になるため、必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
- ・ 扱う文化事象について、授業中に関連の文学作品・映画や参考文献を紹介するので、授業後に自分でみるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読の形態で授業を進めます。随時指名しますので、担当者は音読のうえ、訳を述べてください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。★携帯電話等の辞書アプリの使用は原則として認めません。
- ・ 予習の段階で単語の意味調べを着実に行うようにしてください。作品ごとに小テストを実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国現代文学の世界へようこそ。作品の講読を通じて、中国の思想や生活、文化について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

中国現代文学 / 白話文 / 思想 / 生活 / 文化 / ジェンダー / サイノフォン

中国語リスニングI【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』(第二版) 毛悦主编 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 买东西(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 2回 第一課 买东西(2) 四. 听课文做练习 五. 泛听练习
- 3回 第二課 看病(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 4回 第二課 看病(2) 四. 听课文做练习 五. 泛听练习
- 5回 第三課 去餐厅吃饭(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 6回 第三課 去餐厅吃饭(2) 四. 听课文做练习 五. 泛听练习
- 7回 第四課 问路(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 8回 第四課 问路(2) 四. 听课文做练习 五. 泛听练习
- 9回 第五課 寄东西(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 10回 第五課 寄东西(2) 四. 听课文做练习 五. 泛听练习
- 11回 第六課 旅游(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 12回 第六課 旅游(2) 四. 听课文做练习 五. 泛听练习
- 13回 第七課 修理(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 14回 第七課 修理(2) 四. 听课文做练习 五. 泛听练习
- 15回 综合复习

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。
各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語リスニングI【昼】

担当者名 /Instructor 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』（第二版）毛 悦主编 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 买东西(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 2回 第一課 买东西(2) 四. 听课文做练习 五. 泛听练习
- 3回 第二課 看病(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 4回 第二課 看病(2) 四. 听课文做练习 五. 泛听练习
- 5回 第三課 去餐厅吃饭(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 6回 第三課 去餐厅吃饭(2) 四. 听课文做练习 五. 泛听练习
- 7回 第四課 问路(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 8回 第四課 问路(2) 四. 听课文做练习 五. 泛听练习
- 9回 第五課 寄东西(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 10回 第五課 寄东西(2) 四. 听课文做练习 五. 泛听练习
- 11回 第六課 旅游(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 12回 第六課 旅游(2) 四. 听课文做练习 五. 泛听练习
- 13回 第七課 修理(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 14回 第七課 修理(2) 四. 听课文做练习 五. 泛听练习
- 15回 综合复习

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。
各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語リスニングI【昼】

担当者名 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』（第二版）毛 悦主编 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | | |
|-----|------|----------|------------------------|
| 1回 | 第一課 | 买东西(1) | 一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习 |
| 2回 | 第一課 | 买东西(2) | 四. 听课文做练习 五. 泛听练习 |
| 3回 | 第二課 | 看病(1) | 一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习 |
| 4回 | 第二課 | 看病(2) | 四. 听课文做练习 五. 泛听练习 |
| 5回 | 第三課 | 去餐厅吃饭(1) | 一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习 |
| 6回 | 第三課 | 去餐厅吃饭(2) | 四. 听课文做练习 五. 泛听练习 |
| 7回 | 第四課 | 问路(1) | 一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习 |
| 8回 | 第四課 | 问路(2) | 四. 听课文做练习 五. 泛听练习 |
| 9回 | 第五課 | 寄东西(1) | 一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习 |
| 10回 | 第五課 | 寄东西(2) | 四. 听课文做练习 五. 泛听练习 |
| 11回 | 第六課 | 旅游(1) | 一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习 |
| 12回 | 第六課 | 旅游(2) | 四. 听课文做练习 五. 泛听练习 |
| 13回 | 第七課 | 修理(1) | 一. 生詞 二. 格式与范句 三. 热身练习 |
| 14回 | 第七課 | 修理(2) | 四. 听课文做练习 五. 泛听练习 |
| 15回 | 综合复习 | | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。
各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語リスニングII 【昼】

担当者名 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、1学期の引き続き、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』（第二版）毛 悦主编 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第八課 休闲娱乐(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 2回 第八課 休闲娱乐(2) 四. 听课文做练习 五. 泛听练习
- 3回 第九課 谈学习(1) 一. 生词 二. 格式范句 三. 热身练习
- 4回 第九課 谈学习(2) 四. 听课文做练习
- 5回 第九課 谈学习(3) 五. 泛听练习
- 6回 第十課 家庭(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 7回 第十課 家庭(2) 四. 听课文做练习
- 8回 第十課 家庭(3) 五. 泛听练习
- 9回 第十一課 北京见闻(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 10回 第十一課 北京见闻(2) 四. 听课文做练习
- 11回 第十一課 北京见闻(3) 五. 泛听练习
- 12回 第十二課 社会问题(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 13回 第十二課 社会问题(2) 四. 听课文做练习
- 14回 第十二課 社会问题(3) 五. 泛听练习
- 15回 综合复习

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。
各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語リスニングII 【昼】

担当者名 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、1学期の引き続き、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』（第二版）毛 悦主编 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第八課 休闲娱乐(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 2回 第八課 休闲娱乐(2) 四. 听课文做练习 五. 泛听练习
- 3回 第九課 谈学习(1) 一. 生词 二. 格式范句 三. 热身练习
- 4回 第九課 谈学习(2) 四. 听课文做练习
- 5回 第九課 谈学习(3) 五. 泛听练习
- 6回 第十課 家庭(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 7回 第十課 家庭(2) 四. 听课文做练习
- 8回 第十課 家庭(3) 五. 泛听练习
- 9回 第十一課 北京见闻(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 10回 第十一課 北京见闻(2) 四. 听课文做练习
- 11回 第十一課 北京见闻(3) 五. 泛听练习
- 12回 第十二課 社会问题(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 13回 第十二課 社会问题(2) 四. 听课文做练习
- 14回 第十二課 社会问题(3) 五. 泛听练习
- 15回 综合复习

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。
各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

中国語リスニングII 【昼】

担当者名 馬 叢慧 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国学科2年生を対象に、1学期の引き続き、学校、買物、病院など様々な場面を設定した対話や短文の形式を用い、それらの内容を聞き取ることによって日常会話や短い文章に対する理解力を高めることが目的である。

教科書 /Textbooks

『汉语听力速成 基础编』（第二版）毛 悦主编 北京语言大学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第八課 休闲娱乐(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 2回 第八課 休闲娱乐(2) 四. 听课文做练习 五. 泛听练习
- 3回 第九課 谈学习(1) 一. 生词 二. 格式范句 三. 热身练习
- 4回 第九課 谈学习(2) 四. 听课文做练习
- 5回 第九課 谈学习(3) 五. 泛听练习
- 6回 第十課 家庭(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 7回 第十課 家庭(2) 四. 听课文做练习
- 8回 第十課 家庭(3) 五. 泛听练习
- 9回 第十一課 北京见闻(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 10回 第十一課 北京见闻(2) 四. 听课文做练习
- 11回 第十一課 北京见闻(3) 五. 泛听练习
- 12回 第十二課 社会问题(1) 一. 生词 二. 格式与范句 三. 热身练习
- 13回 第十二課 社会问题(2) 四. 听课文做练习
- 14回 第十二課 社会问题(3) 五. 泛听练习
- 15回 综合复习

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況10%、小テスト20%、期末試験70%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各課に入る前に単語を覚えること。
各課の小テストの前に「復述句子」を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室に入ったらできるだけ中国語で話しましょう。

キーワード /Keywords

リスニング 聴力 単語

研究演習 1 A 【昼】

担当者名 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

< 中国語圏文学研究 >

本演習では、中国現代文学作品の精読を通じて、その文学芸術を味わうとともに、作品に介在する人や社会について考察します。考察に際し、中国語で書かれた参考文献のほか、日本文学および外国文学の翻訳書を活用します。前期は指定の文献を輪読し、プレゼンテーションや討論を行います。同時に資料検索や分析、プレゼンテーションの方法について学びます。後期はそれぞれの興味に基づくテーマを決め、それに沿って同様に輪読、討論を行います。卒業時にオリジナリティーと一定の学問性を兼備する卒業論文を提出することを最終目標に、本演習では研究を進めるための基礎的な訓練を行います。

* 研究演習A(前期) : 指定された作品や評論について担当者を決めて輪読し、全体で討論を行います(担当者は発表用の資料を作成します)。学期末に仮テーマ、およびテーマ選択の経緯(i自身の興味、ii先行研究状況、iii問題の所在)の発表を行い、以上の内容をレポートにまとめます。

* 研究演習B(後期) : 学期開始後にレポートについて発表をしてもらいます。その後、仮テーマに基づいて作品を選定して、その輪読と討論を全体で行います。学期末に本テーマの発表を行い、卒論の骨子をレポートにまとめます。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小浜 正子, 下倉 涉, 佐々木 愛, 高嶋 航, 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』(京都大学学術出版会、2018年)
- 丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)
- ・中国文芸研究会編『図説 中国20世紀文学 解説と資料』(白帝社、1995年)
- 藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)
- 銭理群, 温儒敏, 呉福輝『中国現代文学三十年』(北京大学出版社、1998年)
- ※その他については授業内で随時紹介します。
- ☆図書館「授業関連コーナー: 鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス: 「中国現代文学を読む視点: ジェンダー・日本・サイノフォン」〔講義〕、担当決め
- 第2回 現代文学における女性表象、研究方法について〔講義〕
- 第3回 魯迅『故郷』精読(1)
- 第4回 魯迅『故郷』精読(2)
- 第5回 魯迅『故郷』精読(3)
- 第6回 魯迅『故郷』精読(4)
- 第7回 魯迅作品の延伸閱讀読、楊おばさんとその時代〔講義〕、
- 第8回 魯迅『故郷』精読(5)
- 第9回 魯迅『故郷』精読(6)
- 第10回 魯迅『故郷』精読(7)
- 第11回 魯迅『故郷』精読(8)
- 第12回 民国時期の少年・少女の表象について〔講義・作品精読〕
- 第13回 まとめ、現代文学における女性表象2〔講義〕
- 第14回 仮・研究テーマの発表(1)
- 第15回 仮・研究テーマの発表(2)
- ※進度によっては順番が前後することがあります。また、テキストの変更・追加の可能性がります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のプレゼンテーションと討論 50%、中間・学期末のレポート 50%

※討論は担当回以外での発言も含まれます。

※発表した仮・研究テーマと関連がある書籍を各自一冊決定し、夏休み明けにその内容を紹介してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 担当者以外も必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。
- ・ 授業前に一度音読をしておいてください。
- ・ 授業後に授業中の討論内容を振り返り、論点を整理してください。考え直しや調べ直しの結果を翌週以降に報告してもらうこともあります。

研究演習 1 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 担当者を決めて輪読します。担当者は担当箇所の翻訳のほか、考察も行います。担当者は発表用のレジユメを作成してください。
- ・ 考察の際、自身の問題意識を提示すると同時に、関連する（と思われる）作品または関連図書を提示してください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。
- ・ 中国作品講読I、IIを事前に履修しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語圏地域の「近代」の歩みを理解するうえで重要な視点の一つが日本です。悠久の交流史を有する中国語圏地域と日本は、現代に至り、より活発な相互交流を行うようになりました。交流の内容は思想や文化に留まらず、ことば、人間など多岐にわたります。文学についてみれば小詩、小品文、演劇などいずれも直接日本の影響を受けています。現代の中国語圏地域を読み解く際、日本は重要なキーワードとなりうるでしょう。

キーワード /Keywords

中国語圏文学 / 生活 / 思想 / 文化 / 越境 / ジェンダー / サイノフォン

研究演習 2 A 【昼】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

< 中国古典文学研究 >

1. 概要

本演習（ゼミ）では中国の古典文学をテーマとし、中国でも日本でも人気のある『三国志演義』を取り上げます。

『三国志演義』は、明代に羅貫中という人物が、それまでに語られていた三国時代の物語を集大成して成立したもので、「白話」と呼ばれる中国語で書かれています。白話で書かれた小説、いわゆる白話小説は、明清時代を代表する文学です。

この演習では作品を読み、日本語に訳していきます。一読者として読むなら、あまり一字一句にこだわって読むことはないでしょうし、分かりにくいところは読み飛ばしてしまうこともあるでしょう。ですが、この演習ではそのような読み方はしません。言葉の意味や働き、表現の特徴、言葉や表現の背景、物語の流れ、三国時代または明代の習俗・文化・価値観などを可能な限り理解しながら読んでいきます。ゼミ生にはそういうところを意識して担当してもらいます。担当者は作成した資料に基づいて発表し、それについて担当者以外の全員で検討します。文言文に興味のある人がいれば、歴史書の『三国志』や三国時代に関する詩文を読んでもらうかもしれません。

本演習を通して古典文学を読む方法を学んで下さい。ここで学んだ方法は、『三国志演義』はもちろんですが、他の小説や他のジャンルの作品を読む際にも活用できます。また現代中国語の文章の読解力も身につくと思います。

2. 目標

(1) 作品に関して

①近世白話小説について理解する。②『三国志演義』『三国志』について理解する。③言葉の意味や働き、表現の特徴を理解する。④言葉や表現の背景を理解する。⑤三国時代や明代の社会や文化等について理解する。⑥古典文学の研究方法を学ぶ。

(2) 発表に関して

①聞いている人が理解しやすい説明をする。②発表に対して質問やコメントをする。

(3) 課題作成に関して

①気になる点や問題点を見つける。②関連する資料を収集する。③決められた文字数でまとめる。

など

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

(1)『三国志』『三国志演義』に関する参考書、また演習をするにあたっての参考書は授業中に紹介します。

(2)中国古典文学に関する参考書として次のものを挙げておきます。

○『中国文学を学ぶ人のために』（興膳宏編、世界思想社、1991年）

○『教養のための中国古典文学史』（松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎、研文出版、2009年）

○『漢詩のレッスン』（川合康三、岩波書店[岩波ジュニア新書]、2014年）

×『中国近世小説への招待-才子と佳人と豪傑と』（大木康、日本放送出版協会[NHKライブラリー]、2001年）

○『中国の五大小説（上・下）』（井波律子、岩波書店[岩波新書]、2008～2009年）

など

研究演習 2 A 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 【講義】 三国時代について-歴史・文学-
- 第2回 【講義】 『三国志』『三国志演義』について
- 第3回 【演習】 作品の精読(1)
- 第4回 【演習】 作品の精読(2)
- 第5回 【演習】 作品の精読(3)
- 第6回 【演習】 作品の精読(4)
- 第7回 【演習】 作品の精読(5)
- 第8回 【演習】 作品の精読(6)
- 第9回 【演習】 作品の精読(7)
- 第10回 【演習】 作品の精読(8)
- 第11回 【演習】 作品の精読(9)
- 第12回 【演習】 作品の精読(10)
- 第13回 【演習】 作品の精読(11)
- 第14回 【演習】 作品の精読(12)
- 第15回 【演習】 作品の精読(13)

注1. 『三国志演義』(全2冊)(人民文学出版社、1973年第3版。初版は1953年)を底本として読んでいきます。発表は担当を決めて行っていきます。担当者には発表用の資料を作ってもらいます。

注2. ゼミ募集のパンフレットでは、蜀成立以降を読むと書きましたが、変更して赤壁の戦いの少し後を読んでいきます。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表と質疑応答(50%) + 担当でない箇所における発言(10%) + 課題(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】

- ①発表者-自分の担当箇所について調べる。資料を作成する。
- ②発表者以外-発表者の担当箇所を読んでおく。自分の担当箇所について調べ、資料を作成する。
- ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

【事後】

- ①発表者-質疑応答を踏まえて、考え直しや調べ直しをする。資料の訂正版を作成する。
- ②発表者以外-自分の担当箇所について調べ、資料を作成する。
- ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1. この演習は発表者が発表するだけでは成立しません。発表者以外の人の質問や意見、コメントも必要です。
- 2. 人が聞いてわかる(わかってもらう)発表をするにはどうすれば良いかを考えて下さい。
- 3. 自分だったらどう訳すだろう、どう調べるだろうを考えて下さい。

キーワード /Keywords

三国志、三国志演義、近世白話小説、中国古典文学、建安文学

研究演習 3 A 【昼】

担当者名 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業では、『中国語音声学I・II』で学んだ音声学の基礎的知識を確認しつつ、さらに一歩進めて、日本語や中国語の音声に関する論文を読みます。論文の内容について発表し、問題点を探り、みんなで議論することを通して、中国語や日本語の音声に関する諸問題を理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

授業時に資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤昭 『中国音声学概説』 2019年
湯沢質幸・松崎寛 『音声・音韻探求法 日本語音声へのいざない』 朝倉書店 2004年
竹内京子・木村琢也著 『楽しい音声学』 くらしお出版 2019年
日下恒夫 『アタマで知り、カラダで覚える中国語の発音』 アルク 2007年
川原繁人 『音とことばのふしぎな世界—メイド声から英語の達人まで』 岩波書店 2015年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 図書館ツアー
- 3回 音声学とは
- 4回 発音記号を覚えよう(1)
- 5回 発音記号を覚えよう(2)
- 6回 発音記号を覚えよう(3)
- 7回 さまざまな音声現象
- 8回 音素
- 9回 音節
- 10回 アクセント
- 11回 イントネーション
- 12回 鼻濁音について
- 13回 清音・濁音・半濁音
- 14回 日本語・中国語音韻体系
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(発表、宿題など)・・・50%、レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講生は毎回発表(宿題、発音練習、語彙調べ、日本語訳)ができるように事前に準備(予習)をしておくこと。
また、宿題については、日本語学・中国語学の概説書や研究書に目を通して意見を出せるように準備しておくこと。
授業後は、授業中に知り得た専門知識について再度まとめたり、図書館で関連する文献を調べるなどして、興味関心を広げること。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 欠席をする場合は必ず事前にメールで連絡をすること。
- ・ 締め切りを過ぎての課題提出は受け付けない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでの中国語の発音をもう一度再確認する機会にしてください。
授業での予習はきちんと行ってください。その際に、疑問に思ったことなどは授業で積極的に提出してましょ。討論を通して問題発見、どのように解決していくかということを学んでいきます。

キーワード /Keywords

音声 IPA 中国語 日本語

研究演習 4 A 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国をはじめとする各経済を社会科学的視点から分析する力を養成することを目的とする。
中国やその他の経済・社会をより深く理解するために、テキストをもとにレジュメを作成し報告・討論を行う。
実証分析を行うための基本的な統計学、経済学の知識及び分析手法の修得を目指す。
ゼミ生の自主性を養うことを重視し、スキルの修得や文献の講読及びそれに基づくディスカッションは、担当者による分担部分の文献の紹介、記載事項に関する知識の整理、論点の提示がおこなわれ、それに基づくゼミメンバーによるディスカッションをおこなう、というスタイルをとる。
経済分析の実践のためにパソコンを使った実習を行う。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年
岩崎一郎『比較経済論講義』日本評論社 2018年
白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年
伊藤公一郎『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年
他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
 - 2回 テキスト選定、レジュメ作成の方法について
 - 3回 テキスト輪読、ディスカッション(1)
 - 4回 テキスト輪読、ディスカッション(2)
 - 5回 テキスト輪読、ディスカッション(3)
 - 6回 テキスト輪読、ディスカッション(4)
 - 7回 テキスト輪読、ディスカッション(5)
 - 8回 テキスト輪読、ディスカッション(6)
 - 9回 テキスト輪読、ディスカッション(7)
 - 10回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(1)
 - 11回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(2)
 - 12回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(3)
 - 13回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(4)
 - 14回 テキスト輪読、ディスカッション、データの読み方(5)
 - 15回 まとめ
- * 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により概ね以下のように評価する。

輪読・報告準備及びゼミでの報告 50% ディスカッションへの参加状況 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：分担部分だけでなく、輪読の対象文献には全員が目を通してゼミに臨むこと。
事後：ゼミでの議論やこれまでに修得した知識を用いて経済記事や文献を読むよう心がけること。

履修上の注意 /Remarks

中国経済論Ⅲ、時事中国語講読Ⅲ、その他各国・地域の経済に関する科目や経済学に関する科目を履修していることが望ましい。
資料等には事前に目を通してこること。ゼミでの議論には積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 7 A 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

日中戦争・アジア太平洋戦争における日本の戦争加害と歴史認識

日中戦争・アジア太平洋戦争における日本の戦争加害の実相、及び現代日本人の戦争をめぐる歴史認識について理解を深める。

教科書 /Textbooks

日中友好協会編『日本は中国でなにをしたか』本の泉社、2018年、600円

笠原十九司『南京事件』岩波新書、1997年、864円

吉見義明『従軍慰安婦』岩波新書、1995年、864円

姫田光義『「三光作戦」とは何だったか-中国人の見た日本の戦争』岩波ブックレット、1995年、品切れ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田中仁等『新・図説中国近現代史』(法律文化社、2012年、2900円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講説明
- 2回 中国侵略と加害の歴史 ①1915～1931年
- 3回 中国侵略と加害の歴史 ②1932～1945年
- 4回 南京事件研究：①東京裁判と南京軍事法廷、南京爆撃
- 5回 南京事件研究：②上海派遣軍の南京進軍
- 7回 南京事件研究：③南京近郊農村における被害
- 8回 南京事件研究：④南京陥落
- 9回 南京事件研究：⑤南京掃討戦の実相と事件の全貌
- 10回 従軍慰安婦研究：①日中戦争期中国における慰安所の設置
- 11回 従軍慰安婦研究：②アジア太平洋戦争期における慰安所の拡大
- 12回 従軍慰安婦研究：③各地域における慰安婦の徴集と管理
- 13回 従軍慰安婦研究：④国際法と慰安婦
- 14回 三光作戦研究：①三光作戦の開始
- 15回 三光作戦研究：①三光作戦と無人区

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論・課題提出等により総合的に評価する。報告と討論...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当時に入念に準備すること。授業前に担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。授業後に授業中の議論を振り返り、論点を整理すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 8 A 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

ゼミテーマは「明清時代の対朝鮮外交貿易史研究」である。
中国や朝鮮の漢文史料を手掛かりに、明清時代中国の外交・貿易政策、特に朝鮮との関係について考察する。3年次は『明実録』や『清実録』など簡単な資料を読みながら、漢文読解能力を身に付け、4年次は『朝鮮王朝実録』や『燕行録』など朝鮮側の資料を読み進める。漢文がどうしても苦手な学生には中国語やハンガルの論文を読ませることもある。
漢文は現代中国語とはかなり異なる言語であり、中国語ネイティブでも学習経験がなければ必ずしも読めるとは限らない。ましてや日本人の学生は電子辞書に搭載されている漢和辞典だけでは到底読みこなせない。漢籍用の辞書を購入することを義務付ける。

教科書 /Textbooks

- 『明実録朝鮮資料輯録』巴蜀書社、2005年(簡体字表記)
 - 張存武『清韓宗藩貿易1637-1894』中央研究院近代史研究所、1978年(繁体字表記)
 - 『清実録』(筆写本)
- 講読箇所を複写して配布するので購入の必要なし
韓国語論文を選択する学生には別途論文を提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『角川新字源』(購入必須)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討

成績評価の方法 /Assessment Method

漢文資料読解能力60%
歴史的な分析能力40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の予習が全てである。漢文資料を読解する際には、必ず辞書を用いて予習すること。参考書に挙げた『角川新字源』で意味が掴めない場合には、より大部な漢和辞典である『諸橋大漢和』や、現代中国語とも共通する語彙であると推測される場合には、やや古い語彙も収録している『中日大辞典』などで調べる。

履修上の注意 /Remarks

履修者の選抜は行わない。但し当ゼミでは資料読解力と並んで中国・朝鮮に関する知識量が重要である。それは大抵の場合、読書量の多寡によって決定される。中国語学習を単なるスキルの習得とのみ捉えることについて頭から否定はしないが、これまで中国史や朝鮮史について全く関心を持って来なかった学生は当ゼミではなかなかついて来られないと思われるので、他の演習の履修を奨める。
授業前に工具書を用いて資料を読み込むこと。授業後は資料から新しい研究テーマが得られないか考察すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

シラバスはあくまで教育目標。現実にはゼミ生の数、歴史学に関する基礎学力などの実情に合わせ、内容を柔軟に調整している。

研究演習 8 A 【昼】

キーワード /Keywords

研究演習 9 A 【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国語の表現と中国人社会をテーマとして、主に中国語の映像教材や日本語の新聞・雑誌などの教材を使い、中国人と中国の言語・文化・社会に対する理解を深める。又は、中国語に高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。ほぼ毎回発表と討論を行う。

教科書 /Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編(中国書店)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資料を配布
- 2回 発表
- 3回 発表
- 4回 画像を見る
- 5回 発表
- 6回 発表
- 7回 資料を配布
- 8回 発表
- 9回 発表
- 10回 画像を見る
- 11回 発表
- 12回 発表
- 13回 資料を配布
- 14回 発表
- 15回 発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・・・50% 日常の学習状況・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ず予習、準備と復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

キーワード /Keywords

時事 新聞 雑誌 記事 映画

研究演習 1 B 【昼】

担当者名 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

< 中国語圏文学研究 >

本演習では、中国現代文学作品の精読を通じて、その文学芸術を味わうとともに、作品に介在する人や社会について考察します。考察に際し、中国語で書かれた参考文献のほか、日本文学および外国文学の翻訳書を活用します。前期は指定の文献を輪読し、プレゼンテーションや討論を行います。同時に資料検索や分析、プレゼンテーションの方法について学びます。後期はそれぞれの興味に基づくテーマを決め、それに沿って同様に輪読、討論を行います。卒業時にオリジナリティーと一定の学問性を兼備する卒業論文を提出することを最終目標に、本演習では研究を進めるための基礎的な訓練を行います。

* 研究演習A(前期) : 指定された作品や評論について担当者を決めて輪読し、全体で討論を行います(担当者は発表用の資料を作成します)。学期末に仮テーマ、およびテーマ選択の経緯(i自身の興味、ii先行研究状況、iii問題の所在)の発表を行い、以上の内容をレポートにまとめます。

* 研究演習B(後期) : 仮テーマに基づいて文献を選択し、その内容を紹介してもらいます。その後、短編作品の輪読と討論を全体で行います。学期末に本テーマの発表を行い、卒論の骨子をレポートにまとめます。

教科書 /Textbooks

授業中に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小浜 正子, 下倉 涉, 佐々木 愛, 高嶋 航, 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』(京都大学学術出版会、2018年)
- 丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)
- ・中国文芸研究会編『図説 中国20世紀文学 解説と資料』(白帝社、1995年)
- 藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)
- 銭理群, 温儒敏, 呉福輝『中国現代文学三十年』(北京大学出版社、1998年)
- ※その他については授業内で随時紹介します。
- ☆図書館「授業関連コーナー: 鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、夏季休暇課題の発表(1)
- 第2回 夏季休暇課題の発表(2)
- 第3回 夏季休暇課題の発表(3)
- 第4回 図書館ツアー、作品の選定、発表順の決定
- 第5回 選択テーマによる作品の精読
- 第6回 選択テーマによる作品の精読
- 第7回 選択テーマによる作品の精読
- 第8回 選択テーマによる作品の精読
- 第9回 選択テーマによる作品の精読、先行研究の調べ方、論文の分析の仕方について〔講義〕
- 第10回 選択テーマによる作品の精読
- 第11回 選択テーマによる作品の精読
- 第12回 選択テーマによる作品の精読
- 第13回 選択テーマによる作品の精読
- 第14回 まとめ、論文の書き方について〔講義〕
- 第15回 本テーマの発表、卒論報告会でのディスカッション
- ※進度によっては順番が前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のプレゼンテーションと討論 50%、中間・学期末のレポート 50%

- ※討論は担当回以外での発言も含まれます。
- ※学期末に本テーマの発表を行い、卒論の骨子をレポートにまとめたものを提出してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・必ず予習を行ってから受講してください。全員がピンインと意味を調べたうえで授業に臨んでいることを前提に授業を進めます。授業前に音読練習をしてから受講することをおすすめします。
- ・授業後に授業中の討論内容を振り返り、論点を整理してください。考え直しや調べ直しの結果を翌週以降に報告してもらうこともあります。

研究演習 1 B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 担当者を決めて輪読します。報告担当者は担当箇所の翻訳のほか、考察も行います。担当者は発表用のレジюмеを作成してください。
- ・ 考察の際、自身の問題意識を提示すると同時に、関連する（と思われる）作品または関連図書を提示してください。
- ・ 辞書必携。授業中に辞書を使います。
- ・ 中国作品講読I、IIを事前に履修しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語圏地域の「近代」の歩みを理解するうえで重要な視点の一つが日本です。悠久の交流史を有する中国語圏地域と日本は、現代に至り、より活発な相互交流を行うようになりました。交流の内容は思想や文化に留まらず、ことば、人間など多岐にわたります。文学についてみれば小説、小品文、演劇などいずれも直接日本の影響を受けています。現代の中国語圏地域を読み解く際、日本は重要なキーワードとなりうるでしょう。

キーワード /Keywords

中国語圏文学 / 生活 / 思想 / 文化 / 越境 / ジェンダー / サイノフォン

研究演習 2 B 【昼】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

< 中国古典文学研究 >

1. 概要

本演習（ゼミ）では中国の古典文学をテーマとし、中国でも日本でも人気のある『三国志演義』を取り上げます。

『三国志演義』は、明代に羅貫中という人物が、それまでに語られていた三国時代の物語を集大成して成立したもので、「白話」と呼ばれる中国語で書かれています。白話で書かれた小説、いわゆる白話小説は、明清時代を代表する文学です。

この演習では作品を読み、日本語に訳していきます。一読者として読むなら、あまり一字一句にこだわって読むことはないでしょうし、分かりにくいところは読み飛ばしてしまうこともあるでしょう。ですが、この演習ではそのような読み方はしません。言葉の意味や働き、表現の特徴、言葉や表現の背景、物語の流れ、三国時代または明代の習俗・文化・価値観などを可能な限り理解しながら読んでいきます。ゼミ生にはそういうところを意識して担当してもらいます。担当者は作成した資料に基づいて発表し、それについて担当者以外の全員で検討します。文言文に興味のある人がいれば、歴史書の『三国志』や三国時代に関する詩文を読んでもらうかもしれません。

本演習を通して古典文学を読む方法を学んで下さい。ここで学んだ方法は、『三国志演義』はもちろんですが、他の小説や他のジャンルの作品を読む際にも活用できます。また現代中国語の文章の読解力も身につくと思います。

2. 目標

(1) 作品に関して

①近世白話小説について理解する。②『三国志演義』『三国志』について理解する。③言葉の意味や働き、表現の特徴を理解する。④言葉や表現の背景を理解する。⑤三国時代や明代の社会や文化等について理解する。⑥古典文学の研究方法を学ぶ。

(2) 発表に関して

①聞いている人が理解しやすい説明をする。②発表に対して質問やコメントをする。

(3) 課題作成に関して

①気になる点や問題点を見つける。②関連する資料を収集する。③決められた文字数でまとめる。

など

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

(1)『三国志』『三国志演義』に関する参考書、また演習をするにあたっての参考書は授業中に紹介します。

(2)中国古典文学に関する参考書として次のものを挙げておきます。

○『中国文学を学ぶ人のために』（興膳宏編、世界思想社、1991年）

○『教養のための中国古典文学史』（松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎、研文出版、2009年）

○『漢詩のレッスン』（川合康三、岩波書店[岩波ジュニア新書]、2014年）

×『中国近世小説への招待-才子と佳人と豪傑と』（大木康、日本放送出版協会[NHKライブラリー]、2001年）

○『中国の五大小説（上・下）』（井波律子、岩波書店[岩波新書]、2008～2009年）

など

研究演習 2 B 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 【演習】 作品の精読(1)
- 第2回 【演習】 作品の精読(2)
- 第3回 【演習】 作品の精読(3)
- 第4回 【演習】 作品の精読(4)
- 第5回 【演習】 作品の精読(5)
- 第6回 【演習】 作品の精読(6)
- 第7回 【演習】 作品の精読(7)
- 第8回 【演習】 作品の精読(8)
- 第9回 【演習】 作品の精読(9)
- 第10回 【演習】 作品の精読(10)
- 第11回 【演習】 作品の精読(11)
- 第12回 【演習】 作品の精読(12)
- 第13回 【演習】 作品の精読(13)
- 第14回 【演習】 作品の精読(14)
- 第15回 【演習】 作品の精読(15)

注1. 『三国演義』(全2冊)(人民文学出版社、1973年第3版。初版は1953年)を底本として読んでいきます。発表は担当を決めて行っていきます。担当者には発表用の資料を作ってもらいます。

注2. ゼミ募集のパンフレットでは、蜀成立以降を読むと書きましたが、変更して赤壁の戦いの少し後を読んでいきます。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表と質疑応答(50%) + 担当でない箇所における発言(10%) + 課題(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】

- ①発表者-自分の担当箇所について調べる。資料を作成する。
- ②発表者以外-発表者の担当箇所について予習する。自分の担当箇所について調べ、資料を作成する。
- ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

【事後】

- ①発表者-質疑応答を踏まえて、考え直しや調べ直しをする。資料の訂正版を作成する。
- ②発表者以外-自分の担当箇所について調べ、資料を作成する。
- ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1. この演習は発表者が発表するだけでは成立しません。発表者以外の人の質問や意見、コメントも必要です。
- 2. 人が聞いてわかる(わかってもらう)発表をするにはどうすれば良いかを考えて下さい。
- 3. 自分だったらどう訳すだろう、どう調べるだろうを考えて下さい。

キーワード /Keywords

三国志、三国志演義、近世白話小説、中国古典文学、建安文学

研究演習 3 B 【昼】

担当者名 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国語の普通話と方言音との関係を中心に、中国諸方言の多様性について理解を深めると同時に、中国語音韻学についての基礎的な知識を獲得すること、また問題意識を持ち問題発見能力を向上させることを目的とする。

教科書 /Textbooks

趙元任著「私の語言自伝」(授業時に資料を配布する)中里見敬 編

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

橋本萬太郎 「訳者あとがき」(ユアン・レン・チャオ『言語学入門—言語と記号システム』岩波書店 1980年)
小川環樹「趙元任の追憶」(小川環樹著作集 第4巻 筑摩書房 1997年)
佐藤昭 『概説 中国語音声学』 2014年
大島正二 『中国語の歴史 - ことばの変遷・探求の歩み』大修館書店 2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「私の語言自伝」輪読
- 3回 「私の語言自伝」輪読
- 4回 「私の語言自伝」輪読
- 5回 「私の語言自伝」輪読
- 6回 「私の語言自伝」輪読
- 7回 「私の語言自伝」輪読
- 8回 「私の語言自伝」輪読
- 9回 「私の語言自伝」輪読
- 10回 レポートの書き方
- 11回 図書館ツアー
- 12回 「私の語言自伝」輪読
- 13回 「私の語言自伝」輪読
- 14回 「私の語言自伝」輪読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(発表、小テストなど)・・・50%、レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講生は毎回発表(発音練習、語彙調べ、日本語訳)ができるように事前に準備(予習)をしておくこと。
また、演習の問題については、中国語学の概説書や研究書に目を通して意見を出せるように準備しておくこと。
授業後は、授業中に知り得た専門知識について再度まとめたり、図書館で関連する文献を調べるなどして、興味関心を広げること。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 欠席をする場合は必ず事前にメールで連絡をすること。
- ・ 締め切りを過ぎての課題提出は受け付けない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでの中国語の発音をもう一度再確認する機会にしてください。
授業での予習はきちんと行ってください。その際に、疑問に思ったことなどは授業で積極的に提出してましよう。討論を通して問題発見、どのように解決していくかということを学んでいきます。

キーワード /Keywords

言語 漢語 方言 音韻 音声

研究演習 4 B 【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国をはじめとする各経済を社会科学的視点から分析する力を養成することを目的とする。
中国やその他の経済・社会をより深く理解するために、テキストをもとにレジュメを作成し報告・討論を行う。
実証分析を行うための基本的な統計学、経済学の知識及び分析手法の修得を目指す。
ゼミ生の自主性を養うことを重視し、スキルの修得や文献の講読及びそれに基づくディスカッションは、担当者による分担部分の文献の紹介、記載事項に関する知識の整理、論点の提示がおこなわれ、それに基づくゼミメンバーによるディスカッションをおこなう、というスタイルをとる。
経済分析の実践のためにパソコンを使った実習を行う。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年
岩崎一郎 『比較経済論講義』日本評論社 2018年
白砂堤津耶 『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015
伊藤公一郎 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018
他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
 - 2回 テキスト輪読、ディスカッション、分析視点の修得(1)
 - 3回 テキスト輪読、ディスカッション、分析視点の修得(2)
 - 4回 テキスト輪読、ディスカッション、分析視点の修得(3)
 - 5回 テキスト輪読、ディスカッション、分析視点の修得(4)
 - 6回 テキスト輪読、ディスカッション、分析視点の修得(5)
 - 7回 テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得(1)
 - 8回 テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得(2)
 - 9回 テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得(3)
 - 10回 テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得(4)
 - 11回 テキスト輪読、ディスカッション、分析手法の習得(5)
 - 12回 研究テーマ選定、分析、ディスカッション(1)
 - 13回 研究テーマ選定、分析、ディスカッション(2)
 - 14回 研究テーマ選定、分析、ディスカッション(3)
 - 15回 まとめ
- * 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により概ね以下のように評価する。

輪読・報告準備及びゼミでの報告 50% ディスカッションへの参加状況 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、配布された資料や準備すべき文献には、報告担当者以外も必ず目を通して各回のゼミに臨むようにしてください。
事後学習では、ゼミでおこなったディスカッションの内容を踏まえてその論点を発展し、次回につなげられるように思考する習慣を付けてください。また関連する資料や文献に日ごろから目を通すようにしてください。
新しいスキルの学習をおこなった場合は、それを活用できるよう練習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

中国経済論Ⅲ、時事中国語講読Ⅲ、その他各国・地域経済に関する科目や経済学に関する科目を履修していることが望ましい。
資料等には事前に目を通してくること。ゼミでの議論には積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究演習 4 B 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

キーワード /Keywords

研究演習 7 B 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

日中戦争・アジア太平洋戦争における日本の戦争加害と歴史認識
日中戦争・アジア太平洋戦争における日本の戦争加害の実相、及び現代日本人の戦争をめぐる歴史認識について理解を深める。

教科書 /Textbooks

吉田裕『日本人の戦争観-戦後史のなかの変容』岩波現代文庫、2005年、1166円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○田中仁等『新・図説中国近現代史』(法律文化社、2012年、2900円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講説明
- 2回 日本人の歴史認識研究：①戦後50年の地点から
- 3回 日本人の歴史認識研究：②太平洋戦争史観の成立
- 4回 日本人の歴史認識研究：③占領期における歴史認識
- 5回 日本人の歴史認識研究：④1950代におけるダブルスタンダードの成立
- 6回 日本人の歴史認識研究：⑤高度経済成長期と戦争体験の風化
- 7回 日本人の歴史認識研究：⑥経済大国のなかの歴史認識の変容
- 8回 日本人の歴史認識研究：⑦1980年代におけるダブルスタンダードの動揺
- 9回 日本人の歴史認識研究：④歴史からの逃避と現在
- 10回 学生個人研究報告
- 11回 学生個人研究報告
- 12回 学生個人研究報告
- 13回 学生個人研究報告
- 14回 学生個人研究報告
- 15回 学生個人研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論・課題提出等により総合的に評価する。報告と討論...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当時に入念に準備すること。授業前に担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。授業後に授業中の議論を振り返り、論点を整理すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究演習 8 B 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

ゼミテーマは「明清時代の対朝鮮外交貿易史研究」である。
中国や朝鮮の漢文史料を手掛かりに、明清時代中国の外交・貿易政策、特に朝鮮との関係について考察する。3年次は『明実録』や『清実録』など簡単な資料を読みながら、漢文読解能力を身に付け、4年次は『朝鮮王朝実録』や『燕行録』など朝鮮側の資料を読み進める。漢文がどうしても苦手な学生には中国語やハングルの論文を読ませることもある。
漢文は現代中国語とはかなり異なる言語であり、中国語ネイティブでも学習経験がなければ必ずしも読めるとは限らない。ましてや日本人の学生は電子辞書に搭載されている漢和辞典だけでは到底読みこなせない。漢籍用の辞書を購入することを義務付ける。

教科書 /Textbooks

- 『明実録朝鮮資料輯録』巴蜀書社、2005年(簡体字表記)
 - 張存武『清韓宗藩貿易1637-1894』中央研究院近代史研究所、1978年(繁体字表記)
 - 『清実録』(筆写本)
- 講読箇所を複写して配布するので購入の必要なし
韓国語論文を選択する学生には別途論文を指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『角川新字源』(購入必須)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討
- 漢文資料の講読および歴史的検討

成績評価の方法 /Assessment Method

漢文資料読解能力60%
歴史的な分析能力40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の予習が全てである。漢文資料を読解する際には、必ず辞書を用いて予習すること。参考書に挙げた『角川新字源』で意味が掴めない場合には、より大部な漢和辞典である『諸橋大漢和』や、現代中国語とも共通する語彙であると推測される場合には、やや古い語彙も収録している『中日大辞典』などで調べる。

履修上の注意 /Remarks

履修者の選抜は行わない。但し当ゼミでは資料読解力と並んで中国・朝鮮に関する知識量が重要である。それは大抵の場合、読書量の多寡によって決定される。中国語学習を単なるスキルの習得とのみ捉えることについて頭から否定はしないが、これまで中国史や朝鮮史について全く関心を持って来なかった学生は当ゼミではなかなかついて来られないと思われるので、他の演習の履修を奨める。
授業前に工具書を用いて資料を読み込むこと。授業後は資料から新しい研究テーマが得られないか考察すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究演習 8 B 【昼】

キーワード /Keywords

研究演習 9 B 【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国語の表現と中国人社会をテーマとして、1学期の引き続き、中国語の表現と中国人社会をテーマとして、主に中国語の映像教材や日本語の新聞・雑誌などの教材を使い、中国人と中国の言語・文化・社会に対する理解を深める。又は、中国語に高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。
ほぼ毎回発表と討論を行う。

教科書 /Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝世峰主編(中国書店)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資料を配布
- 2回 発表
- 3回 発表
- 4回 画像を見る
- 5回 発表
- 6回 発表
- 7回 資料を配布
- 8回 発表
- 9回 発表
- 10回 画像を見る
- 11回 発表
- 12回 発表
- 13回 資料を配布
- 14回 発表
- 15回 発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・・・50% 日常の学習状況50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ず予習と準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

キーワード /Keywords

時事 新聞 雑誌 記事 映画

卒業研究演習 1 A 【昼】

担当者名 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

< 中国語圏の現代文学・文化分野での卒業レポート作成指導 >

中国語圏における文学・文化の分析を通じて、一定の分析結果・結論を導くことを目的とします。具体的には、それぞれの興味に基づくテーマを決め、それに沿って資料・データ収集、分析、報告を行います。卒業時にオリジナリティーと一定の学問性を兼ね備える卒業レポート・論文を提出することを最終目標とします。

・本講義は研究テーマに関連するテキストや先行研究論文の輪読、および自身の研究領域に基づく卒業研究報告を並行します。

・現代中国をはじめとする各国・地域の主として文学・文化の分野に関する個別に設定されたテーマに基づいて研究を行い、その進捗状況について随時報告を行います。この過程でプレゼンテーションのやり方にも習熟することを目指します。

教科書 /Textbooks

授業中に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航, 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』(京都大学学術出版会、2018年)

○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)

・中国文芸研究会編『図説 中国20世紀文学 解説と資料』(白帝社、1995年)

○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)

○銭理群, 温儒敏, 吳福輝『中国現代文学三十年』(北京大学出版社、1998年)

※その他については授業内で随時紹介します。

☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

・研究テーマは受講者の自由とし、テーマ選択に際しては個別の相談に応じます。

1回 オリエンテーリングと打ち合わせ

2回 卒業研究テーマ・作品の選定

3回 研究報告、ディスカッション

4回 研究報告、ディスカッション

5回 研究報告、ディスカッション

6回 研究報告、ディスカッション

7回 研究報告、ディスカッション

8回 研究報告、ディスカッション

9回 研究報告、ディスカッション

10回 研究報告、ディスカッション

11回 研究報告、ディスカッション

12回 研究報告、ディスカッション

13回 研究報告、ディスカッション

14回 研究報告、ディスカッション

15回 まとめ

※進度によって順番が前後することがあります。また適宜研究テーマと関連がある作品を精読します。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論・論文提出により総合的に評価します。

報告と討論... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・事前に配布された資料がある場合は、担当者以外も事前に目を通しておくこと。

・授業後に授業中の討論内容を振り返り、論点を整理してください。考え直しや調べ直しの結果を翌週以降に報告してもらうこともあります。

履修上の注意 /Remarks

・報告担当時に入念に準備をし、当日ゼミで配布できる資料を用意すること。

・卒業レポートまたは論文は4年間の学生生活の集大成です。原則として全員に執筆してもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文学テキストを研究することによって、中国語圏の文化への理解を深化させましょう。そこには自らを相対化する作業も含まれます。就職・留学等皆さんの関心や活動と絡めてテーマを設定するなどして、主体的に研究を進めるようにしてください。

キーワード /Keywords

卒業研究
中国語圏文学 / 生活 / 思想 / 文化 / 越境 / ジェンダー / サイノフォン

卒業研究演習 2 A 【昼】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

〈中国古典文学研究〉

本演習は、実際に文学作品を読むことで、中国の古典文学について理解を深めることを目的とする。扱う作品は、中国白話小説、古小説、漢詩、漢文などである。

基本的に3年次「研究演習A、B」に引き続き『三国志演義』を読む予定であるが、別の作品を読むこともある。また作品ではなくて研究論文を読むこともある。(研究論文は中国語文献に限らず日本語文献を読む場合もある)

教科書 /Textbooks

プリント配布、またはなし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ここには記さないが、授業中に適宜紹介する予定である。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス。論文の探し方について
 - 第2回 作品・論文の精読(1)
 - 第3回 作品・論文の精読(2)
 - 第4回 作品・論文の精読(3)
 - 第5回 作品・論文の精読(4)
 - 第6回 作品・論文の精読(5)
 - 第7回 作品・論文の精読(6)
 - 第8回 作品・論文の精読(7)
 - 第9回 作品・論文の精読(8)
 - 第10回 作品・論文の精読(9)
 - 第11回 作品・論文の精読(10)
 - 第12回 作品・論文の精読(11)
 - 第13回 作品・論文の精読(12)
 - 第14回 作品・論文の精読(13)
 - 第15回 作品・論文の精読(14)、または研究成果報告
- ※発表用に資料を作ってもらいます。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表と質疑応答(50%) + 担当でない箇所における発言(10%) + 課題(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】

- ①発表者-自分の担当箇所あるいは研究対象について調べる。資料を作成する。
- ②発表者以外-発表者の担当箇所について予習する。自分の担当箇所あるいは研究対象について調べ、資料を作成する。
- ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

【事後】

- ①発表者-質疑応答を踏まえて、考え直しや調べ直しをする。資料の訂正版を作成する。
- ②発表者以外-自分の担当箇所あるいは研究対象について調べ、資料を作成する。
- ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

「卒業論文(8単位)」を修得する人は、この演習とは別に「卒業論文」という科目を履修する必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1. この演習は発表者が発表するだけでは成立しません。発表者以外の人の質問や意見、コメントも必要です。
- 2. 人が聞いてわかる(わかってもらう)発表するにはどうすれば良いかを考えて下さい。
- 3. 自分だったらどう訳すだろう(考えるだろう)、どう調べるだろうを考えて下さい。

キーワード /Keywords

中国古典文学

卒業研究演習 3 A 【昼】

担当者名 /Instructor 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

本授業では、受講生が卒業論文・ゼミ論文を完成させるための指導を行うことを目的とする。
具体的には、中国語学の領域において、①卒業論文またはゼミ論文を執筆するうえで必要なスキルを修得すること、②論文のタイトル、論文の構想を発表できるレベルまでに到達することを目指す。

毎回、各自の卒業論文もしくはゼミ論文のテーマに沿った内容を発表し、その後皆で討論する。この訓練を繰り返すことで、ゼミ生一人一人のテーマに関する知識や考えを深化させ、卒業論文・ゼミ論文の完成につなげていく。

教科書 /Textbooks

毎授業時に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 図書館ツアー
- 第3回 発表・ディスカッション
- 第4回 発表、ディスカッション
- 第5回 発表、ディスカッション
- 第6回 論文の構想発表(1)
- 第7回 発表、ディスカッション
- 第8回 発表、ディスカッション
- 第9回 発表、ディスカッション
- 第10回 発表、ディスカッション
- 第11回 発表、ディスカッション
- 第12回 発表、ディスカッション
- 第13回 発表、ディスカッション
- 第14回 論文の構想発表(2)
- 第15回 論文の構想発表(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・発言など30%、レポート70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者は、発表予定日の前の週(の授業時)までに、発表予定の文献コピーを配布できるよう人数分用意しておくこと。
発表日にはレジユメを人数分準備しておくこと。
事後学習としては、各自授業内での発表と討論を通して見つけた新たな課題を整理し、文献収集、論文の要約などを行い、次回の発表に備える。
担当者以外は、事前に配布された文献をきちんと読み、自分の意見・質問を必ず一つ用意して出席すること。

履修上の注意 /Remarks

欠席する場合は、事前にメール連絡をすること。
締切日を過ぎての提出物は受け付けない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語学 音声 語彙 文法 教育

卒業研究演習 4 A 【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

個別にテーマを設定し、それに沿って資料・データ収集、分析、報告を行う。
本講義はテキスト輪読、及び経済分野での卒業研究報告を並行する。
・ 経済・社会の理解を深めながら卒業研究テーマの設定、アプローチ方法、フレームワークを他のゼミ生とのディスカッションのなかで決めていく。
・ 3年次に学んだ経済分析を行うための初歩的な統計学、経済学等の手法、知識を卒業研究における実際の分析に活かすことを目指す。
・ 個別に設定されたテーマに基づいて研究を行い、その進捗状況について随時報告を行う。この過程でプレゼンテーションの方法、資料の作成の仕方にも習熟することを目指す。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年
岩崎一郎『比較経済論講義』日本評論社 2018年
白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015
伊藤公一郎『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018
他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーションと打ち合わせ
- 2回 卒業研究テーマの選定等
- 3回 研究進捗の報告、ディスカッション
- 4回 研究進捗の報告、ディスカッション
- 5回 研究進捗の報告、ディスカッション
- 6回 研究進捗の報告、ディスカッション
- 7回 研究進捗の報告、ディスカッション
- 8回 研究進捗の報告、ディスカッション
- 9回 研究進捗の報告、ディスカッション
- 10回 研究進捗の報告、ディスカッション
- 11回 研究進捗の報告、ディスカッション
- 12回 研究進捗の報告、ディスカッション
- 13回 研究進捗の報告、ディスカッション
- 14回 研究進捗の報告、ディスカッション
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により概ね以下のように評価する。

輪読・報告準備及びゼミでの報告 50% ディスカッションへの参加状況 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、配布された資料や準備すべき文献がある場合には、報告担当者以外も必ず目を通して各回のゼミに臨むようにしてください。
3年次に学んだ分析手法や知識を自分のテーマの解明に出来るだけ活かせるよう考えてください。
研究報告をおこなうまでに各自のテーマに基づいた報告内容の準備をおこなってください。
事後学習では、ゼミでおこなったディスカッションの内容を踏まえてその論点を発展し、次回につなげられるように思考する習慣を付けてください。また関連する資料や文献に日ごろから目を通すようにしてください。
新しいスキルの学習をおこなった場合は、それを活用できるよう練習をしてください。

卒業研究演習 4 A 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

履修上の注意 /Remarks

中国経済論Ⅲや時事中国語講読Ⅲ、その他各国・地域経済に関する科目や経済学に関する科目を履修しておくことが望ましい。
事前に配布された資料がある場合は、当該回までに目を通しておくこと。研究報告を割り当てられた回には事前に内容を準備し、あわせて当日ゼミで配布できる資料を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習 7 A 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

「中国歴史及び現代中国分野での卒業レポート作成指導」

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

研究する時代やテーマは執筆希望者の自由とし、テーマ選択にさいしては個別の相談に応じる。

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 研究報告
- 3回 研究報告
- 4回 研究報告
- 5回 研究報告
- 6回 研究報告
- 7回 研究報告
- 8回 研究報告
- 9回 研究報告
- 10回 研究報告
- 11回 研究報告
- 12回 研究報告
- 13回 研究報告
- 14回 研究報告
- 15回 研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論・論文提出等により総合的に評価する。報告と討論... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当時に入念に準備すること。授業前に担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。授業後に授業中の議論を振り返り、論点を整理すること。

履修上の注意 /Remarks

卒業レポートは4年間の学生生活の集大成として、必ず執筆して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究

卒業研究演習 8 A 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

3年次の演習では史料講読を通して中国史や朝鮮史を学ばせてきたが、4年次の演習では更に講読能力を高めるとともに、受講生の希望に応じて卒業論文指導も行う。

教科書 /Textbooks

3年次と同様、史料を適宜プリントして配布する。4年次は受講生の研究テーマに沿った史料を選択的に講読する。言語は中国語・朝鮮語を使用するが、日本語文献を併読させる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各人のテーマに応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 史料の講読とディスカッション
- 第3回 史料の講読とディスカッション
- 第4回 史料の講読とディスカッション
- 第5回 史料の講読とディスカッション
- 第6回 史料の講読とディスカッション
- 第7回 史料の講読とディスカッション
- 第8回 史料の講読とディスカッション
- 第9回 史料の講読とディスカッション
- 第10回 史料の講読とディスカッション
- 第11回 史料の講読とディスカッション
- 第12回 史料の講読とディスカッション
- 第13回 史料の講読とディスカッション
- 第14回 史料の講読とディスカッション
- 第15回 史料の講読とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

史料講読能力50% + ディスカッションでの発言50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は必ずすること。史料は可能な限り辞書で意味を把握すること。事後の学習は特に不要。

履修上の注意 /Remarks

高等学校水準の漢文が読めることが必要。
授業前に工具書を用いて資料を読み込むこと。授業後は資料から新しい研究テーマが得られないか考察すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この時期も就職活動と重なる。本来学生は授業を優先すべきところであるが、やむを得ないと判断される場合は代替レポートを課す。

キーワード /Keywords

卒業研究演習 9 A 【昼】

担当者名 /Instructor 葉言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国語の表現と中国人社会をテーマとして、主に中国語の映像教材や日本語の新聞・雑誌などの教材を使い、中国語に翻訳しながら、中国人と中国の言語・文化・社会に対する理解を深める。又は、中国語に高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。

ほぼ毎回発表と討論を行う。

教科書 /Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝世峰主編(中国書店)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資料を配布
- 2回 発表
- 3回 発表
- 4回 画像を見る
- 5回 発表
- 6回 発表
- 7回 資料を配布
- 8回 発表
- 9回 発表
- 10回 画像を見る
- 11回 発表
- 12回 発表
- 13回 資料を配布
- 14回 発表
- 15回 発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・・・50% 日常の学習状況・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ず予習、準備と復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

キーワード /Keywords

時事 新聞 雑誌 記事 映画

卒業研究演習 1 B 【昼】

担当者名 鳥谷 まゆみ / TORIYA Mayumi / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

< 中国語圏の現代文学・文化分野での卒業レポート作成指導 >

中国語圏地域の文学・文化の分析を通じて、一定の分析結果・結論を導くことを目的とします。具体的には、それぞれの興味に基づくテーマを決め、それに沿って資料・データ収集、分析、報告を行います。卒業時にオリジナリティーと一定の学問性を兼ね備える卒業レポート・論文を提出することを最終目標とします。

・ 本講義は研究テーマに関連するテキストや先行研究論文の輪読、及び自身の研究領域に基づく卒業研究報告を並行します。

・ 中国語圏地域の文学作品の読解を通じて、個別に設定されたテーマに基づいて研究を行い、その進捗状況について随時報告を行います。この過程でプレゼンテーションのやり方にも習熟することを目指します。

教科書 /Textbooks

授業中に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小浜 正子, 下倉 渉, 佐々木 愛, 高嶋 航, 江上 幸子編『中国ジェンダー史研究入門』(京都大学学術出版会、2018年)

○丸山昇, 伊藤虎丸, 新村徹『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985年)

・ 中国文芸研究会編『図説 中国20世紀文学 解説と資料』(白帝社、1995年)

○藤井省三, 大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997年)

○銭理群, 温儒敏, 吳福輝『中国現代文学三十年』(北京大学出版社、1998年)

※その他については授業内で随時紹介します。

☆図書館「授業関連コーナー：鳥谷まゆみ」の参考書も授業後学習等に活用してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

・ 研究テーマは受講者の自由とし、テーマ選択に際しては個別の相談に応じます。

1回 オリエンテーリングと打ち合わせ

2回 卒業研究テーマの選定等研究報告、報告日の決定

3回 研究報告、ディスカッション

4回 研究報告、ディスカッション

5回 研究報告、ディスカッション

6回 研究報告、ディスカッション

7回 研究報告、ディスカッション

8回 研究報告、ディスカッション

9回 研究報告、ディスカッション

10回 研究報告、ディスカッション

11回 研究報告、ディスカッション

12回 研究報告、ディスカッション

13回 研究報告、ディスカッション

14回 研究報告、ディスカッション

15回 まとめ

※進度によって順番が前後することがあります。また適宜研究テーマと関連がある作品を精読することもあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論・論文提出により総合的に評価します。

報告と討論... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 事前に配布された資料がある場合は、担当者以外も事前に目を通しておくこと。

・ 授業後に授業中の討論内容を振り返り、論点を整理してください。考え直しや調べ直しの結果を翌週以降に報告してもらうこともあります。

履修上の注意 /Remarks

・ 報告担当時に入念に準備をし、当日ゼミで配布できる資料を用意すること。

・ 卒業レポート・論文は4年間の学生生活の集大成です。原則として全員に執筆してもらいます。

卒業研究演習 1 B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文学テキストの研究によって、中国語圏の文化への理解を深化させましょう。そこには自らを相対化する作業も含まれます。就職・留学等皆さんの関心や活動と絡めてテーマを設定するなどして、主体的に研究を進めてください。卒業時にオリジナリティーと一定の学問性を兼備する卒業論文を提出できるよう、最後まで頑張りましょう。

キーワード /Keywords

卒業研究
中国語圏文学 / 生活 / 思想 / 文化 / 越境 / ジェンダー / サイノフォン

卒業研究演習 2 B 【昼】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

〈中国古典文学研究〉
本演習は、実際に文学作品を読むことで、中国の古典文学について理解を深めることを目的とする。扱う作品は、中国白話小説、古小説、漢詩、漢文などである。
基本的に3年次「研究演習A、B」に引き続き『三国志演義』を読む予定であるが、別の作品を読むこともある。また作品ではなくて研究論文を読むこともある。(研究論文は中国語文献に限らず日本語文献を読む場合もある)

教科書 /Textbooks

プリント配布、またはなし。
受講者と相談の上決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ここには記さないが、授業中に適宜紹介する予定である。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 作品・論文の精読(1)
 - 第2回 作品・論文の精読(2)
 - 第3回 作品・論文の精読(3)
 - 第4回 作品・論文の精読(4)
 - 第5回 作品・論文の精読(5)
 - 第6回 作品・論文の精読(6)
 - 第7回 作品・論文の精読(7)
 - 第8回 作品・論文の精読(8)
 - 第9回 作品・論文の精読(9)
 - 第10回 作品・論文の精読(10)
 - 第11回 作品・論文の精読(11)
 - 第12回 作品・論文の精読(12)
 - 第13回 作品・論文の精読(13)
 - 第14回 作品・論文の精読(14)
 - 第15回 作品・論文の精読(15)、または研究成果報告
- 注1 . 発表用に資料を作ってもらいます。
注2 . 後半は課題作成に向けた活動をしていく予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表と質疑応答(50%) + 担当でない箇所における発言(10%) + 課題(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前】
- ①発表者-自分の担当箇所あるいは研究対象について調べる。資料を作成する。
 - ②発表者以外-発表者の担当箇所について予習する。自分の担当箇所あるいは研究対象について調べ、資料を作成する。
 - ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。
- 【事後】
- ①発表者-質疑応答を踏まえて、考え直しや調べ直しをする。資料の訂正版を作成する。
 - ②発表者以外-自分の担当箇所あるいは研究対象について調べ、資料を作成する。
 - ③全員-参考書を利用して、『三国志』、『三国志演義』、近世白話小説、中国古典文学について理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1 . この演習は発表者が発表するだけでは成立しません。発表者以外の人の質問や意見、コメントも必要です。
- 2 . 人が聞いてわかる(わかってもらう)発表するにはどうすれば良いかを考えて下さい。
- 3 . 自分だったらどう訳すだろう(考えるだろう)、どう調べるだろうを考えて下さい。

キーワード /Keywords

中国古典文学

卒業研究演習 3 B 【昼】

担当者名 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

本授業では、受講生が卒業論文・ゼミ論文を完成させるための指導を行うことを目的とする。
毎回、各自の卒業論文もしくはゼミ論文のテーマに沿った内容を発表し、その後皆で討論する。この訓練を繰り返すことで、ゼミ生一人一人のテーマに関する知識や考えを深化させ、卒業論文・ゼミ論文の完成につなげていく。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 発表(担当者)、ディスカッション
- 第3回 発表(担当者)、ディスカッション
- 第4回 発表(担当者)、ディスカッション
- 第5回 発表(担当者)、ディスカッション
- 第6回 発表(担当者)、ディスカッション
- 第7回 発表(担当者)、ディスカッション
- 第8回 論文指導
- 第9回 論文指導
- 第10回 論文指導
- 第11回 論文指導
- 第12回 論文指導
- 第13回 論文指導
- 第14回 論文指導
- 第15回 卒業論文・ゼミ論文発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・発言など30%、レポート70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者は、発表予定日の前の週(の授業時)に発表予定の文献コピーを配布できるよう人数分用意しておくこと。
また、発表日にはレジュメを人数分準備しておくこと。
授業後、担当者は、発表の際に得た意見や質問などを整理して再度論文執筆に取り組む。
その他のゼミ生は、配布された文献をきちんと読んで授業に出席すること。

履修上の注意 /Remarks

欠席する場合はメール連絡を必ず行うこと。
締切日を過ぎての課題提出は受け付けない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4年間の集大成となる論文を悔いなく書き上げることを目標にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

中国語 音声 語彙 文法

卒業研究演習 4 B 【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

個別にテーマを設定し、それに沿って資料・データ収集、分析、報告を行う。
本講義はテキスト輪読、及び経済分野での卒業研究報告を並行する。
・ 経済・社会の理解を深めながら卒業研究テーマの設定、アプローチ方法、フレームワークを他のゼミ生とのディスカッションのなかで決めていく。
・ 3年次に学んだ経済分析を行うための初歩的な統計学、経済学等の手法、知識を卒業研究における実際の分析に活かすことを目指す。
・ 個別に設定されたテーマに基づいて研究を行い、その進捗状況について随時報告を行う。この過程でプレゼンテーションの方法、資料の作成の仕方にも習熟することを目指す。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年
岩崎一郎 『比較経済論講義』日本評論社 2018年
白砂堤津耶 『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年
伊藤公一郎 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年
他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 研究報告、ディスカッション
- 3回 研究報告、ディスカッション
- 4回 研究報告、ディスカッション
- 5回 研究報告、ディスカッション
- 6回 研究報告、ディスカッション
- 7回 研究報告、ディスカッション
- 8回 研究報告、ディスカッション
- 9回 研究報告、ディスカッション
- 10回 研究の総括に向けたプレゼンテーションの仕方とレジュメの作成方法
- 11回 研究報告、ディスカッション
- 12回 研究報告、ディスカッション
- 13回 研究報告、ディスカッション
- 14回 研究報告、ディスカッション
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度や出席状況、発表・討論への参加状況や課題の内容により概ね以下のように評価する。

輪読・報告準備及びゼミでの報告 50% ディスカッションへの参加状況 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、輪読のために配布された資料や準備すべき文献がある場合には、報告担当者以外も必ず目を通して各回のゼミに臨むようにしてください。
研究報告をおこなうまでに各自のテーマに基づいた報告内容の準備をおこなってください。
事後学習では、ゼミでおこなったディスカッションの内容を踏まえてその論点を発展し、次回につなげられるように思考する習慣を付けてください。また関連する資料や文献に日ごろから目を通すようにしてください。
新しいスキルの学習をおこなった場合は、それを活用できるよう練習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

中国経済論Ⅲや時事中国語講読Ⅲ、各国・地域の経済に関する科目や経済学に関する科目を履修しておくことが望ましい。
事前に配布された資料がある場合は、当該回までに目を通しておくこと。研究報告を割り当てられた回には事前に内容を準備し、あわせて当日ゼミで配布できる資料を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業研究演習 4 B 【昼】

専門教育科目
必修科目
演習科目

キーワード /Keywords

卒業研究演習 7 B 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

「中国の社会と歴史」「中国歴史及び現代中国分野での卒業レポート作成指導」

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

研究する時代やテーマは執筆希望者の自由とし、テーマ選択にさいしては個別の相談に応じる。

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 研究報告
- 3回 研究報告
- 4回 研究報告
- 5回 研究報告
- 6回 研究報告
- 7回 研究報告
- 8回 研究報告
- 9回 研究報告
- 10回 研究報告
- 11回 研究報告
- 12回 研究報告
- 13回 研究報告
- 14回 研究報告
- 15回 研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論・論文提出等により総合的に評価する。報告と討論... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当時に入念に準備すること。授業前に担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。授業後に授業中の議論を振り返り、論点を整理すること。

履修上の注意 /Remarks

報告担当時に入念に準備すること。授業前に担当者以外も文献を事前に読み発言を準備すること。授業後に授業中の議論を振り返り、論点を整理すること。

卒業レポートは4年間の学生生活の集大成として、必ず執筆して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究

卒業研究演習 8 B 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

3年次の演習では史料講読を通して中国史や朝鮮史を学ばせてきたが、4年次の演習では更に講読能力を高めるとともに、受講生の希望に応じて卒業論文指導も行う。

教科書 /Textbooks

3年次と同様、史料を適宜プリントして配布する。4年次は受講生の研究テーマに沿った史料を選択的に講読する。言語は中国語・朝鮮語を使用するが、日本語文献を併読させる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各人のテーマに応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 史料の講読とディスカッション
- 第3回 史料の講読とディスカッション
- 第4回 史料の講読とディスカッション
- 第5回 史料の講読とディスカッション
- 第6回 史料の講読とディスカッション
- 第7回 史料の講読とディスカッション
- 第8回 史料の講読とディスカッション
- 第9回 史料の講読とディスカッション
- 第10回 史料の講読とディスカッション
- 第11回 史料の講読とディスカッション
- 第12回 史料の講読とディスカッション
- 第13回 史料の講読とディスカッション
- 第14回 史料の講読とディスカッション
- 第15回 史料の講読とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

史料講読能力50% + ディスカッションでの発言50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は必ずすること。史料は可能な限り辞書で意味を把握すること。事後の学習は特に不要。

履修上の注意 /Remarks

高等学校水準の漢文が読めることが必要。
授業前に工具書を用いて資料を読み込むこと。授業後は資料から新しい研究テーマが得られないか考察すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この時期も就職活動と重なる。本来学生は授業を優先すべきところであるが、やむを得ないと判断される場合は代替レポートを課す。

キーワード /Keywords

卒業研究演習 9 B 【昼】

担当者名 葉 言材 / ye yancai / 中国学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国語の表現と中国人社会をテーマとして、1学期の引き続き、中国語の表現と中国人社会をテーマとして、主に中国語の映像教材や日本語の新聞・雑誌などの教材を使い、中国語に翻訳しながら、中国人と中国の言語・文化・社会に対する理解を深める。又は、中国語に高度な中国語のコミュニケーション能力を身に付けさせる。

ほぼ毎回発表と討論を行う。

教科書 /Textbooks

授業時配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 中国と日本両国の文学・歴史・思想・風習・政治・経済・映画などに関するもの。
2. 『中国文学の昨日と今日』 郝 世峰主編(中国書店)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資料を配布
- 2回 発表
- 3回 発表
- 4回 画像を見る
- 5回 発表
- 6回 発表
- 7回 資料を配布
- 8回 発表
- 9回 発表
- 10回 画像を見る
- 11回 発表
- 12回 発表
- 13回 資料を配布
- 14回 発表
- 15回 発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・・・50% 日常の学習状況50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

必ず予習と準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

キーワード /Keywords

時事 新聞 雑誌 記事 映画

中国文学史I【昼】

担当者名 /Instructor 与小田 隆一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国古典文学について、特に代表的な時代・ジャンルにのみ絞り、簡単な概説の後、作品（もしくはその一部或いは概要）を講読し、詳細な解説を行う。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス・受講のための予備知識
- 2 中国古典文学の特質(1) - 「文学」の定義
- 3 中国古典文学の特質(2) - 小説の評価
- 4 中国の伝説に見る歴史・文化
- 5 『詩経』
- 6 『韓非子』の中の寓話
- 7 六朝志怪小説(1) - 概要・時代背景
- 8 六朝志怪小説(2) - 作品
- 9 唐詩 - 杜甫
- 10 唐詩 - 李賀(1) - 李賀の生涯
- 11 唐詩 - 李賀(2) - 作品
- 12 唐代伝奇(1) - 概要・時代背景
- 13 唐代伝奇(2) - 作品
- 14 明代の白話小説 - 『金瓶梅』(1) - 概要・時代背景
- 15 明代の白話小説 - 『金瓶梅』(2) - 作品

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(70%)、平常点(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテーマについて下調べしておくこと、また授業後ノートを確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

私語、30分以上の遅刻、無断の途中退室、携帯電話の使用はいずれも厳禁。場合によっては、失格とすることもあるので注意されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国文学史II 【昼】

担当者名 /Instructor 与小田 隆一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中華民国期(1912~49)を中心とした中国近現代文学の作品を数編取り上げ、作品講読や、内容、時代背景に関する説明を行う。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス・受講にあたっての予備知識(1)
- 2 受講にあたっての予備知識(2)
- 3 魯迅「狂人日記」(1)
- 4 魯迅「狂人日記」(2)
- 5 郭沫若「残春」(1)
- 6 郭沫若「残春」(2)
- 7 許地山「春桃」(1)
- 8 許地山「春桃」(2)
- 9 穆時英「夜」(1)
- 10 穆時英「夜」(2)
- 11 施蛰存「梅雨之夕」(1)
- 12 施蛰存「梅雨之夕」(2)
- 13 中華民国期の「旧文学」(1)
- 14 中華民国期の「旧文学」(2)
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(70%)、平常点(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテーマについて下調べしておくこと、また授業後ノートを確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

私語、30分以上の遅刻、無断の途中退室、携帯電話の使用はいずれも厳禁。場合によっては、失格とすることもあるので注意されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

時事中国語講読I【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国の時事問題に関する文献の講読を通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解していく。
中国経済・社会に関する知識の習得、及び資料読解力の養成を目指す。その中で出来るだけ現地で出版された個別時事問題に関する文献を扱うことも目指す。
中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解を深める。
出来る限り多方面の時事問題を取り扱い、生活や社会など身近な話題から、政治・経済などの話題まで取り上げ、現在の中国の諸相に触れる。

教科書 /Textbooks

講読資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年
岩崎一郎『比較経済論講義』日本評論社 2018年
白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年
伊藤公一郎『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年
他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(1) 【テーマ、背景の説明】【輪読】
- 3回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(2) 【輪読】
- 4回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(3) 【輪読】【ディスカッション】
- 5回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(1) 【テーマ、背景の説明】【輪読】
- 6回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(2) 【輪読】
- 7回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(3) 【輪読】【議論】
- 8回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(1) 【テーマ、背景の説明】【輪読】
- 9回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(2) 【輪読】
- 10回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(3) 【輪読】【議論】
- 11回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(1) 【テーマ、背景の説明】【輪読】
- 12回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(2) 【輪読】
- 13回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(3) 【輪読】【議論】
- 14回 文献輪読及び説明, 議論・全体討論
- 15回 まとめ

* 但し、講義の進捗状況によって、もしくは時事問題の適時性の確保のために、取り上げる話題及び内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% 課題・輪読・発表等授業への取り組み 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献には必ず目を通しておくこと
事後学習：講義での輪読、説明、議論を踏まえて、中国社会や日本社会等への客観的認識を深めるよう思考し、次の回につなげるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

日本、中国及びアジアを中心とした地域のニュース等を日ごろからチェックしてください。また輪読がスムーズに行われるように、事前に文献に目を通しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

時事中国語講読II【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国の時事問題に関する文献の講読を通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解していく。
中国経済・社会に関する知識の習得、及び資料読解力の養成を目指す。その中で出来るだけ現地で出版された個別時事問題に関する文献を扱うことも目指す。
中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国経済・社会の状況をさまざまな角度から理解を深める。
出来る限り多方面の時事問題を取り扱い、生活や社会など身近な話題から、政治・経済などの話題まで取り上げ、現在の中国の諸相に触れる。

教科書 /Textbooks

講読資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年
岩崎一郎『比較経済論講義』日本評論社 2018年
白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年
伊藤公一郎『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年
この他は講義中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(1) 【テーマ、背景の説明】【輪読】
- 3回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(2) 【輪読】
- 4回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(3) 【輪読】【ディスカッション】
- 5回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(1) 【テーマ、背景の説明】【輪読】
- 6回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(2) 【輪読】
- 7回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(3) 【輪読】【議論】
- 8回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(1) 【テーマ、背景の説明】【輪読】
- 9回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(2) 【輪読】
- 10回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(3) 【輪読】【議論】
- 11回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(1) 【テーマ、背景の説明】【輪読】
- 12回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(2) 【輪読】
- 13回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(3) 【輪読】【議論】
- 14回 文献輪読及び説明, 議論・全体討論
- 15回 まとめ

* 但し、講義の進捗状況によって、もしくは時事問題の適時性の確保のために、取り上げる話題及び内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% 課題・輪読・発表等授業への取り組み 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献には必ず目を通しておくこと
事後学習：講義での輪読、説明、議論を踏まえて、中国社会や日本社会等への客観的認識を深めるよう思考し、次の回につなげるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

日本、中国及びアジアを中心とした地域のニュース等を日ごろからチェックしてください。また輪読がスムーズに行われるように、事前に文献に目を通しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国の政治外交I【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

世界有数の経済大国となった共産主義国家・中国の研究に必要な専門的知識を習得し、中国政治に関する情報の収集・分析方法について学ぶ。授業では、中国の近現代史を政治的観点と人物考察から振り返り、「中国の社会主義」と改革開放の行方について検討する。また、ポスト鄧小平の時代に顕在化した問題群と政治・政策との関連についても解説する。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。
主に授業で配布するプリント・資料を用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

天児慧『中国の歴史11 巨龍の胎動 毛沢東vs 鄧小平』講談社、2004年(○)
久保亨『シリーズ中国近現代史④ 社会主義への挑戦 1945 - 1971』岩波新書、2011年(○)
下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～中国研究の動向と文献紹介、授業の進め方について
- 2回 なぜ中国は共産主義を選択したのか
- 3回 中国が国際政治の変遷から受けた影響
- 4回 建国当初の中国はどのような国家だったのか
- 5回 社会主義化
- 6回 文化大革命I【1960年代後半】
- 7回 文化大革命II【1970年代前半】
- 8回 近代化の模索
- 9回 改革開放I【対外開放】
- 10回 改革開放II【経済改革】
- 11回 改革開放がもたらした歪みと第二次天安門事件
- 12回 改革開放の加速と政治改革の停滞
- 13回 長期政権が抱える問題
- 14回 習近平時代の中国
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 90%、 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「中国研究概論」を先に受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。
授業で資料・文献を指定した場合は期日までに必ず熟読しておくこと。
授業理解に有益な読書、映像視聴などを自主的に行うこと(図書館のDVDなどを活用してください)。
新聞(紙面)を読む習慣をつけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

図書館には現代中国に関する書籍がたくさん所蔵されていますので、自分の関心の赴くままに手に取ってみてください。授業への理解も深まるはずです。

キーワード /Keywords

中国の政治外交II 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

授業の狙いは、中国の外交政策・対外関係・台湾問題などについて専門的な知識を習得し、中国外交に関する情報の収集・分析方法を総合的に学ぶことである。国内政治、政策の変化、国際環境の変化と、中国外交の変化との関連性を示し、中国の視点から主要国との二国間関係や台湾・香港問題を検討する。中国の地域主義・グローバリズムへの参加といった今日の課題についても、中国国内の議論を紹介しながら説明する。

教科書 /Textbooks

初回の授業で指示する。主に授業中に配布する資料・レジュメを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

青山瑠妙『現代中国の外交』慶應義塾大学出版会、2007年(○)。
王逸舟『中国外交の新思考』東京大学出版会、2007年(○)。
服部龍二『日中国交正常化―田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』中公新書、2011年(○)。
安田淳・門間理良編著『台湾をめぐる安全保障』慶應義塾大学出版会、2016年。
ワン・ジョン『中国の歴史認識はどう作られたのか』東洋経済新報社、2014年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN~文献紹介と授業の進め方
 - 2回 国内政治・国際環境の変遷と中国外交I【イデオロギー、現実主義】
 - 3回 国内政治・国際環境の変遷と中国外交II【指導者と外交方針】
 - 4回 対日関係I【国交正常化】
 - 5回 対日関係II【ポスト毛沢東時代】
 - 6回 中台関係I【基礎知識】
 - 7回 中台関係II【中国の台湾政策】
 - 8回 中台関係III【中台関係の現状分析】
 - 9回 米中関係I【冷戦期】
 - 10回 米中関係II【ポスト冷戦期】
 - 11回 多国外交：地域主義とグローバリズム
 - 12回 経済外交・資源外交・安全保障I【概念】
 - 13回 経済外交・資源外交・安全保障II【対外行動の分析】
 - 14回 中港関係
 - 15回 まとめ
- (順番が入れ替わることがあります)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「中国研究概論」「現代中国の政治」を先に受講した方が、本講義の理解がより深いものになります。授業で資料・文献を指定した場合は期日までに必ず熟読しておくこと。授業理解に有益な読書、映像視聴などを自主的に行うこと(図書館のDVDなどを活用してください)。新聞(紙面)を読む習慣をつけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国の対外認識と論理を理解して、中国の思考・行動パターンを推察する手がかりを得て下さい。図書館に所蔵されている、中国の二国間関係・東アジアの国際関係・台湾問題・香港問題などに関する本を読んでみてください。授業がもっとよくわかるようになるはずですよ。また、授業では中国に関連する国際ニュースを取り上げることもあります。日頃から新聞に目を通す習慣をつけるとよいですね。

キーワード /Keywords

中国文化論【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国文化を古代文明から現代に至るプロセスの中で、キーワードを拾い、それを解明することで独自性と普遍性を見つけてみる。

教科書 /Textbooks

プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『図説 中国文化百華』全18巻 農文協

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 古代文明遺跡が伝えるもの 「三星堆」に見る揚子江文明
- 第2回 中国シャーマニズムに現れる仮面劇
- 第3回 「十二支」という暦の考え方
- 第4回 古代楽器が伝えたもの
- 第5回 孔子の存在 儒教の意義
- 第6回 中国に於ける仏教文化の変遷
- 第7回 書道の意義
- 第8回 絵画の伝統
- 第9回 国技としての気功、太極拳
- 第10回 漢語のパワー
- 第11回 科学文明の受容 ①写真、映画
- 第12回 科学文明の受容 ②家電、携帯電話
- 第13回 科学文明の受容 ③IT産業
- 第14回 東洋医学の現況
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・20% レポート評価・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された課題を予習し、毎回学習内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

授業前に書物またはインターネット情報から該当事項に関する概要を捉えておく。授業後、講義中に指摘された項目についてノートにまとめておく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日中文化比較 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

日本と中国の交流を歴史的に鳥瞰し、文化面を細分化して、その特徴を捉えてみる。視聴覚教材を随時使用し、理解を深める。

教科書 /Textbooks

『東方栄養新書』（メディカルユーコン社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史年表にみる日中比較 概説
- 第2回 漢字文化の伝来 ①【漢字という文字】
- 第3回 漢字文化の伝来 ②【音声の比較】
- 第4回 仏教の伝来と日中の差異 ①【大乘仏教と小乗仏教】
- 第5回 仏教の伝来と日中の差異 ②【経文と宗派】
- 第6回 日中食文化の比較 ①【主食穀物】
- 第7回 日中食文化の比較 ②【肉食比較】
- 第8回 日中食文化の比較 ③【茶の伝来と現況】
- 第9回 書と絵画 小史①【王羲之の足跡】
- 第10回 書と絵画 小史②【国画】
- 第11回 芸能史が伝えるもの ①【仮面劇】
- 第12回 芸能史が伝えるもの ②【京劇と歌舞伎】
- 第13回 自然保護と環境問題 ①【水問題】
- 第14回 自然保護と環境問題 ②【宇宙開発】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の講義への取り組み・・・20% レポート評価・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された課題を予習し、学習した内容を復習し、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

授業前に書物等において関連事項について概要を捉えておくこと。授業後、講義中に指摘された質問について解答をノートに記しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

知りたい・観たい・聴きたい

比較中国思想 【昼】

担当者名 /Instructor 榎崎 洋一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国思想の歴史は、中国の歴史そのものと同じほどに長く、かつその内容も多様である。それは日本人の「思想」に対しても、特に前近代においては、きわめて強い影響を及ぼしていた。西洋の思想を受容して「近代化」をとげた今日でも、それは時として意外な形ではあるが、依然われわれ日本人の考え方を規定している。このような中国の思想を、歴史の流れに沿って概観しながら、日本思想・西洋思想等との比較や、相互の影響関係の検討を通じて、複眼的に理解していくことが、この授業の課題である。また、日本人は「漢文訓読」という、世界的にも珍しい中国語テキストの読解方法によって、中国思想を理解してきたのであるから、授業の中では、この「訓読」による思想資料の解釈を再現的に行いつつ、「訓読」による伝統的な中国理解の問題点にも光をあてることにしたい。総じて言えば、今日までの日本における中国思想の影響がいかに広く、深かったかをあらためて認識しつつ、その中の誤解や「理想化」といった面に批判を加え、「他者」の文化としての中国思想をより正確にとらえられるようになることが、本授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

適宜プリント等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

湯浅邦弘編著『概説中国思想史』(ミネルヴァ書房)○
森三樹三郎『中国思想史』(第三文明社、レグルス文庫)○
島田虔二『朱子学と陽明学』(岩波書店、岩波新書)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国思想の原点 【天命】【徳】【易姓革命】【詩経】【書経】
- 2回 孔子の思想 【論語】【仁】【礼】
- 3回 墨子の思想 【兼愛】【非攻】
- 4回 孟子の思想 【性善説】【四端説】【仁義礼智】【王道思想】
- 5回 荀子の思想 【性悪説】【礼】
- 6回 道家の思想(1) 【老子】【莊子】【無為自然】【柔弱謙下】【万物斉同】
- 7回 道家の思想(2) 【老子】【莊子】【無為自然】【柔弱謙下】【万物斉同】
- 8回 法家の思想 【韓非子】【信賞必罰】【法治主義】
- 9回 その他の諸子百家たち 【名家】【陰陽家】【雑家】
- 10回 漢代の思想 【儒教の国教化】【皇帝支配と儒教】
- 11回 六朝期の思想 【清談】【玄学】【老莊】【竹林の七賢】
- 12回 中国仏教の思想 【格義仏教】【翻訳仏典】【禅】【浄土】
- 13回 新儒教の誕生 【朱子学】【陽明学】
- 14回 「異端」の中国思想家たち 【農家】【抱朴子】【李卓悟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(レポートなど)...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社会経済史I【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

明代に成立した伝奇小説である『三国志通俗演義』を通して、中国の社会と文化、経済と政治を包括的に学ぶ。三国志に描かれている人物の行動様式から、中国人がいかなる社会を構成し、いかなる経済を営んでいたかを、事例研究的に学ぶ。特に日本社会との相違点について論じる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。ビデオとプリントを中心教材とする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(三国志と三国演義との違い)
- 第2回 桃園の誓い(農村部における定期市)
- 第3回 桃園の誓い(伝統中国の地方政治)
- 第4回 三顧の礼(経済の要としての古代荊州)
- 第5回 三顧の礼(古代中国の書物)
- 第6回 三顧の礼(伝統中国の葬礼)
- 第7回 三顧の礼(三顧の礼が意味するもの)
- 第8回 三顧の礼(関羽に代表される中国人の面子)
- 第9回 赤壁の戦い(曹操の華北と孫権の江南との経済的相違)
- 第10回 赤壁の戦い(受禅台を通して見た貴族制への移行)
- 第11回 五丈原(中原と五胡との歴史的関係)
- 第12回 五丈原(蜀の栈道を通して見た交通と経済)
- 第13回 五丈原(兵法家孔明の評価)
- 第14回 晋の三国統一の社会経済的意味
- 第15回 まとめの回(小説を通して見た伝統中国の諸様相)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト30%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

三国志の話を知らない受講生は小説や漫画・映画でも構わないから事前にあらすじを予習しておくこと。事後の学習は特に必要ないが、他の講義を聞く時の参考とすべきこと。

履修上の注意 /Remarks

ビデオは中国語で放送するが、日本語字幕が付く。「東洋史」を履修していることが好ましい。
三国志のあらすじは小説などで事前に学んでおくこと。授業後は小テスト対策も兼ねてレジュメ・口頭説明の内容を再確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社会経済史II 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ『イ・サン』を通して中国・朝鮮のような官僚専制社会と日本のような共同体社会との相違点について論じる。また、朝鮮と中国・日本との関係に触れられた部分などを素材として、近世東アジア社会の外交関係と貿易関係について論ずる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。DVDと配布プリントを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。
山本進『環渤海交易圏の形成と変容』東方書店、2009年。
山本進『大清帝国と朝鮮経済』九州大学出版会、2014年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(儒教社会としての中国と朝鮮)
- 第2回 中国や朝鮮の宮殿構造
- 第3回 中国や朝鮮の都市景観
- 第4回 清国使節団
- 第5回 中朝貿易
- 第6回 朝鮮における道遣い制の普及と銅銭不足
- 第7回 朝鮮の対中輸出品としての紅蔘開発
- 第8回 乱塵(商業独占権と特権商人の保護)
- 第9回 辛亥通共(乱塵の禁止)
- 第10回 中国・朝鮮・日本における火器の歴史
- 第11回 燕行使
- 第12回 中朝陸上交通路と沿辺都市の役割
- 第13回 承政院日記の洗草の意味するもの
- 第14回 朝鮮の対清外交
- 第15回 まとめの回(銀経済を維持した中国と銭経済に移行した朝鮮)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト30%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には概説書などにより近世東アジアの歴史を学ぶこと。事後には定期的に小テストを行うので、復習も行うこと。

履修上の注意 /Remarks

「日本史」や「東洋史」を履修していることが好ましい。
概説書等を通して高等学校の世界史レベルの基礎知識を事前に学ぶこと。授業後は小テスト対策も兼ねてレジュメ・口頭説明の内容を再確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国経済論I【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

中国経済の仕組み・特徴や企業の行動を理解することを本講義の目的とします。
中国経済論Iでは、中国における高度経済成長・市場経済化の経験、2010年代に入ってから展開について理解を深めます。
より深く理解するために初歩的なミクロ経済学の知識も併せて学びます。

教科書 /Textbooks

指定しない。資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年
岩崎一郎『比較経済論講義』日本評論社 2018年
白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年
伊藤公一郎『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年
他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 経済発展とは【経済開発】【新興国】
 - 3回 中国の行政の仕組みと特徴【「戸籍」】【都市】【農村】
 - 4回 中国経済の概観(1)【SNA】
 - 5回 中国経済の概観(2)【所有】
 - 6回 中国経済を見る視点と枠組(1)【供給曲線】【利潤最大化】【需要曲線】
 - 7回 中国経済を見る視点と枠組(2)【完全競争】
 - 8回 中国経済を見る視点と枠組(3)【独占】
 - 9回 中間総括：インターミッション
 - 10回 市場経済化(1)【工業化】【生産性】
 - 11回 市場経済化(2)【インセンティブ】【工業化】【民営化】
 - 12回 市場経済化(3)【国有企業】【民営企業】【規制緩和】
 - 13回 リーマンショック前後の中国経済(1)【国進民退】
 - 14回 リーマンショック前後の中国経済(2)【上場企業】
 - 15回 まとめ

* 但し、講義の進捗状況等によって、内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

70%：定期試験 30%：講義・課題への取り組み

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：各回の講義内容に関して、開発経済学や途上国に関するトピックや事項に可能な限り触れてください。
事後学習：経済学のエッセンスも出来るだけ講義で触れていくので、実態経済でそれがどのように表れているか考えてください。

履修上の注意 /Remarks

経済問題に関するニュースを日ごろからチェックしてください。
配布資料を遺漏なく入手すること。講義後には自筆メモ・ノートもあわせて内容を整理してください。
講義中には中国経済事情とあわせて出来るだけ経済学等のエッセンスも伝えていくので、講義後には、それらの習得した知識を生かしながら日本経済新聞等を読んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほかにも経済学に関する講義を受講することが望ましい。

キーワード /Keywords

中国経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

本講義では経済改革が多く分野について一応の終結をみた2000年以降に、中国で形成された市場経済の特徴、特質について、主として金融、為替の動向を例に挙げながら議論していきます。
またリーマンショック前後での相違点に付いても言及し、以上の議論を踏まえて中国経済が直面する課題を整理していきます。

教科書 /Textbooks

指定しない。資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年
岩崎一郎 『比較経済論講義』日本評論社 2018年
白砂堤津耶 『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年
伊藤公一郎 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年
他の参考文献は授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 中国の経済発展の特徴(1)【改革開放】【市場経済化】
 - 3回 中国の経済発展の特徴(2)【財政政策】【金融政策】
 - 4回 政策の実行とその影響(1)【地方政府】【企業】
 - 5回 政策の実行とその影響(2)【経済改革】
 - 6回 金融政策と金融システム(1)【間接金融】【直接金融】【中央銀行】
 - 7回 金融政策と金融システム(2)【引き締め政策】【緩和政策】
 - 8回 金融政策と金融システム(3)【金融政策の方法と中国での効果】
 - 9回 通貨・為替制度の変遷(1)【変動相場制】【為替レート】
 - 10回 通貨・為替制度の変遷(2)【輸出】【輸入】【人民元】
 - 11回 通貨・為替制度の変遷(3)【国際資本移動】【金融政策】
 - 12回 為替の動向と金融政策の効果 【国際金融のトリレンマ】
 - 13回 中国経済が直面する課題(1)
 - 14回 中国経済が直面する課題(2)
 - 15回 まとめ

* 但し、講義の進捗状況等によって、内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

70% : 定期試験 30% : 講義・課題への取り組み

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 : 各回の講義内容に関して、開発経済学や途上国に関するトピックや事項に可能な限り触れてください。
事後学習 : 経済学のエッセンスも出来るだけ講義で触れていくので、実態経済でそれがどのように表れているか考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

経済問題に関するニュースを日ごろからチェックしてみてください。
配布資料を遺漏なく入手すること。講義後には自筆メモ・ノートもあわせて内容を整理してみてください。
講義中には中国経済事情とあわせて出来るだけ経済学等のエッセンスも伝えていくので、講義後には、それらの習得した知識を生かしながら日本経済新聞等を読んでみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほかにも経済学に関する講義を受講することが望ましい

キーワード /Keywords

漢文学【昼】

担当者名 /Instructor 榎崎 洋一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

「漢文」とは、中国古代の「文語文」で書かれた、あらゆる文章を指す。それは二十世紀初頭まで、中国で正式の文章語として、二千年にわたって使用されてきた。また、日本・朝鮮半島・ベトナム等においても、知識人の使用する共通書記言語として、西洋におけるラテン語と同じように普及していた。日本人が最初に接触し、かつ使用した文字は漢字であり、最初に目に触れた「文章」は、「漢文」であった。それゆえ「漢文」を学ぶことは、中国の歴史や文化への理解を深めるだけではなく、日本人にとっては、自らの文化形成の原初的プロセスを「追体験」することでもある。この授業では「日本人にとっての漢文」ということで、まず中国から日本にもたらされ、かつての日本人によって広く読まれ、血肉と化していた文章を取り上げる。日本における「訓点」の発明や、仮名と漢字の関係、などについても理解を深める。さらに、日本人によって書かれた「漢文」作品を読んでいく。こうした作業によって、日本と中国をはじめとする異文化の諸領域の交流に対する関心を高め、また相互の比較研究によって、自国の文化に対してさらに理解を深めていくことをねらいとする。

教科書 /Textbooks

適宜プリント等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金文京著『漢文と東アジア-訓読の文化圏-』(岩波書店、岩波新書)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【日本人にとって「漢文」とは何か?】
- 2回 儒教(1)【孔子の生涯】【論語】【映画から見る現代中国の孔子像】
- 3回 儒教(2)【孔子の生涯】【論語】【映画から見る現代中国の孔子像】
- 4回 儒教(3)【孔子の生涯】【論語】【孟子】【儒学】【儒教】
- 5回 諸子百家(1)【百家争鳴の時代】【道家】
- 6回 諸子百家(2)【百家争鳴の時代】【法家】
- 7回 諸子百家(3)【百家争鳴の時代】【墨家】
- 8回 仏教漢文【インド思想と中国人】【格義仏教】【音訳】
- 9回 中国漢文の中の日本・日本人【魏志倭人伝】
- 10回 漢字・漢文の伝来【訓点】【日本語と漢文】【万葉仮名】
- 11回 日本漢詩文(1)【飛鳥・奈良~室町】【十七条憲法】【日本書紀】
- 12回 日本漢詩文(2)【奈良~室町】【懐風藻】【菅原道真】【五山文学】
- 13回 日本漢詩文(3)【江戸時代】【菅茶山】【頼山陽】
- 14回 近代日本文学者と漢詩文【夏目漱石】【森鷗外】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(レポートなど) ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

漢和辞典を準備して授業に臨むことが望ましい。
授業前には、あらかじめ指示もしくは配布された参考資料などを読んでおくこと。
授業後には、配布プリントやノートを再読し、内容を各自まとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学作品講読A 【昼】

担当者名
/Instructor

堀地 明 / 中国学科

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

1学期

授業形態 講義
/Class Format

講義

クラス 3年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
	○	○	○								

授業の概要 /Course Description

現代中国語の文献講読を通じて、以下の技能・知識を習得する。

- ①現代中国語文献を日本語に翻訳する技能を習得する。
- ②文献に記された内容を十分に理解し、専門的知識を深める。
- ③文献に記された主題を通じて、中国語使用圏への関心と理解を深める。
- ④台湾と香港で使用され、字体と画数が簡略化されていない伝統的な繁体字(繁体字)に習熟する。

教科書 /Textbooks

洪長泰『地標...北京の空間政治』(OXFORD University Press 2011年、中文繁体字横書き)
「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」

※こちらでテキストは用意し配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○倉沢進他『北京 皇都の歴史と空間』(中公新書 2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「序論」輪読-内戦の帰趨と共産黨の北平入城
- 第3回 「序論」輪読-空間政治理論と記念碑的建築群
- 第4回 「序論」輪読-共産黨の政治と首都北京の決定
- 第5回 「序論」輪読-空間政治理論と一黨専制、本書の内容
- 第6回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-1949年建國大典と天安門廣場
- 第7回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-新行政區中心の配置を巡って
- 第8回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-中國人都市設計家の構想
- 第9回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-北京改造を巡る中ソ論争
- 第10回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-天安門廣場の創出と設計プラン
- 第11回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-天安門前からの住民強制退去
- 第12回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-天安門廣場の主要建物をめぐって
- 第13回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-天安門廣場の面積をめぐって
- 第14回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-長安街の廣さをめぐって
- 第15回 「天安門廣場：民族主義的新政治舞台」輪読-天安門廣場の誕生と中國の民族主義

- ①初めに文献を正確な発音で朗読し、次いで日本語に逐語訳する。
- ②語彙や文法についても適宜解説する。
- ③あらかじめ輪読の担当者2~3人と担当部分を決め、文献を読み進める。
- ④学生の読解力に応じて進度を調整し、輪読する文献が増減することもある。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常評価40%、期末試験60%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として辞書を引き音読し自ら日本語訳をすること、復習としてテキストを再読し文法事項と未学習の単語を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでの中国語学習では繁体字に触れる機会は少ないと思います。本授業を通じて繁体字に慣れましょう。

キーワード /Keywords

文学作品講読B 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

現代中国語の文献講読を通じて、以下の技能・知識を習得する。

- ①現代中国語文献を日本語に翻訳する技能を習得する。
- ②文献に記された内容を十分に理解し、専門的知識を深める。
- ③文献に記された主題を通じて、中国語使用圏への関心と理解を深める。
- ④台湾と香港で使用され、字体と画数が簡略化されていない伝統的な字体「繁體字」(繁体字)に習熟する。

教科書 /Textbooks

張戎『鴻 三代中国女人的故事』(唐莊文化 2006年、中文繁體字縦書き)
1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾」

※こちらでテキストは用意し配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○田中仁等『新図説中国近現代史』(法律文化社、2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾(1909~1933年)」輪読
 - 第3回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾(1909~1933年)」輪読
 - 第4回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾(1909~1933年)」輪読
 - 第5回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾(1909~1933年)」輪読
 - 第6回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾(1909~1933年)」輪読
 - 第7回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾(1909~1933年)」輪読
 - 第8回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾(1909~1933年)」輪読
 - 第9回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾(1909~1933年)」輪読
 - 第10回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾(1909~1933年)」輪読
 - 第11回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾(1909~1933年)」輪読
 - 第12回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾(1909~1933年)」輪読
 - 第13回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾(1909~1933年)」輪読
 - 第14回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾(1909~1933年)」輪読
 - 第15回 1 「三寸金蓮 嫁給軍閥為妾(1909~1933年)」輪読
- ①初めに文献を正確な発音で朗読し、次いで日本語に逐語訳する。
 - ②語彙や文法についても適宜解説する。
 - ③あらかじめ輪読の担当者2~3人と担当部分を決め、文献を読み進める。
 - ④学生の読解力に応じて進度を調整し、輪読する文献が増減することもある。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常評価40%、期末試験60%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として辞書を引き音読し自ら日本語訳をすること、復習としてテキストを再読し文法事項と未学習の単語を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでの中国語学習では繁體字に触れる機会は少ないと思います。本授業を通じて繁體字に慣れましょう。

キーワード /Keywords

中国歴史社会研究I【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ「大長今(宮廷女官チャングムの誓い)」を通して、前近代東アジアの政治・経済・社会・文化・国際関係について学ぶ。ドラマの舞台は15世紀の朝鮮であるが、当時の朝鮮は漢字文化圏の一部であった。朝鮮(韓国)での漢字文化受容の在り方を通して、中国文化の普遍性について考察する。Iでは主として政治・経済・国際関係の実態と思想との整合性について述べる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。毎回ドラマ1話を見せ、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 中国や韓国の子供観・文字学習と千字文
- 第3回 鶏肋の意味
- 第4回 朝鮮の秩序意識・大陸における面子の重要性
- 第5回 饅頭・儒教と「孝」
- 第6回 ヨンセンと人間関係
- 第7回 冊封体制・明の使節
- 第8回 満漢全席・食器
- 第9回 料理
- 第10回 「忠」と「孝」との相克
- 第11回 衣装と服制
- 第12回 白米・貨幣
- 第13回 上司の条件
- 第14回 東アジアにおける銀の流通
- 第15回 結論(東アジアの文化的共通性)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト30%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には概説書等を通して高等学校の世界史レベルの基礎知識を事前に学んでおくこと。事後には小テスト対策も兼ねてレジュメ・口頭説明の内容を再確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国歴史社会研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ「大長今(宮廷女官チャングムの誓い)」を通して、前近代東アジアの政治・経済・社会・文化・国際関係について学ぶ。ドラマの舞台は15世紀の朝鮮であるが、当時の朝鮮は漢字文化圏の一部であった。朝鮮(韓国)での漢字文化受容の在り方を通して、中国文化の普遍性について考察する。IIではこれまでこの地域の普適的思想と考えられてきた「儒教」が、実際には地域の社会的・文化的特性に応じて、固有の変化を遂げていたことを述べる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。毎回ドラマ1話を見せ、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 医女の歴史・中国の年号を朝鮮で用いた理由
- 第3回 儒教の経典
- 第4回 復讐と報恩・ヨンセンの面子
- 第5回 東洋医学・己卯士禍
- 第6回 華佗
- 第7回 脚気
- 第8回 宮廷の構成
- 第9回 胡椒の流入・韓国人と漢字
- 第10回 裁判制度・密貿易
- 第11回 親孝行
- 第12回 大長今の称号
- 第13回 チャングムの時代の東アジア儒教(朱子学の伝播)
- 第14回 チャングムの時代の東アジア外交(漢字文化圏の一体性)
- 第15回 結論(中国文化の朝鮮への伝播)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト30%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には概説書等を通して高等学校の世界史レベルの基礎知識を事前に学んでおくこと。事後には小テスト対策も兼ねてレジュメ・口頭説明の内容を再確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス中国語A 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

教科書 /Textbooks

初回授業時に指示する。

その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
日本BCT事務局 セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期 (A)

ビジネス基本単語の発音と日本語の意味合いを繰り返して覚える。実務に使われる基本文章を学習する。BCT試験内容「ヒアリング・閲読・作文」を理解し、受験する試験会場での実際の試験プロセスを把握する。模擬問題集の問題を練習し、模擬テストを体験する。BCTテストに挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ビジネス用語単語テスト・基本作文に関する説明
- 3回 ビジネス用語単語テスト・経済図表分析作文作成に関する説明
- 4回 ビジネス用語単語テスト・作文練習1
- 5回 ビジネス用語単語テスト・作文練習2
- 6回 ビジネス用語単語テスト・伝言メモ作成に関する説明
- 7回 ビジネス用語単語テスト・作文練習3
- 8回 ビジネス用語単語テスト・作文練習4
- 9回 ビジネス用語単語テスト・企画書作成に関する説明
- 10回 ビジネス用語単語テスト・作文練習5
- 11回 ビジネス用語単語テスト・作文練習6
- 12回 ビジネス用語単語テスト・お詫び文作成に関する説明
- 13回 ビジネス用語単語テスト・作文練習7
- 14回 ビジネス用語単語テスト・作文練習8
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度15%、単語小テスト30%、作文30%、定期試験25%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

単語小テストを行うため、単語予習に時間をかける必要がある。

履修上の注意 /Remarks

毎回必ず授業の内容を予習と復習すること。

欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジネスに関わる中国語の単語をより多く聞き取れるように勉強してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス専門用語 B C T 受験 （ BCT初級、中・ 上級を含む ）

ビジネス中国語B【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

教科書 /Textbooks

初回授業時に指示する
その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期（B）
ビジネス基本単語を繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。
「ヒアリング・読読・会話」について繰り返して学習する。（BCT問題集を学習する。）
ビジネス会話に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ビジネス用語単語テスト・読読練習1
- 3回 ビジネス用語単語テスト・読読練習2
- 4回 ビジネス用語単語テスト・読読練習3
- 5回 ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習1
- 6回 ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習2
- 7回 ビジネス用語単語テスト・ヒアリング練習3
- 8回 思考力、考える力に関する練習
- 9回 発想力練習
- 10回 実践ビジネス会話翻訳1
- 11回 実践ビジネス会話練習1
- 12回 実践ビジネス会話翻訳2
- 13回 実践ビジネス会話練習2
- 14回 実践ビジネス会話翻訳3
- 15回 実践ビジネス会話練習3

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・小テスト30%、翻訳発表40%、定期試験30%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

単語テストの予習、会話発表の準備。

履修上の注意 /Remarks

毎回必ず授業の内容を予習と復習すること。
欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く覚え、ビジネス情報に関心を持ってほしい。
必ず出席すること。

キーワード /Keywords

ビジネス専門用語 会話力 ビジネス文章 BCT受験（BCT初級、中・上級を含む）

中国の社会【昼】

担当者名 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国の社会について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国の社会について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。そこで、中国における政治・外交・経済・宗教・文化などの分野について、歴史学研究成果をふまえて論じたい。本講義では、専門的な基礎知識を習得したうえで、中国の社会に対する理解・関心を深めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 日中交流史
 - 3回 中国の歴史(1) 【「中国」のはじまり】
 - 4回 中国の歴史(2) 【秦の中国統一】
 - 5回 中国の歴史(3) 【前漢から後漢へ】
 - 6回 中国の歴史(4) 【魏晋南北朝時代】
 - 7回 中国の歴史(5) 【隋唐時代】
 - 8回 中国の歴史(6) 【宋元時代】
 - 9回 中国の歴史(7) 【明清時代】
 - 10回 中国の政治体制と国際関係
 - 11回 中国の宗教(1) 【儒教】
 - 12回 中国の宗教(2) 【道教と仏教】
 - 13回 中国の文化
 - 14回 中国の経済
 - 15回 まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・80% 日常の授業への取り組み・・・20%
*なお、欠席・遅刻・私語など授業態度については、成績評価の際に適宜考慮する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)
予習については、中国に関する書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、授業を集中して聞き、適宜ノートを取る。定期試験では、ノートの持ち込みを許可する。初回到講義のガイダンスを行うので、出席すること。講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国の「現在」を理解するには、「歴史」を知ることが大切です。
中国の「今と昔」を理解することは、必ず学生諸君のプラスになります。

キーワード /Keywords

中国 社会 歴史 政治 外交 宗教 文化 経済 日中関係

東アジア経済論【昼】

担当者名 /Instructor 柳 学洙 / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

東アジアが世界経済の成長エンジンと言われるようになって久しい。21世紀は東アジアの時代だとも言われる。だが、「東アジア」という言葉が指す地域は広大であり、それぞれの国・地域がたどった歴史と経済成長の経路も多様である。そのような東アジアの発展経路の多様性を知り、それぞれの特徴を比較して考える視点を持つことは、日本に生きる我々にとって必要な知的訓練である。

この授業では、アジア経済の将来を展望するために必要な基本的知識を得ることを目標として、第二次世界大戦後のアジア各国の経済発展の歩みと現在の課題を概観する。

また、日本と東アジアを比較して考えるためのトレーニングとして、隣国である韓国・中国と日本が共通して抱える社会・経済的課題を取り上げて解説する。

最後に、東アジアの経済統合がいかなる秩序とコンセンサスの下で可能なかを探るために、現在進んでいる様々な経済統合の試みを分析する。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。各回の講義で配布するプリントに沿って授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 三重野文春 / 深川由紀子編 (2017) 『現代東アジア経済論』 ミネルヴァ書房
- 遠藤環ほか編 (2018) 『現代アジア経済論 - 「アジアの世紀」を学ぶ』 有斐閣
- 坂田幹男 (2013) 『ベーシック アジア経済論』 晃洋書房
- ジェトロ・アジア経済研究所 『アジア動向年報』 各年版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス, 第二次世界大戦後の東アジア経済 - 社会主義と開発主義
- 第2回 「東アジアの奇跡」と開発主義国家
- 第3回 1997年のアジア通貨危機と従来の発展モデルの挫折
- 第4回 アジアNIEsの経済発展① 韓国
- 第5回 アジアNIEsの経済発展② 台湾
- 第6回 アジアNIEsの経済発展③ シンガポール
- 第7回 東南アジアの経済開発
- 第8回 中国の経済発展 - 社会主義市場経済の挑戦
- 第9回 北朝鮮の経済改革 - 自力更生と市場経済
- 第10回 日韓経済の比較 若年層の雇用と格差拡大
- 第11回 日中韓経済の比較 少子化問題と社会保障
- 第12回 2000年代の東アジア経済① 経済交流の深化と中国の台頭
- 第13回 2000年代の東アジア経済② 地域内の労働力移動と人の定着
- 第14回 2000年代の東アジア経済③ 広域自由貿易圏構想と中国主導の経済秩序
- 第15回 まとめ - アジアの経済統合の展望と日本の役割

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習姿勢およびリアクションペーパー : 30%, 期末レポート : 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、ジェトロのHPにある「国・地域別に見る」(<https://www.jetro.go.jp/world/asia/>)のコーナーで、授業で取り上げる国の基本データを確認しておくことを勧める。事後学習としては、授業内容をよく復習し、講義や配布プリントで分からなかった点を自分なりに調べ、それでも解決できなければ次回の授業で質問してほしい。

履修上の注意 /Remarks

とくにありませんが、授業を受ける前に、自分が関心のある東アジア各国の本や映画、芸能文化などに触れてみて、これから学ぶ地域のイメージをふくらませておけば、授業がより楽しくなると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「東アジア」という地域は、何となく知っているようでありながら、学んでみると知らないことや意外な側面がドンドン出てきます。この授業を通じて、皆さんがすぐ隣にある東アジアの人々と国のことを知り、親しみを感じられるようになってほしいと思います。

キーワード /Keywords

東アジアの開発主義，移行経済論，東アジアの少子化問題，労働力移動，国際分業，地域統合

地域研究入門 (朝鮮半島) 【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

いま不幸にも朝鮮半島は国土が南北に分断されているが、その社会の固有の文化や政治は長きにわたって、日本社会にも様々な影響を及ぼしてきた。この講義では、日本との関連性を念頭に置きつつ、近代以来の朝鮮半島の歩みを概観することで、この最も親しい隣人と真の和解を遂げるための、基礎的な知識を習得する。なお、近代以降、朝鮮半島は大国の利害が錯綜してきた国際政治の中心舞台であったがゆえに、その経験を学ぶことで、東北アジア国際政治に対する理解を深める。

教科書 /Textbooks

- 趙景達 『近代朝鮮と日本』 (岩波新書) (東京 : 岩波書店、2012年)、846円 (税別)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 徐仲錫 著・文京洙訳 『韓国現代史60年』 (東京 : 明石書店、2008年)、2400円 (税別)。
 - ブルース・カミングス 著、横田安司・小林知子訳 『現代朝鮮の歴史—世界のなかの朝鮮』 (東京 : 明石書店、2003年)。
- その他、授業中に適宜紹介する。なお、授業中に配布する資料・レジュメを参考にすること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：朝鮮半島をどうみるか
 - 第2回 近代日本と朝鮮①：征韓論、日朝修好条規、壬午軍乱
 - 第3回 近代日本と朝鮮②：日清戦争、甲申政変、大韓帝国
 - 第4回 近代日本と朝鮮③：日露戦争、日韓併合
 - 第5回 日本の植民地支配①：近代化論vs.収奪論など
 - 第6回 日本の植民地支配②：反日運動、皇民化政策など
 - 第7回 日本の植民地支配③：日本の戦争と朝鮮半島
 - 第8回 解放と独立、南北分断
 - 第9回 朝鮮戦争
 - 第10回 李承晩政権の歩みと北朝鮮の社会主義建設
 - 第11回 朴正熙政権の歩みと金日成の選択
 - 第12回 日韓国交正常化交渉における争点、日朝関係の展開
 - 第13回 デタント、産業化競争と民主化への道程
 - 第14回 南北関係と東北アジア国際政治
 - 第15回 まとめ：2つの朝鮮問題
- (注) 授業の進捗度などによって変更の可能性あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

コメントカード・・・50%、読書感想文・・・20%、レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストなど指定された資料をきちんと読んだうえで授業に臨むこと (必要な学習時間の目安は、予習60分)。

履修上の注意 /Remarks

授業終了後には復習を行い、必ずコメントカードを提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い講義になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

近代、近代化、植民地、解放、分断、日韓関係、民主化、産業化、朝鮮半島問題、北朝鮮

地域研究入門 (東南アジア) 【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業では、東南アジアという地域の特徴をとらえるとともに、自らを東南アジアという地域に位置づけている11カ国のうち主な国を取り上げて、各国の特徴をとらえることを目的とする。東南アジアに関する時事問題の読み解きや、東南アジアに関する専門書を読みこなすうえで必要となる基本的な地理や歴史、各国の現代政治史と今日的な課題などを中心に説明していく。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 弘末雅士『東南アジアの港市世界』岩波書店、2004年。
 - 清水一史・田村慶子・横山豪志編著『東南アジア現代政治入門 第2版』ミネルヴァ書房、2018年。
- このほかにも講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「東南アジア」という地域概念の展開&地理の把握
- 3回 多様な東南アジア世界：自然環境、言語、宗教
- 4回 東南アジアの近現代史
- 5回 島嶼部諸国のプロフィール(1) インドネシア
- 6回 島嶼部諸国のプロフィール(2) マレーシア
- 7回 島嶼部諸国のプロフィール(3) シンガポール
- 8回 島嶼部諸国のプロフィール(4) フィリピン
- 9回 東南アジアと日本(1) 第2次世界大戦前まで
- 10回 大陸部諸国のプロフィール(1) ベトナム
- 11回 大陸部諸国のプロフィール(2) カンボジア
- 12回 大陸部諸国のプロフィール(3) タイ
- 13回 大陸部諸国のプロフィール(4) ミャンマー
- 14回 東南アジアと日本(2) 第2次世界大戦以降
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 40% 期末試験 ... 60%

小テスト実施日に欠席する/した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試にはなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

小テストを3回実施する予定です。小テストの成績は成績評価全体の4割を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。授業終了後は授業の内容を復習するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化概論I【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

イギリスを中心に、アメリカ等も含む英語圏の文化を幅広く検討する。異文化に接近するための方法論と基礎知識を身につける。

教科書 /Textbooks

指定しない。各回でレジュメ等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション【イギリス文化】
 - 第2回 英米文化への接近方法【異文化理解】【コミュニケーション】
 - 第3回 イギリスには建国記念日がない【アングロ・サクソン】【ノルマン征服】
 - 第4回 イギリスの国王は(意外と)権力が強い【立憲君主政】【マグナ・カルタ】
 - 第5回 20世紀まで英語は国際言語ではなかった【英語】【百年戦争】
 - 第6回 イギリス国旗には緑がない【国旗】【ウェールズ】
 - 第7回 スコットランド人は「秘密の多い世界」を好むといわれる【帝国】【スコットランド】
 - 第8回 イギリス国歌には歌われない歌詞がある【国歌】【名誉革命体制】
 - 第9回 イギリスでは厳格な政教分離がなされていない【政教分離】【国教会】
 - 第10回 アイルランドはイギリスが作った(1)【アイルランド】【カソリック】
 - 第11回 アイルランドはイギリスが作った(2)【アイルランド】【北アイルランド問題】
 - 第12回 ホワイトハウスが白なのはイギリスのせいでもある【アメリカ独立】【自由】
 - 第13回 イギリスの覇権は奴隷貿易がもたらした【奴隷貿易】【産業革命】
 - 第14回 イギリスにもねじれ国会があった【貴族】【民主主義】
 - 第15回 まとめ【イギリス文化】
- 期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前・事後に学習・準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化概論II 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の社会を織りなす精神文化、精神的遺産について植民地から21世紀までの歴史的発展を通じて概説する。

教科書 /Textbooks

前半はテキストとして斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』(東京大学出版会 2012年)を使用する。同書のほかに、後半で基礎文献を追加する場合があるので注意すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【アメリカ合衆国の輪郭】
 - 第2回 英領アメリカ植民地の文化【ピューリタニズム】【自由主義】【多様性】
 - 第3回 独立革命と共和主義【大覚醒】【共和主義】
 - 第4回 19世紀アメリカの形成【合衆国憲法】【フェデラリスト】【ジェファソン民主主義】
 - 第5回 市場革命【西部】【市場革命】【超絶主義】
 - 第6回 奴隷制の拡大と南北戦争【奴隷制】【南北戦争】
 - 第7回 再建の時代から20世紀アメリカ秩序へ【再建】【憲法修正】【金ぴか時代】【移民】【ポピュリズム】【革新主義】
 - 第8回 米国関係者との文化交流
 - 第9回 第一次世界大戦【100%アメリカニズム】
 - 第10回 大衆消費社会と禁酒法【移民制限】【1920年代】
 - 第11回 大恐慌の発生【世界恐慌】【ニューディール】
 - 第12回 第二次世界大戦【冷戦】【日系人】
 - 第13回 公民権運動【アフリカ系アメリカ人】【人種問題】
 - 第14回 多文化主義の興隆【ヒスパニック】【同性結婚】
 - 第15回 これからのアメリカ社会【9.11】【21世紀】
- * 上記の予定は、外部講師の都合で変動する場合がありますので、注意すること。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習の指示をするので、それにしたがって事前学習を行い、授業後はレポート、試験に備えて授業で示された文献を読んで、内容を整理すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アメリカの文化と歴史について包括的な知識を提供します。

キーワード /Keywords

アメリカ 文化 歴史

国際関係論I【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

グローバル化の進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、グローバル化の進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、国際関係の土台をなす「国家」の位置づけ・意義の変容であり、例えば、国際機関や多国籍企業、国際NGOといった国家以外のアクターの影響力が増大したことや、各国が単独では解決しえない「グローバル・アジェンダ」への対応の必要性に注目が集まるようになったこと、紛争の形態が国家間戦争から内戦、テロといった錯綜した状況へと移行したことなどに表れています。

この授業では、このような国際社会の新たな動向と課題を理解するための方法と基礎知識の獲得をめざします。具体的には、第二次世界大戦後の冷戦期からポスト冷戦期である今日に至るまでの国際関係の流れや国際問題に焦点をあてながら、国際関係の主要な理論について学習します。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定せず、毎回レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山田高敬、大矢根聡 [編] 『グローバル社会の国際関係論』 [新版] (有斐閣、2011年)。
- 吉川直人、野口和彦 [編] 『国際関係理論』 [第2版] (勁草書房、2015年)。
- 原彬久 [編] 『国際関係学講義』 [第4版] (有斐閣、2011年)。
- 滝田賢治、大芝亮、都留康子 [編] 『国際関係学』 [第2版] (有信堂、2017年)。

その他の文献については授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
1. 国際関係学とは何か【理想主義、現実主義】
 2. 近代国家の誕生と特質【主権、国民国家】
 3. 国際関係の分析視角【自由主義、現実主義、マルクス主義】
 4. リアリズム【アナーキー、パワー・ポリティクス、勢力均衡】
 5. ネオリアリズム【覇権安定、二極システム】
 6. 安全保障体制(1)：冷戦の始まりと終焉【安全保障のジレンマ、CTBT】
 7. リベラリズム【相互依存、機能主義】
 8. 前半の総括
 9. ネオリベラリズム【国際レジーム、制度】
 10. コンストラクティヴィズム【アイディア、間主観性】
 11. 国際貿易体制の成立と変容【GATT、WTO、FTA】
 12. 国際通貨体制の成立と変容【ブレトンウッズ体制、IMF】
 13. 安全保障体制(2)：冷戦の終結と人道的介入【強制措置、人道的介入】
 14. 人権の国際問題化と多様なアクター【人権、企業の社会的責任】
 15. 講義のまとめ【グローバル化と国際社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：20% ミニレポート：20% 期末試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に参考文献を読んでおくこと。
授業後は必ず復習すること。

履修上の注意 /Remarks

日頃から国際関係に関する出来事について関心を持ち、日々新聞を読む習慣を身につけておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この講義では、現代の国際社会が抱える様々な課題を取り上げ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を考察します。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的文脈からも分析します。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養います。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。毎回、レジュメを配布します。また、テーマに関係する文献をその都度、提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

滝田賢治・大芝亮・都留康子『国際関係学-地球社会を理解するために』（第2版）有信堂高文社、2017年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「平和学の基礎」【積極的平和】【消極的平和】
- 第2回 「変化する国際政治経済秩序」【新興国】【BRICS】【G20】
- 第3回 「アジアにおける安全保障」【中国の台頭】【日本の防衛力強化】
- 第4回 「安全保障のジレンマ」【囚人のジレンマ】【チキン・ゲーム】
- 第5回 「安全保障観の変容」【人間の安全保障】【国家安全保障】
- 第6回 「保護する責任」【人道的介入】【ICISS】
- 第7回 「核兵器を巡る議論と展開」【NPT体制】【核兵器禁止条約】
- 第8回 「エネルギー」【原子力】【再生可能エネルギー】
- 第9回 「環境」【地球温暖化】
- 第10回 「食料」【遺伝子組み換え作物】
- 第11回 「移民、難民問題」【社会包摂】【多文化主義】【同化政策】
- 第12回 「中東、イスラーム」【イスラモフォビア】【スンニ派とシーア派】
- 第13回 「アフリカ」【ガバナンス】【汚職・腐敗】【北京コンセンサス】
- 第14回 「ジェンダー」【ジェンダー・ギャップ・インデックス】
- 第15回 「エシカル消費」【フェアトレード】【ESG投資】

※順番が入れ替わったり、国際情勢によって緊急的にホットなイシューを取り上げる可能性があります。また、外部講師を招いての特別講演会が行われる可能性もあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出物・・・30% 学期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布するレジュメを前週の金曜日を目処にMoodleにアップします。受講生は事前に目を通しておくように。事後学習として課題レポートを課します(1回)。

履修上の注意 /Remarks

授業で扱うテーマは限定されています。国際関係について関心を深めるためには、新聞を必ず読みましょう。また、授業で紹介する新書などを数多く読むようにして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Moodleにレジュメをアップするので、プリントの配布は行いません。黒板を使用せず、アップしたワードのファイルに書き込むスタイルを取ります。そのため、大教室の後方では見えづら可能性があります。なるべく前方に着席してください。できればダウンロードしたワードファイルを印刷してノートの左側に貼り付け、右側には授業中に補足した説明をメモするなど、独自にノートを作成してください。授業中の私語は厳禁です。他の受講生の迷惑になりますので、途中入退室は原則として禁止します。

キーワード /Keywords

アメリカの政治I【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

現代アメリカ政治の基礎を講じる。

教科書 /Textbooks

『アメリカ政治』 第3版 (有斐閣アルマ 2017年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』(東京大学出版会 2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回アメリカ政治の輪郭
- 第3回合衆国憲法の形成
- 第4回合衆国憲法の特徴
- 第5回大統領制
- 第6回議会
- 第7回司法
- 第8回連邦制
- 第9回選挙と政党制
- 第10回政党の機能
- 第11回メディアと圧力団体
- 第12回イデオロギー対立
- 第13回政策形成過程
- 第14回アメリカ民主政の現在
- 第15回授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を教科書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容は英米文化概論IIであつかう内容や、国際関係史であつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、よく理解することができるようになります。
授業開始前までにあらかじめ教科書や参考書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと教科書を照合しながら、理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業開始前までに予め教科書で授業の該当箇所を読み、授業終了後には教科書で復習すること。

キーワード /Keywords

アメリカ 政治

アメリカの政治II 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

植民地期から第一次世界大戦までのアメリカ政治の発展を講じる。前半部分では、植民地期から建国期のアメリカについて国際情勢と社会状況を踏まえて、その政治秩序の形成を論じる。続いて後半では、南北戦争後に国家秩序が再編された経緯を説明し、門戸開放外交を軸としたアメリカ合衆国の積極的対外政策の展開と第一次世界大戦の衝撃を扱う。

教科書 /Textbooks

斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』（東京大学出版会 2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中野博文『ヘンリ・アダムズとその時代』（彩流社 2016年）
教科書の参考文献リストを参照。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回アメリカ植民地の形成と発展
- 第3回独立革命再考
- 第4回合衆国憲法体制
- 第5回大陸国家と海洋国家
- 第6回アメリカ合衆国の軍事制度
- 第7回奴隷制をめぐる国際政治
- 第8回南北戦争とは何であったのか
- 第9回合衆国憲法体制の再編
- 第10回米国のアジア・中南米貿易の発展
- 第11回自由貿易体制とアメリカ合衆国
- 第12回帝国主義外交とアメリカ
- 第13回門戸開放外交とは何であったか
- 第14回日露戦争から第一次世界大戦へ
- 第15回総括：20世紀アメリカ政治秩序の特質

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を参考書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容は現代アメリカ政治であつかう内容や、国際関係史であつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、アメリカ国家の発展をよく理解することができるようになります。
また授業前にあらかじめ教科書で内容を予習し、授業後は復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上の繰り返しですが、授業開始前までにあらかじめ教科書や参考書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと教科書を照らしながら、理解を深めること。

キーワード /Keywords

アメリカ 政治

東アジア地域秩序論I【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

国際政治の観点から「東アジア共同体」を多元・重層的に捉えなおし、アジア地域統合の課題や可能性を分析する。そして将来の東アジア地域秩序の構想・構築を展望する。

教科書 /Textbooks

山本吉宣等【編著】『国際政治から考える東アジア共同体』（ミネルヴァ書房、2012）、3200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生の報告と補足講義で進行する。

- 第1回 教科書の紹介、第Ⅰ部第1章 【地域統合】【理論】【制度】
- 第2回 第Ⅰ部第2章 【東アジア共同体】【TPP】【アメリカの関与】
- 第3回 第Ⅰ部第3章 【EU事例】【主権】
- 第4回 第Ⅰ部第4章 【東アジア共同体憲章案】
- 第5回 第Ⅰ部第5章 【ASEAN】【ヨーロッパ統合】
- 第6回 第Ⅰ部第6章 【北東アジア】【朝鮮半島】
- 第7回 第Ⅰ部第7章 【アジア太平洋】【中国】【アジア地域連帯】
- 第8回 第Ⅰ部第8章 【バルカン】【地域史】
- 第9回 第Ⅰ部第9章 【地域安全保障】【中国】
- 第10回 第Ⅰ部第10章 【安全保障】【地域秩序】
- 第11回 第Ⅰ部第11章 【欧州共同体】【地域の不安定化】
- 第12回 第Ⅴ部第13章 【人の移動】【マイノリティ】
- 第13回 第Ⅴ部第14章 【アイデンティティ】【東アジア・アイデンティティ】
- 第14回 第Ⅴ部第15章 【戦後ドイツ】【東アジア地域統合】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告(20点)、レポート2本(80点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業は報告者以外の受講生も予習してくる。授業後の関連文献の自主学習。

履修上の注意 /Remarks

必ず予習と復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

東アジアの過去と現在に関心を持ち、日本と東アジア地域の将来を展望し構想しましょう。

キーワード /Keywords

東アジア地域秩序論II 【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

近代における東アジア地域秩序の変容を論じ、變らの東アジア地域秩序を考えること。そのため、本講義では、東アジア三国（日本、清国・中国、朝鮮・韓国）のナショナリズムの形成と展開を考察する。その過程で、三国それぞれのナショナリズムの特徴を比較考察する。また、ナショナリズム論も考察する。最後に、三国のナショナリズムと「グローバル化時代の東アジア」を対比し、それを調和させるべく、「東アジア共同体論」を検討する。講義全体のキーワードは【アジアからの視点】【文明論的視点】【ナショナリズム】【東アジア共同体】

教科書 /Textbooks

米原謙・金鳳珍・區建英著『東アジアのナショナリズムと近代—なぜ対立するか—』大阪大学出版会、2011、3700円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストの精読、受講生の報告、補足講義という形式で行う。

第1回 概説と教科書の序章 【アジアからの視点】【文明論的視点】
第2回 第一章の一 【国体論】【国体ナショナリズム】
第3回 第一章の二、三 【中華世界像】【国民国家】【明治儒学と国体】
第4回 第二章の一、二 【原初ナショナリズム】【近代ナショナリズム】
第5回 第二章の三、四 【ナショナリズムの噴出と相克】
第6回 第三章の一、二 【洋務運動】【戊戌変法】【ナショナリズムの萌芽】
第7回 第三章の三 【辛亥革命】【民族主義】【国粹主義】
第8回 第四章の一 【脱亜】【興亜】【帝国日本】
第9回 第四章の二、三 【戦争】【東亜協同論】
第10回 第五章の一、二 【抵抗ナショナリズムの離散と噴出】【分極】
第11回 第五章の三、四 【ナショナリズムの離合集散】【分裂と変質】
第12回 第六章の一、二 【アジア主義】【抗日ナショナリズム】
第13回 第六章の三 【アジア民族同盟】【統一戦線】【抗日戦争】
第14回 終章 【ナショナリズムの相克】
第15回 まとめ 【相生と相克】【東アジア共同体】

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告（10%）、2本のレポート（1本45%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、教科書の予習をしてくること。それを前提として授業を進める。関連文献を探し、自主学習すること。

履修上の注意 /Remarks

毎回の授業の予習は必須。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

東アジア三国におけるナショナリズム形成と相克の歴史を学び、それぞれのナショナリズムを相対化すること。そして将来の東アジア国際関係の協調体制と東アジア共同体を構想すること。

キーワード /Keywords

アジア地域統合論 【昼】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める視点として、この授業ではASEAN（東南アジア諸国連合）を中心に扱う。ASEANは、東南アジアにおける国境線がまだ流動的であった時代に、各国の内政と外交とが絡み合い生じた紛争を経て発足した。発足後のASEANは、発展途上の小国が自国の安全保障に大きく影響を与える地域全体の将来を、大国に翻弄されることなく自らの意志で方向づけようと不断に工夫を積み重ねる中で、アジア・太平洋地域で進展する地域統合の核を成す存在にまで発展した。こうしたASEANの歴史を見ることを通じて、東南アジアについて各国の政治と外交から理解を深めるとともに、地域秩序や国際秩序の構築において東南アジア諸国がどのように参画して来たかを理解する。

教科書 /Textbooks

毎回講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山影進『ASEAN-シンボルからシステムへ』東京大学出版会、1991年
- 山影進『ASEAN/パワー-アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。
- 山影進『転換期のASEAN-新たな課題への挑戦』日本国際問題研究所、2001年。
- 黒柳米司『ASEAN35年の軌跡-'ASEAN Way'の効用と限界』有信堂高文社、2003年。
- 黒柳米司編著『アジア地域秩序とASEANの挑戦-「東アジア共同体」をめざして』、明石書店、2005年。
- 山影進『新しいASEAN-地域共同体とアジアの中心性を目指して』アジア経済研究所、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 東南アジアにおける国民国家の成立
- 3回 東南アジアにおける地域協力という発想の登場
- 4回 東南アジア連合(ASA)の成立と地域紛争
- 5回 地域紛争と第2の地域協力機構：マフィリンド(Maphilindo)
- 6回 東南アジア諸国の政治変化とASEANの成立
- 7回 ASEANの始動と変容
- 8回 インドシナ紛争とASEAN諸国(1)「難民」への対応
- 9回 インドシナ紛争とASEAN諸国(2)カンボジア内戦への関与
- 10回 ポスト冷戦期のASEAN(1) ASEANの拡大
- 11回 ポスト冷戦期のASEAN(2) 経済協力への取り組み：AFTA
- 12回 ASEANのAPECへの参画
- 13回 ASEAN地域フォーラム(ARF)、ASEAN+3、東アジア首脳会議(EAS)
- 14回 ASEANの展望
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回)...45% 期末テスト...55%

小テスト実施日に欠席する/した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試はなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

小テストを3回実施する予定です。小テストの成績は成績評価全体の4割以上を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。

履修上の注意 /Remarks

東南アジア研究概論を受講したうえでこの授業を受講すると、この授業の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国・北朝鮮の政治外交I【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

「近くて遠い国」とも言われる隣国、韓国の政治外交に関する講義です（北朝鮮については2学期に開講される「韓国・北朝鮮の政治外交II」にて集中的に探求します）。ご存知のように、韓国は日本植民地支配からの解放と南北分断以来、冷戦体制の最前線に置かれながら、民主化を実現し、経済発展をとげた国です。授業の前半では、独立から現在に至るまでの韓国現代史を政治学と歴史学との接点という視点から概略的に振り返ります。その後、対日・対米・対北政策などの韓国の外交と、民主化・政党政治などの国内政治について考察を加えます。この授業が現代韓国に対する理解を高めるとともに、朝鮮半島問題を中心とした東北アジア国際政治を再考する場となればと思います。

教科書 /Textbooks

用いない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 木宮正史 『国際政治のなかの韓国現代史』（東京：山川出版社、2012年）、1620円。
上記に加えて、授業の進捗度や受講生の関心に応じて適宜紹介します。なお、授業中に配布する資料・レジュメを参考にすること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：韓国現代史をどうみるか
 - 第2回 解放、冷戦と南北分断体制の形成
 - 第3回 朝鮮戦争
 - 第4回 李承晩政権の政治・外交・経済
 - 第5回 朴正熙政権の政治・外交・経済
 - 第6回 日韓国交正常化への道程
 - 第7回 テタント、権威主義体制、産業化
 - 第8回 脱冷戦と韓国の外交路線
 - 第9回 民主化への道程
 - 第10回 韓国の同盟政治
 - 第11回 韓国の対日政策
 - 第12回 韓国の統一政策（対北政策）
 - 第13回 韓国の政党政治
 - 第14回 韓国の課題：成長と分配、少子高齢化、民主主義
 - 第15回 まとめ
- （注）授業進捗度などにより講義テーマが前後する場合がある。
（注）受講生の関心や必要に応じて外部講師による特別講義を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

コメントカード・・・50%
レポート・・・30%
読書感想文・・・20%、

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- （1）指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと（必要な学習時間の目安は、予習30分、復習30分）。
- （2）授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

- （1）テキストなどは講義と相互補完的関係にあるので、授業開始までにきちんと読むこと。
- （2）授業終了後には復習を行い、コメントカードを提出すること。
- （3）本講義は内容的に2学期開講の「韓国・北朝鮮の政治外交II」と深く関わっているため、併せて履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

韓国政治、韓国外交、分断体制、冷戦、脱植民地化、民主化、産業化、同盟、日韓関係、北朝鮮

韓国・北朝鮮の政治外交II【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

「謎に包まれた隣国」とも言われる北朝鮮の政治外交に関する講義です（韓国については1学期に開講される「韓国・北朝鮮政治外交I」にて集中的に探求します）。授業の前半では、建国から現在に至るまでの北朝鮮現代史を、政治学と歴史学との接点という視点から振り返ります。その後、北朝鮮の同盟外交と対日・対米・対南政策、国内政治、核・ミサイル問題などについて考察を加えます。この授業が北朝鮮に対する理解を高めるとともに、「朝鮮半島問題」を中心とした東北アジア国際政治を再考する場となればと思います。

教科書 /Textbooks

用いない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 和田春樹 『北朝鮮現代史』(岩波新書)(東京:岩波書店、2012年)、886円。
上記に加えて、授業の進捗度や受講生の関心に応じて適宜紹介します。なお、授業中に配布する資料などを参考にすること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション:北朝鮮をどうみるか
- 第2回 朝鮮民主主義人民共和国の成立
- 第3回 北朝鮮からみる朝鮮戦争
- 第4回 金日成と主体思想(1):国内政治の側面
- 第5回 金日成と主体思想(2):対外政策の側面
- 第6回 劣勢に立つ北朝鮮:デタント、南北間の産業化競争
- 第7回 冷戦の終焉と北朝鮮の危機
- 第8回 金正日の先軍政治
- 第9回 金正恩政権と北朝鮮の選択
- 第10回 北朝鮮の同盟政治:朝中ソ3角関係
- 第11回 北朝鮮と日本、米朝関係
- 第12回 北朝鮮の統一政策(対南政策)
- 第13回 北朝鮮の核・ミサイル問題
- 第14回 東北アジア平和体制と朝鮮問題
- 第15回 まとめ

(注) 授業進捗度などにより講義テーマが前後する場合がある。
(注) 受講生の関心や必要に応じて外部講師による特別講義を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

コメントカード・・・50%、読書感想文・・・20%、レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事後学習を行ったうえで必ずコメントカードを提出すること(必要な学習時間の目安は、復習60分)。

履修上の注意 /Remarks

本講義は内容的に前期開講の「韓国・北朝鮮の政治外交I」を引き継ぐため、併せて履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

北朝鮮、核・ミサイル、朝鮮戦争、主体思想、デタント、瀬戸際外交、南北関係、中朝関係、ソ(口)朝関係、日朝関係、金日成、金正日、金正恩

国際法I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

到達目標は、

- 国際法とは何を指すのか、慣習国際法の問題も含め、説明できる、
- 国際法がどのように作られるのか、その定立のプロセスを法制度として、説明できる、
- 締結された国際約束が国内社会でどのように取り扱われているのか、また国際約束の目的の実現のために国際社会が国内社会に対してどのように働きかけているのか、説明できる、
- 国際法における任意規範と強行規範の議論を、条約の無効の問題も含め、説明できる、
- 国際法への違反があった場合、どのような責任が発生するのか、紛争を処理するためにどのような国際制度があるのか、力による解決は認められるのか、それらの課題も含め、説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り、国内社会における国際法」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約への留保
- 第4回 条約の国内的効力と国内適用
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法」

- 第6回 条約と第三国
- 第7回 慣習国際法の成立
- 第8回 慣習国際法の法典化
- 第9回 条約の無効
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

予習復習課題、中間確認考査、および学期末試験で評価します。
予習復習課題...17.8% 中間確認考査...14.4% 学期末試験...67.8%
なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。
アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。
詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願があります。

国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

到達目標は、

- 国家システム(state system) の現状と課題を把握し、説明できる、
- 国際社会における主権国家の機能や役割を正しく理解し、説明できる、
- 国益、共通利益、国際社会の公益について、自らの問題として、積極的に考えることができる、
- 国家の基本的権利や義務の議論を正しく理解し、説明できる、
- 個人が国際法においてどのように取り扱われてきているか、その主体性について説明できる、
- 領域に対する国家の権限を正しく理解し、説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認・政府承認
- 第3回 国家の基本的権利
- 第4回 国家の基本的義務
- 第5回 まとめ

第II部「国際法主体としての個人」

- 第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定
- 第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援
- 第8回 国際犯罪
- 第9回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第10回 まとめ

第III部「陸・海・空と国際法」

- 第11回 陸と国際法：領土取得の権原・領域主権
- 第12回 海と国際法：海上交通
- 第13回 海と国際法：海洋資源
- 第14回 空と国際法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

予習復習課題、中間確認考査および学期末試験で評価します。

予習復習課題...17.8% 中間確認考査...14.4% 学期末試験...67.8%

なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

詳細は北方モデルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法Ⅰ」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

世界経済論I【昼】

担当者名 /Instructor 柳 学洙 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

経済学のユニークな点は、リアルな世界の複雑な経済事象をモデル化し、シンプルな形で考察・分析することに重点をおいていることである。このようなモデル化は、現実を十分に反映していないとして批判されることも多い。しかし現代において、経済学的なモデルに基づく分析が、経済政策の策定から企業の経営戦略、家計のやりくりに至るまで、社会の隅々にまで浸透していることも事実である。この授業では、経済学的な考え方のエッセンスを身に付けることを目的として、現代経済学の骨組みを構成している代表的なモデルを取り上げ、解説していく。

教科書 /Textbooks

吉沢泰治 / 塩路悦朗 (2018) 『ベーシック経済学 - 次につながる基礎固め [新版] 』有斐閣
※教科書に加え、各回の授業でプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 神取道宏 (2014) 『ミクロ経済学のカ』日本評論社
- 齊藤誠 / 岩本康志 / 太田聡一 / 柴田章久 (2016) 『マクロ経済学 (新版) 』有斐閣
- 尾山大輔 / 安田洋祐 (2013) 『改訂版 経済学で出る数学 - 高校数学からきちんと攻める』日本評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 経済のしくみと経済学
- 第2回 需要曲線と供給曲線
- 第3回 完全競争と市場均衡
- 第4回 市場均衡と余剰分析
- 第5回 市場の失敗と政府の役割
- 第6回 企業行動と財の供給
- 第7回 消費者行動と財の需要
- 第8回 競争均衡と効率的な資源配分
- 第9回 GDP (国内総生産) とは何か①
- 第10回 GDP (国内総生産) とは何か②
- 第11回 長期モデル① 総生産はどう決まるのか
- 第12回 長期モデル② モノの値段はどう決まるのか
- 第13回 短期モデル 硬直的な経済
- 第14回 人々の将来予想と経済変動
- 第15回 経済成長のモデル分析

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習姿勢およびリアクションペーパー : 30% , 期末試験 : 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、指定された教科書に目を通して、授業で扱う各種トピックについて確認しておくことを勧める。事後学習としては、授業内容をよく復習し、講義や配布プリントで分からなかった点を自分なりに調べ、それでも解決できなければ次回の授業で質問してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学は抽象的な学問というイメージを持たれることもありますが、それはモデル分析という外見上そう見えるだけであって、モデルの内側には、複雑な経済事象を理解するために心血を注いだ多くの経済学者の並々ならぬ苦闘の跡が刻まれています。この授業を通じて、「現実と格闘する学問」としての経済学の姿を皆さんに伝えることができたらと思います。

キーワード /Keywords

ミクロ経済学, マクロ経済学, モデル分析, 国民経済計算

世界経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor 柳 学洙 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

共産圏が崩壊し冷戦が終了したあと、世界経済は自由な国際貿易と資本移動によって繁栄を謳歌すると盛んに喧伝された。だが、冷戦が終わってから四半世紀以上が経った現在、拡大する格差や環境破壊といった問題は其の深刻さを増し、資本主義世界の盟主であるアメリカまでもが、国際貿易を公然と否定するような行動をとりはじめた。
自由な国際貿易と資本移動を原動力とする現代の世界経済システムは本当に持続可能なものなのか？この授業では、国際貿易の基本的なルールと理論的背景の解説からはじめ、多国籍企業の活動や環境問題、世界の格差、グローバルな人の移動といったトピックを取り上げながら、この問題について考えていく。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。各回の講義で配布するプリントに沿って授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○石田修ほか編 (2010) 『現代世界経済をとらえる Ver. 5』 東洋経済新報社
岩本武和ほか (2012) 『グローバル・エコノミー (第3版)』 有斐閣
岩本武和 (2012) 『国際経済学：国際金融編』 ミネルヴァ書房
ファクンド・アルヴァレドほか編 (2018) 『世界不平等レポート2018』 みすず書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 現代世界とグローバルな資本主義経済
- 第2回 比較優位の理論と国際貿易
- 第3回 近代世界システムとしての資本主義① 16世紀における「ヨーロッパ世界経済」の出現
- 第4回 近代世界システムとしての資本主義② 「中核」 - 「半周辺」 - 「周辺」の間の分業体制
- 第5回 近代世界システムとしての資本主義③ 資本主義はなぜ世界中に拡大するのか
- 第6回 グローバリゼーションの現場で何が起きているのか
- 第7回 世界の格差問題① 発展途上国と先進国
- 第8回 世界の格差問題② グローバリゼーションと多国籍企業
- 第9回 世界の格差問題③ 「スーパーリッチ」はどこにいるのか
- 第10回 世界の格差問題④ 「貧困」はどこにあるのか
- 第11回 資本主義と地球環境① 持続可能な成長のための諸論点
- 第12回 資本主義と地球環境② 「外部性」と環境政策
- 第13回 人の移動と世界経済① 日本の外国人労働者
- 第14回 人の移動と世界経済② 国際労働力移動と移民政策
- 第15回 まとめ - 資本主義世界経済は強者による支配に収斂するか？

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習姿勢およびリアクションペーパー：30%，期末レポート：70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、講義で指定された参考書に目を通して、世界経済の基本的なデータや各種トピックについて確認しておくことを勧める。事後学習としては、授業内容をよく復習し、講義や配布プリントで分からなかった点を自分なりに調べ、それでも解決できなければ次回の授業で質問してほしい。

履修上の注意 /Remarks

新聞やニュースを普段からチェックしておくことで、授業で解説する内容について理解を深めることができます。とくに、NHKのBS1で放送している「ワールドニュース」は、世界各地で起きていることを概観するうえでとても役立つ番組ですので、視聴することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞やニュース番組で「世界経済」という言葉に触れることは多いと思いますが、いざ具体的にイメージしようとしてみると中々難しいものです。この授業を通じて、皆さんが現代世界経済の全体像を掴むための基礎知識を得ることができればいいと思います。

キーワード /Keywords

グローバリゼーション, 国際貿易, 国際資本移動, 多国籍企業, 格差問題, 地球環境問題, 移民問題

途上国開発論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

グローバル化の波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されています。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどです。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはインド・バングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みます。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われていますが（隣国の韓国とは大違い）、同じ地球に生きる人間として途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えることに挑戦してください。最後に、本授業は、日本の過去・現在・将来において重要な関係を持つ途上国の諸問題の知識の吸収や理解に重点を置き、卒業以前に途上国そのものを自らの眼で見極めるといった実践力、卒業後も、途上国に関心を持ち学習するといった能力を培うことを主な目標としています。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せずに各回に配布する資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
- * 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年、3800円
- * 菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社、2001年、1900円
- * Robert B.Potter et al., Geographies of Development 3rd ed. Pearson Education, Harlow, 2008
- * 太田和宏『貧困の社会構造分析～なぜフィリピンは貧困を克服できないのか』法律文化社、2018年、5500円
- * 村山真弓・山形辰史編『知られざる工業国 バングラデシュ』アジア経済研究所 IDE-JETRO、2013年、5400円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---|-------------------|
| 第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起 | |
| 第2回 開発概念の検討～歴史的推移（SDGsまで） | 【持続可能な開発（SD）】 |
| 第3回 成長概念と貧困概念～貧困線とアマルティア・セン考え方 | 【貧困概念】【アマルティア・セン】 |
| 第4回 急速の経済発展～インドのIT産業を事例として | 【IT産業】 |
| 第5回 人口問題～中国の1人っ子政策の転換と先進国の少子化対策 | 【一人っ子政策】【少子化】 |
| 第6回 都市産業問題～インフォーマルセクターの存在 | 【インフォーマルセクター】 |
| 第7回 居住問題～スラム・スクオッタ居住区 | 【スクオッタ居住区】 |
| 第8回 資源分配をめぐる（エネルギー技術のあり方） | 【資源配分】 |
| 第9回 環境問題～森林破壊、海洋汚染など | 【森林破壊】 |
| 第10回 環境問題～都市問題、特に廃棄物管理問題を中心に | 【廃棄物管理問題】 |
| 第11回 保健・医療問題～感染症、下痢を中心に | 【感染症】 |
| 第12回 途上国での農漁村での農業・漁業の在り方 | 【農業・漁業】 |
| 第13回 途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA | 【ODA】 |
| 第14回 台頭するNGO～インド・バングラデシュの事例より | 【NGO】 |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、日ごろから途上国に関心を持ち、新聞などから記事を抽出、また、関係文献を読んでおくこと、事後学習は、授業で習ったことをノートに再度まとめ、コメントを加えておくことなどの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

時々小課題の提出を求めます。努めて途上国に関する様々な新聞記事を読み、テレビ番組を視聴しててください。英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りがないようにしてください。同時に、授業の反復練習をしつつ、それを参考に自主的に関係文献を読み、まとめる作業を行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。もっと本を読もう。時には、お金を貯めて、世界に飛び立とう。自らの世界観の狭さやちっぽけさに気付こう。

キーワード /Keywords

開発途上国（インド・バングラデシュなど）、アマルティア・セン、環境問題、持続可能な開発目標（SDGs）

アメリカ経済【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

東京オリンピックの開催される2020年は、アメリカでは大統領選挙の年に当たります。トランプ大統領は再選のために経済活性化策を推進するでしょう。昨年も中央銀行フェッドは量的緩和からの出口戦略を一時中断して、金利引き下げに動きました。世界経済の成長にとってリスク要因となっていた米中貿易戦争も終息に向かっていくことが期待されます。

貿易、投資、金融の面で日本との深い結びつきを持つアメリカ経済の動向は、非常に密接に私たちの仕事や生活に影響を与えます。この講義ではアメリカ経済の全体と、産業、金融、経済成長など各側面を、データを使って確認した上で、日本経済と比較しながら分かりやすく説明します。

学部を超えて、現代日本を生きていくうえで必須の知識がここにはあります。前提となる経済学の知識も分かりやすく説明してきますので、いずれの学科の人たちでも無理なく受講できます。

教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

坂出健・秋元英一・加藤一誠『入門アメリカ経済Q&A100』中央経済社、2019年5月。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 アメリカの産業と所得
- 2 アメリカの所得分配と社会保障
- 3 アメリカ家計の消費と貯蓄
- 4 アメリカの社会階層と失業
- 5 アメリカ企業と収益
- 6 アメリカ企業と投資
- 7 アメリカ政府と税制
- 8 アメリカの政府支出と財政
- 9 アメリカの通貨制度
- 10 アメリカの金融システム
- 11 アメリカ経済と金利
- 12 アメリカの国際収支
- 13 アメリカ経済と為替レート
- 14 アメリカ経済と物価
- 15 アメリカの経済成長と景気

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題が2問出題されます。

試験の出題範囲は時期が来たらポータルサイトを通じて連絡します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習では、テキストの当該章を読んでください(30分)。

事後学習では、その日の講義内容を記憶し、コラムの計算問題を解いて答え合わせをしておいてください(30分)。

履修上の注意 /Remarks

受講すれば、みんなの頭にアメリカ経済のはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じられます。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私は福岡大学教授(経済学部・大学院経済学研究科)なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール(yamazaki@kitakyu-u.ac.jp)に送ってください。

キーワード /Keywords

World Largest Economy 消費大国 サービス経済化 Fed 経常収支赤字 所得格差 投資銀行 ファンド 住宅投資 基軸通貨

アメリカの社会I【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の人種的・民族的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観するとともに、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から顕著なものを取り上げ、各項目について具体的事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。

教科書 /Textbooks

明石紀雄・飯野正子『エスニック・アメリカ 多民族社会における統合の現実（第3版）』有斐閣選書、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大下尚一ほか編『史料が語るアメリカ：メイフラワーから包括通商法まで』有斐閣、1989年。
その他多数。授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション—近年のトピック / 文献紹介
- 第2回 多民族国家アメリカ—概観
- 第3回 同化の諸概念
- 第4回 新大陸で出会った三つの人種集団
- 第5回 アングロ・アメリカ社会の形成
- 第6回 国民的統合に向けて
- 第7回 2017年の最もカレントなトピックについて（小テストを兼ねる）
- 第8回 「新移民」の流入（1）—イタリア移民、ユダヤ人移民
- 第9回 「新移民」の流入（2）—中国と日本からの移民
- 第10回 自由の女神の涙
- 第11回 多民族国家アメリカ—続く移民の流れ
- 第12回 平等の達成（1）—移民法の改正、先住民
- 第13回 平等の達成（2）—アフリカ系アメリカ人、アジア系アメリカ人
- 第14回 真の平等を求めて—多様性と統合の調和
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 小テスト...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業の前に、教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

高等学校で世界史を履修していない受講生は、世界史の教科書を読んでおくことと良い。個人的な学習のための参考書等は授業中に指示する。開講時期に起こったニュース等に関連させた形で、適宜、その歴史的背景などの解説を行うので、上記スケジュールや順序は変更の可能性はある。その場合は授業中に指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの社会II【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の民族的・人種的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観すると共に、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から、顕著なものを取り上げ、各項目について具体的な事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。授業を通して、アメリカ合衆国社会の特性について、総合的に理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

上杉忍『アメリカ黒人の歴史』中公新書、2010年
ジェームス・M・ヴァーダマン『黒人差別とアメリカ公民権運動：名もなき人びとの戦いの記録』（集英社新書、2007年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○北美幸『公民権運動の歩兵たち-黒人差別と闘った白人女子学生の日記』彩流社、2016年
などをはじめとして、講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス—近年のトピック / 文献紹介
- 第2回 19世紀前半までの黒人
- 第3回 南北戦争と奴隷制① - 綿花王国
- 第4回 南北戦争と奴隷制② - 戦争の経過
- 第5回 南部再建と人種関係の再編
- 第6回 近代黒人解放運動
- 第7回 二つの世界大戦と「市民」への道程
- 第8回 公民権運動と映画
- 第9回 公民権運動① - ブラウン判決以前の公民権運動
- 第10回 公民権運動② - 1950年代後半から1960年代前半
- 第11回 公民権運動③ - 混迷の時代へ
- 第12回 公民権運動を支えた人々
- 第13回 ポスト公民権運動期の黒人
- 第14回 アメリカにおけるアフアーマティヴ・アクションの導入と展開
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 課題(復習小テスト)...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業の前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講にあたって、高等学校での世界史・日本史履修の有無は問わないが、世界史の教科書を読んでおくこと良い。個人的な学習のための参考図書などは、授業中に指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考え方を持つ政治家や官僚などが存在する。例えば、アメリカのトランプ大統領である。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考え方を持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

この講義の目的は、国際経済関連のニュースに興味を持つようになり、ニュースを自分なりに判断できるようになることである。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グローバル化時代の海外戦略-』創成社(2016年)
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【保護貿易のメリット・デメリット】
- 第3回 保護貿易主義者の主張【自由貿易理論における仮定への批判】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート15% 学期末試験85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

最初に参考書を紹介するので、それらの参考書における対応する講義内容にあらかじめ目を通しておくと、授業をより理解しやすくなる。講義がわかりにくいと感じた場合には、参考書の対応する部分を精読すると、理解はより深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 比較優位 トランプ米国大統領

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論1において講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、対外直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである対外直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。対外直接投資の結果として、海外子会社とともに海外孫会社の増加が見られる。海外子会社や海外孫会社の増加は、日本に何をもたらすのであろうか。その意味することともに、なぜ増加しているのかなども紹介する。この講義の目的は、国際経済関連および海外に進出する日本企業にかかわるニュースに関心を持ち、ニュースに対して自分なりの判断ができるようになることである。

テーマ：海外子会社と海外孫会社

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外子会社の意思決定-グローバル化時代の海外戦略-』創成社、2016年出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 直接投資理論を紹介1【直接投資】
- 3回 直接投資理論を紹介2【直接投資】
- 4回 対外直接投資概説【直接投資】
- 5回 中国における海外子会社と海外孫会社【中国】
- 6回 ASEAN4における海外子会社と海外孫会社【ASEAN4】
- 7回 アジANIESにおける海外子会社と海外孫会社【アジANIES】
- 8回 ヨーロッパにおける海外子会社と海外孫会社【ヨーロッパ】
- 9回 アメリカにおける海外子会社と海外孫会社【アメリカ】
- 10回 組織モデル【組織】
- 11回 海外子会社の役割【海外子会社】
- 12回 富士ゼロックス事例【事例】
- 13回 チャーター逸脱事例【事例】
- 14回 ポスト・トランスナショナル組織【組織】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート15% 期末試験85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書はあらかじめ読んでおくことを前提としているので、講義に合わせて予習しておくこと。また、直接投資に関連する文献は多くあるので、講義に合わせて予習していることがより望ましい。

履修上の注意 /Remarks

出席を重視している。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃の国際(経済)関連ニュースに注目してほしい。

キーワード /Keywords

海外子会社 海外孫会社 直接投資理論

地域研究入門 (中国) 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業は、主に社会科学の観点から中国を研究するための基礎知識を養うことを目的とする。共産党政権成立から70年を迎えた中国は、経済・政治・軍事の面で世界有数の大国となったが、その未来は決して楽観できない状況にある。日本にとって重要な隣国であり、国際社会へも大きな影響を及ぼす中国を、どのように理解すればよいのか。そのような問題意識をもって、共産党一党独裁下の政治経済体制への理解を深めるとともに、経済格差や少数民族問題など多くの課題を抱える中国の現状について解説する。なお、授業では日中関係や台湾の問題についても取り上げる。

教科書 /Textbooks

初回の授業で知らせる。
その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

興梠一郎『中国激流 13億のゆくえ』岩波新書、2005年(○)。
下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年(○)。
毛里和子『日中関係 戦後から新時代へ』岩波新書、2006年(○)。
遊川和郎他著『中国との距離に悩む周縁』亜細亜大学アジア研究所、2016年(○)。
吉岡桂子『愛国経済 中国のグローバル化』朝日新聞出版、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～地域研究としての中国研究、授業の進め方について
 - 2回 中国研究の基礎知識と概論
 - 3回 共産党一党支配体制I【経済体制】
 - 4回 共産党一党支配体制II【政治体制】
 - 5回 中央と地方
 - 6回 情報統制
 - 7回 経済発展と経済格差
 - 8回 汚職腐敗、人権、民主
 - 9回 民族
 - 10回 一国両制
 - 11回 大国になった中国と国際関係
 - 12回 日中関係
 - 13回 日台関係
 - 14回 中台関係
 - 15回 まとめ
- (順番が入れ替わることがあります)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で資料・文献を指定した場合は期日までに必ず熟読しておくこと。
授業理解に有益な読書、映像視聴などを自主的に行うこと(図書館のDVDなどを活用してください)。
新聞(紙面)を読む習慣をつけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1. 中国の変化は大変激しいので、日々、新聞の紙面で何が起きているのが確認することが重要です。授業では、その日の講義内容と関連する最新ニュースを取り上げることがあります。
2. 本学の図書館には、読みやすい一般書から研究書まで、中国・台湾・香港についての理解を助ける書籍がたくさん所蔵されています。授業で関心を持ったら、そのトピックについての本を読んでみてください。授業がもっと面白く感じられるはずです。

キーワード /Keywords

中国近現代史I【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

「19世紀後半～20世紀初頭の中国」
アヘン戦争による五港開港から辛亥革命までの政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。

教科書 /Textbooks

田中仁・菊池一隆等著『新図説中国近現代史』（法律文化社）
※初回に必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代中国への視座と中国近現代史を学ぶ意味
- 2回 大清帝国素描(1)：統治理念と版図の形成
- 3回 大清帝国素描(2)：対外観念と国際関係
- 4回 アヘン貿易とアヘン戦争
- 5回 太平天国
- 6回 洋務運動
- 7回 辺境の喪失
- 8回 朝鮮問題と日清戦争(1)：日清の朝鮮支配争い
- 9回 朝鮮問題と日清戦争(2)：下関条約と東アジア国際関係の変動
- 10回 変法自強運動
- 11回 義和団事件
- 12回 光緒新政
- 13回 清朝打倒の革命運動
- 14回 辛亥革命と清朝の滅亡(1)：鉄道国有化問題
- 15回 辛亥革命と清朝の滅亡(2)：武昌起義と清朝の滅亡

成績評価の方法 /Assessment Method

出席回数が規定内であれば、下記のように評価する。出席回数が規定に照らして不足する場合は評価対象から除外する。
試験...80% 小テスト等...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストとレジュメに目を通して出席すること。授業後に当日学習したテキストとレジュメを学習すること。

履修上の注意 /Remarks

高校時代に日本史か世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史・世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

キーワード /Keywords

19世紀後半～20世紀初頭、大清帝国、アヘン戦争、太平天国、洋務運動、辺境喪失、変法自強運動、義和団事件、光緒新政、反清革命運動、辛亥革命

中国近現代史Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

「20世紀の中国」
中華民国期(1912～49年)の政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。また、中華人民共和国の歩みも講じる。

教科書 /Textbooks

田中仁・菊池一隆等著『新図説中国近現代史』（法律文化社）
※初回に必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中華民国の出発と軍閥混戦(1)：袁世凱政権の諸相
- 2回 中華民国の出発と軍閥混戦(2)：北洋軍閥の抗争
- 3回 日本の対華21ヶ条要求
- 4回 新文化運動・五四運動
- 5回 第一次世界大戦下の経済発展
- 6回 戦間期とワシントン体制
- 7回 第一次国共合作と国民革命(1)：国共合作の成立
- 8回 第一次国共合作と国民革命(2)：上海政変と国共分離
- 9回 九・一八事変と抗日民族統一戦線(1)：柳条湖事件と満州国の成立
- 8回 九・一八事変と抗日民族統一戦線(2)：西安事変と抗日民族統一政権の成立
- 9回 日中全面戦争の勃発
- 10回 日中全面戦争からアジア太平洋戦争へ
- 11回 国共内戦と中華人民共和国の成立
- 12回 毛沢東時代の中華人民共和国
- 13回 鄧小平と改革開放
- 14回 中華人民共和国と辺境
- 15回 戦後の日中関係

成績評価の方法 /Assessment Method

出席回数が規定内であれば、下記のように評価する。出席回数が規定に照らして不足する場合は評価対象から除外する。
試験...80% 小テスト等...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストとレジュメに目を通して出席すること。授業後に当日学習したテキストとレジュメを学習すること。

履修上の注意 /Remarks

高校時代に日本史か世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史・世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

キーワード /Keywords

中華民国、軍閥混戦、対華21ヶ条要求、新文化運動、五四運動、ワシントン体制、第一次国共合作、国民革命、九・一八事変、日中全面戦争、国共内戦、中華人民共和国、毛沢東、鄧小平、日中関係

中国語音声学I【昼】

担当者名 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業では、まず一般音声学の基礎的知識を学びます。その際に、なじみのある英語や中国語、私たちが話す日本語の音声現象を例に挙げ、音声学に対する理解を深めていきます。国際音声記号 (IPA) についても触れ、その知識と理論についても学びます。次に一般音声学の基礎的知識をもとに、中国語の音節の仕組み、声母・韻母・声調の発音方法などについて講義をします。受講生自身の中国語の発音を振り返りながら、中国語音声学の知識を身につけ、より良い発音を習得することを目標とします。

教科書 /Textbooks

佐藤昭 編著 『中国音声学概説』
教科書購入時期については、4月中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

竹内京子・木村琢也著 『楽しい音声学』 ころしお出版 2019年
川原繁人 『ビジュアル音声学』 三省堂 2018
日下恒夫 『アタマで知り、カラダで覚える中国語の発音』 アルク 2007年
川原繁人 『音とことばのふしぎな世界—メイド声から英語の達人まで』 岩波書店 2015年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

漢字と音声、日本語・中国語・英語の音声的特徴、「普通話」の音節構造とその特色、発音表記法の問題など中国語の音声に関わるさまざまな事象についてテーマ別に講義していきます。

- 1回 第1章 文字と音声
- 2回 第1章 文字と音声 日本語の文字、発音に関するDVD鑑賞
- 3回 第2章 音声学の基礎知識(1) ①発音器官(音声器官)について
- 4回 第2章 音声学の基礎知識(1) ②調音器官について
- 5回 第3章 音声学の基礎知識(2) 一言語音と音声記号- ①子音の分類
- 6回 第3章 音声学の基礎知識(2) 一言語音と音声記号- ②母音の分類
- 7回 第4章 日本語の音節と中国語の音節 ①日本語の音節
- 8回 第4章 日本語の音節と中国語の音節 ②中国語の音節
- 9回 第5章 中国語の声母とその発音
- 10回 第6章 中国語の韻母とピンイン表記
- 11回 第7章 韻母の発音 ①主母音(単母音、複母音)
- 12回 第7章 韻母の発音 ②日本語と中国語の母音の比較
- 13回 第8章 中国語の基本音節表
- 14回 第9章 声調について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験…60% 小テスト、課題提出など…40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に予習(教科書に目を通すこと、中国語の語彙調べなど)をしておきましょう。
次の授業では、前回の授業内容の理解度を測るための小テストを実施します。このため授業後には、きちんと宿題や復習をしておくことが大事です。

履修上の注意 /Remarks

『中国語学概論I』を履修するとより理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書は毎年少しずつ内容が変更されており、ページ数や表が異なります。必ず購入してください。
本講義は、外国語である中国語の発音習得に役立つ内容が多く含まれています。理解できたものを実践の場で生かすように心がけてください。

キーワード /Keywords

中国語 発音 調音 音声記号

中国語音声学II 【昼】

担当者名 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業では、前半は、現代中国語の音声に関する各種の基本事項について学び、後半は中国語の発音の歴史について学ぶ予定です。
具体的にはまず中国語の兒化韻、轻声、変調など、1音節または2音節レベルの音声現象について講義します。次に、二音節以上、文レベルでの発音の仕方や理論を学びます。ここでの知識や理論を用いて、自身の発音を振り返りつつ、より正確な発音ができるようになることを目指します。最後に、中国語の発音が古代から現代にかけていかに変化発展してきたかということについて、唐詩や漢字音資料、方言音などを言語資料として取り上げて講義します。

教科書 /Textbooks

佐藤昭編著『中国音声学概説』2019年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川原繁人著『音とことばのふしぎな世界 - メイド声から英語の達人まで』岩波書店、2015年
日下恒夫著『アタマで知り、カラダで覚える中国語の発音』アルク、2007年
大島正二『中国語の歴史 - ことばの変遷・探求の歩み』大修館書店、2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業の進度は以下の通りです。

- 1回 第10章 轻声の発音と重音・軽音 (中国語の轻声について)
- 2回 第10章 轻声の発音と重音・軽音 (中国語の重音・軽音)
- 3回 第11章 さまざまな発音変化と多音字 (「不」「一」の声調変化)
- 4回 第11章 さまざまな発音変化と多音字 (多音字)
- 5回 第12章 アル化韻母 (アル化韻母について)
- 6回 第12章 アル化韻母 (接尾辞「儿」の機能)
- 7回 第13章 文の発音 (語法重音・対比重音)
- 8回 第13章 文の発音 (プロミネンス・イントネーション)
- 9回 第14章 中国の古代音と現代音 付録1 中国古典詩の読み方
- 10回 第14章 中国の古代音について (唐詩押韻字とその発音変化)
- 11回 第15章 中古音から現代音への変化 (中古から現代までの主な声母の変化)
- 12回 第15章 中古音から現代音への変化 (中国語の漢字と発音に関するDVD)
- 13回 第16章 中国の方言と方言区分 (中国語の方言)
- 14回 第16章 中国の方言音と方言区分 (北京音と各地の方言音との比較)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70% その他 (小テスト、授業コメントなど)・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に予習 (テキストに目を通す、中国語の語彙調べなど) をしっかり行うこと。
授業内容を把握し、知識が定着しているかを確認するために小テストを実施する。
受講生は授業後、次回授業の小テストに向けて、授業内容をきちんと復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

「中国語学概論II」を履修しておくこと、理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語 普通話 発音 轻声 兒化韻

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説していきます。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、2020年、税別1300円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。ノートをしっかりとって下さい。最新の研究成果を用いて講義を進めます。

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません(観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

- 第I部 文化の基礎としての家族
- 第2回 伝統的家族の多様性
- 第3回 家族観の変容と近代
- 第4回 親族という認識
- 第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第6回 ジェンダーと伝統文化
- 第7回 文化相対主義の考え方
- 第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義
- 第9回 中間テスト

- 第II部 文化と世界観
- 第10回 儀礼と世界観
- 第11回 宗教とコミュニティ
- 第12回 さまざまな信仰心
- 第13回 不幸への対処としての呪術
- 第14回 中間テストの解説
- 第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。
※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・Moodleで適宜ミニ課題を出します。締め切りまでに提出してください。
- ・講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

人間と文化【夜】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、提出課題の不正、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要になった時に努力すればすぐ入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係、SDGs 不平等をなくす

ことばの科学【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子 (編著) 『形態論』 (朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻)。朝倉書店、2016年。¥2700 + 税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄 (編著) 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー (著) 椋田 直子 (訳) 『言語を生みだす本能(上)・(下)』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業時に指示した文献の講読
- 事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点(人間関係)【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

可能性としての歴史【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていたらだろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 学説の整理【15年戦争】【ファシズム】【ナチズム】【共産主義】【軍国主義】
- 3回 政党内閣と満州事変【「満州国」】【関東軍】【五・一五事件】
- 4回 軍部の台頭【二・二六事件】【国体明徴運動】【高橋是清】
- 5回 日中戦争【近衛文麿】【大政翼賛会】
- 6回 ヒトラーの台頭【暴力】【国民社会主義ドイツ労働者党】
- 7回 日独伊ソの体制比較【政軍関係】【全体主義】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【オーストリア併合】【ミュンヘン会談】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【「最終的解決」】
- 10回 日独伊三国軍事同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】【日米交渉】
- 12回 太平洋戦争1【東条英機】【戦時体制】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】【日ソ戦争】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに高校教科書(「日本史」「世界史」)レベルの文献の該当箇所に目を通しておいて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。ノートはしっかりとって下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていききたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

戦争と平和【夜】

担当者名
/Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
	○	○	○								

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサビエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサビエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス(心の健康)の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス(心の健康)」を多角的かつ発達の視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス(社会的健康)やSDGs(持続可能な開発目標)にも触れる。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017 定価2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とそれの対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理・LGBTの理解
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解 1...ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解 2...実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力 1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力 2……人権と対話の文化を・SDGs(持続可能な開発目標)の理解
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%) ②定期試験(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にしていくことが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【夜】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、自己分析を通して、自らのを客観的に理解し、自己肯定感を高めるための方法について考えていきます。また、実際の事例を通し、メンタルヘルスが不調とはどういう事なのかを考えていきます。

教科書 /Textbooks

なし。適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 自己分析①【心理テスト】
- 第3回 自己分析②【リフレーミング、ストレングス・パースペクティブ】
- 第4回 精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
- 第5回 精神病理の紹介②【人格障害】
- 第6回 自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
- 第7回 自己覚知②【ライフヒストリー】
- 第8回 自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
- 第9回 リフレッシュ【感動、感謝】
- 第10回 事例検討①【非行】
- 第11回 事例検討②【虐待】
- 第12回 事例検討③【ホームレス】
- 第13回 事例検討④【孤立、社会的排除】
- 第14回 事例検討⑤【障害】
- 第15回 受援力、援助力

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。
 メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる(得意)、できない(不得意)などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
 実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
 授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
 本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

現代を生きるわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。「こころ」を科学的に調べるにはどうすればいいのでしょうか？医療現場のように血液を採集してその人の「身体の状態」はわかっても、その人の「こころ」がわかるわけでもありません。

「こころ」はそれだけではありません。目の前のリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを、目の網膜の中にあるのではなく、あそこのテーブルの上にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、噛むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。

「こころ」は目に見えるものではないので、心理学では人の行動を観察することから始めます。観察するためには、行動を観察するだけでなく、質問にハイ・イエで答える単純なものから、実験室でモニター画面を見て答えてもらったり、そのときの身体の反応を測ったりするものまでさまざまです。心理学の研究者は、さまざまな側面から「こころ」についてアプローチを行っています。こういった基礎的な面を明らかにした上で、「こころ」の問題で苦しさや困難を抱えている人たちを支えていこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から見た「こころ」がこんなにも違って見えるのかについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 福田恭介 (2018) ペアレントトレーニング実践ガイドブック - きっとうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版○行場次朗・箱田裕司 (2014) 新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 福村出版
- 三浦麻子・佐藤博 (2018) なるほど！心理学観察法 北大路書房
- 丸野俊一・子安増生 (1998) 子どもが「こころ」に気づくとき ミネルヴァ書房
- やまだようこ (1987) こぼの前のこぼ 新曜社
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?自閉症のおともだち ミネルヴァ書房
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち ミネルヴァ書房
- 高山恵子編 (2006) ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- 神奈川LD協会編 (2006) ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- 奥村隆 息子と僕のアスペルガー物語 <https://gendai.ismedia.jp/list/serial/okumura>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: 心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
- 2: 知覚1：ものが見えるとは？
- 3: 知覚2：色はなぜ見える？
- 4: 知覚3：形はなぜ見える？
- 5: 知覚4：どうやって奥行きや動きを判断している？
- 6: 目の動きを観察して「こころ」を探る
- 7: まばたきを観察して「こころ」を探る
- 8: 注意1：どうして騒がしい中でも会話ができるのか？
- 9: 注意2：意外と見落としやすい注意の機能
- 10: 数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11: 昔の記憶は忘れることはない
- 12: 発達1：「こころ」どのように芽生えてくる？
- 13: 発達2：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
- 14: 発達3：発達に苦しさを抱えるのはなぜ？
- 15: まとめ：いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント：30点
レポート：30点
期末試験：40点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

こちらからのコメントへの回答を参考にしながら、もっとも関心のある本やウェブサイトを読んで、所定の書式のレポートに要約し、200字程度のコメントを書いてもらいます。

現代人のこころ【夜】

履修上の注意 /Remarks

1. 授業を聞いて毎回コメントを書いてもらいます。
2. 次の時間、コメントにはできるだけ回答したいと思います。
3. 回答内容には、関連する本やウェブサイトを紹介しますので、それに目を通すと理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるよういろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

知覚，目の動き，注意，短期記憶，長期記憶，ワーキングメモリー，心の発達，発達障害

現代正義論【夜】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房、2010年)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房、2010年)
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』(ミネルヴァ書房、2015年)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房、2006年)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社、1995年)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社、1997年)
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回扱うテーマについて、自ら予習しておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

市民活動論 【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」「社会参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。
「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 20%
期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

国際社会論【夜】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) 国際的な人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それとともに、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきている。
授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、国際人口移動について概説する。その上で、日系ブラジル人社会、在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係の事例をもとに、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて実証的に考察していきたい。これらを通して、グローバル化が地域(ローカル)に及ぼす影響を、生活の場から考える視点を身につける。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房、2016年、¥3024
 - 『多民族化社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店、2010年、¥2700
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房、絶版
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会、2005年、¥4536
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 エスニシティ活性化の理論
- 第4回 グローバル化の進展と国境を越えた人口の移動
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1)【ヨーロッパの事例】
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2)【移民と階級、教育、政治】
- 第7回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(1)【移民の理論】
- 第8回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(2)【移住システムと移民コミュニティ】
- 第9回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会問題発生メカニズム】
- 第10回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(1)【在日朝鮮人とは】
- 第11回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(2)【多文化コミュニティ形成の条件】
- 第12回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会移動】
- 第13回 排外主義と排外意識 - 排外意識形成メカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)
授業テーマと関連のある新聞記事や文献に(できるだけ)目を通すようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容を反復するとともに、移民や排外主義に関する新聞・雑誌などの記事に目を通し、グローバル化が地域に及ぼす影響について考えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通してグローバル化の進展を生活の場からとらえ、分析する視角を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション – グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 国内都市間競争とグローバル化【人口減少社会】【インバウンド】
- 9回 社会インフラの国際技術移転【外部効果】【公共ガバナンス】
- 10回 地域政策と国際化(1)【交流人口】【インバウンド振興】
- 11回 地域政策と国際化(2)【越境する地域問題】【政策手法の変化】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

近現代の世界史のなかに東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の発展を位置づけ、国際関係史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在との対話」と言われるが、実は「過去と将来との対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構想・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

ガイダンスの時にあらためて紹介する。
第1回～第8回については、五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)[本体価格2,000円]を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。
後半部分の朝鮮半島にかんする記述では、長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』(慶応義塾大学出版会 2013)が役立つ。その他、後半で使う参考書として、図書館所蔵のものをあらかじめ示すと、
日中韓3国共通歴史教材委員会編『未来をひらく歴史 東アジア3国の近現代史』(高文研、2005)
日中韓3国共通歴史教材委員会編『新しい東アジア近現代史』上・下(日本評論社、2012)がある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス、
- 2回 占領下日本の外交 【占領政策】【日本国憲法制定】【封じ込め戦略】
- 3回 日米同盟の形成 【中ソ同盟】【朝鮮戦争】【サンフランシスコ講和条約】【日米安全保障条約】
- 4回 岸信介政権の外交 【1955年の政治体制】【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 5回 池田勇人政権の外交 【高度経済成長】
- 6回 佐藤栄作政権の外交 【沖縄復帰】【非核三原則】【核密約】
- 7回 田中角栄の時代と中曽根康弘の外交 【石油危機】
- 8回 冷戦の終結と21世紀の世界 【軍縮】【湾岸戦争】【テロとの戦い】
- 9回 中国、日本、朝鮮の開国と当時の国際情勢 【東アジア国際秩序】【自由貿易】【朝鮮問題】
- 10回 日清・日露戦争と朝鮮(韓国) 【大韓帝国】【日英同盟】【日露交渉】
- 11回 日本の韓国侵略と列国 【保護国化】【統監政治】【韓国併合】
- 12回 日本の朝鮮統治と国際関係 【武断政治】【三・一運動】【文化政治】
- 13回 国際情勢の緊迫と朝鮮統治 【満州事変】【大陸兵站基地】【日中戦争】
- 14回 日本の敗戦と朝鮮の南北分断 【皇民化政策】【太平洋戦争】【朝鮮問題】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

前半レポート 50% 後半レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照らしながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

エンドユーザコンピューティング【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます（必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分）。

その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

エンドユーザコンピューティング 【夜】

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ，SDGs 4．質の高い教育を，SDGs 8．働きがい・経済成長，SDGs 9．産業・技術革命，SDGs 10．不平等をなくす，SDGs 17．パートナーシップ

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報システムの利用について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【Moodle】【タイピング】
- 2回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】
- 3回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 4回 関数を活用した計算【セルの参照】【合計】【平均】
- 5回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 6回 グラフ作成の応用【複合グラフ】
- 7回 情報倫理とセキュリティの知識【著作権】【個人情報保護】
- 8回 電子メールの送受信方法【電子メール】【ネットワークマナー】
- 9回 簡易データベース機能の利用【並べ替え】【抽出】
- 10回 データ処理演習1(実データの解析,他のソフト等との連携)
- 11回 データ処理演習2(実データの解析,データの可視化)
- 12回 データ処理演習3(実データの解析,相関,散布図)
- 13回 少し高度なExcelの活用法【Vlookup】【ピボットテーブル】
- 14回 データ処理総合演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提出する課題 ... 50%、
授業中に提示する課題 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodleに掲載されている資料等を事前に参照しておくこと。
タイピングなどのコンピュータ操作については、各自で日頃からの確にできるように努力すること。
授業中に出された課題に事後学習として取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作(キーボードでの文字入力、マウス操作など)ができるようになっておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度や情報システムの状況によって「授業計画・内容」を変更することがある。その際は授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

国際経済論I【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

< 本講義の概要 >

- 1、国家間の貿易の発生する仕組みや貿易の利益など伝統的な貿易理論を学ぶ。
- 2、輸入関税、輸出補助金など貿易政策の経済効果を部分均衡分析を用いて学ぶ。
- 3、地域貿易協定締結の経済的影響について理解する。

< 本講義の主な到達目標 >

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』(第2版)(新世社)
石川城太他著『国際経済学をつかむ(第2版)』(有斐閣)
石井安憲他著『入門・国際経済学』(有斐閣)
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』(有斐閣アルマ)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル(1)【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル(2)【貿易パターン】【相対価格の決定】
- 4回 リカード・モデル(3)【貿易の利益】
- 5回 ヘクシャー=オリーン・モデル(1)【要素賦存】【要素集約度】
- 6回 ヘクシャー=オリーン・モデル(2)【要素賦存と生産】【貿易パターン】
- 7回 ヘクシャー=オリーン・モデル(3)【財価格と要素価格】【要素価格均等化】
- 8回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 9回 貿易政策の分析(1)【輸入関税】
- 10回 貿易政策の分析(2)【輸入数量制限】
- 11回 貿易政策の分析(3)【輸出補助金】【輸出自主規制】
- 12回 貿易政策の分析(4)【有効保護】
- 13回 地域貿易協定(1)【自由貿易協定】【関税同盟】
- 14回 地域貿易協定(2)【貿易創出効果】【貿易転換効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 15% レポート 15% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』(日本評論社)を参照されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

比較優位、要素賦存、貿易政策、自由貿易協定

国際経済論II 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		○	○	○								

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

< 本講義の概要 >

- 1、不完全競争市場の下で、貿易政策の経済効果を学ぶ。
- 2、国際労働移動、海外直接投資が起こる理由と経済的影響について学ぶ。
- 3、貿易政策と環境政策のお互いに与える影響を理解する。

< 本講義の主な到達目標 >

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』(第2版)(新世社)
石川城太他著『国際経済学をつかむ(第2版)』(有斐閣)
石井安憲他著『入門・国際経済学』(有斐閣)
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』(有斐閣アルマ)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 不完全競争と国際貿易(1)【国内独占】
- 3回 不完全競争と国際貿易(2)【貿易の利益】
- 4回 不完全競争と国際貿易(3)【ダンピング】【価格差別化】
- 5回 不完全競争と国際貿易(4)【産業内貿易】【独占的競争市場】
- 6回 不完全競争と貿易政策(1)【輸入関税】
- 7回 不完全競争と貿易政策(2)【輸入数量割当】
- 8回 不完全競争と貿易政策(3)【外国独占】【国際複占】
- 9回 不完全競争と貿易政策(4)【戦略的貿易政策】
- 10回 生産要素の国際移動(1)【海外直接投資】
- 11回 生産要素の国際移動(2)【国際労働移動】
- 12回 貿易と環境(1)【貿易政策から環境への影響】
- 13回 貿易と環境(2)【排出権取引】
- 14回 貿易と環境(3)【環境政策から貿易への影響】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 15% レポート 15% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、国際経済論Iをすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済論Iの履修済みが望ましい。

キーワード /Keywords

不完全競争、貿易政策、国際労働移動、海外直接投資、貿易と環境

中国語学概論Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN210M	◎	○			○
科目名	中国語学概論Ⅰ			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

世界には何千種類もの言語が存在するが、その中で中国語とはどのような言語であるかについて、言語学及び周辺学問の角度から学んでいく。本講義では、中国語の概説のほか、音声、文字、語彙等について論ずる。

教科書 /Textbooks

なし（毎回、資料を配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学習ハンドブック(改訂版)』相原茂編著、大修館書店
その他、授業中に随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 01回 オリエンテーション、概説
- 02回 中国語とはどんな言語か：中国語の特徴
- 03回 中国語とはどんな言語か：中国語の歴史、共通語と方言
- 04回 中国語の音声1（音声の基礎）
- 05回 中国語の音声2（中国語の音節構造）
- 06回 中国語の音声3（韻母の四呼・子音の分類・音変）
- 07回 中国語の音声4（音節構造の復習）
- 08回 中国語の文字1（漢字の歴史）
- 09回 中国語の文字2（漢字の構造）
- 10回 中国語の文字3（漢字の部首、筆画・筆順）
- 11回 中国語の文字4（簡体字）
- 12回 中国語の文字5（現在用いられている3種類の漢字）
- 13回 中国語の文字6（近代文字改革の歴史）
- 14回 中国語の文字7（中国建国前後の文字改革）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70% 平常点（課題・小テスト・受講態度等）...30%
出席が全受講回数の3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、次回の講義内容の関連項目について、予め自分なりの知識を得ておくことが望ましい。既習項目であれば、復習をしておくこと。必要に応じて課題を出すこともあり、課題については成績評価の対象となる。また、期末試験の他、ほぼ毎回、次の授業で確認テストを行うので、授業後は講義内容をきちんと復習しておくことが必要である。これも成績評価の対象となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語学概論II 【昼】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
											○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN211M	◎	○			○
科目名	中国語学概論II			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連 ※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。	

授業の概要 /Course Description

日本語や英語との比較・対照という視点も取り入れながら、中国語とはどのような言語かについて、言語学及び周辺学問の角度から学んでいく。本講義では特に中国語の文法、表現（発想の違い）について論ずる。

教科書 /Textbooks

なし（毎回、資料を配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『誤用から学ぶ中国語』（郭春貴著、白帝社）
『中国語わかる文法』（興水優・島田亜実著、大修館書店）
『イメージでスッキリわかる中国語文法』（古川裕著、アルク）
その他、授業中に随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 01回 オリエンテーション（前期答案返却、後期の予定）
- 02回 中国語の文法1（中国語文法の基礎知識）
- 03回 中国語の文法2（中国語の文法成分・単語と品詞）
- 04回 中国語の文法3（品詞1 名詞・方位詞・代詞）
- 05回 中国語の文法4（品詞2 数詞と量詞、区別詞）
- 06回 中国語の文法5（品詞3 動詞、助動詞、形容詞、副詞）
- 07回 中国語の文法6（品詞4 副詞、介詞）
- 08回 中国語の文法7（品詞5 接続詞、助詞、擬音詞、感嘆詞）
- 09回 中国語の文法8（フレーズと文法）
- 10回 中国語の文法9（フレーズの文法関係と品詞）
- 11回 中国語の文法10（補語について）
- 12回 中国語の文法11（まとめ）
※以下は、文法の理解程度に応じて
- 13回 中国語の表現1：あいさつ、親族名称と呼称
- 14回 中国語の表現2：人称代名詞、指示代名詞
- 15回 中国語の表現3：敬語、ボディランゲージ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70% 平常点（小テスト、課題・受講態度等）...30%
出席が全受講回数の3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、次回の講義内容の関連項目について、予め自分なりの知識を得ておくことが望ましい。既習項目であれば、復習をしておくこと。必要に応じて課題を出すこともあり、課題については成績評価の対象となる。また、期末試験の他、ほぼ毎回、次の授業で確認テストを行うので、授業後は講義内容をきちんと復習しておくことが必要である。これも成績評価の対象となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords